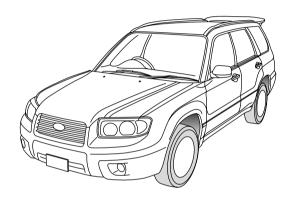
このたびは「フォレスター」を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は車両の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
また、法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任がうたわれております。別冊の「メンテナンスノート」と併せてお読みください。

- 交通ルール・マナーを守り運転しましょう。
- 自然環境保護にも気をくばりましょう。
- スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- 装備については販売店でカタログをご請求ください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が、傷害を受ける可能性のあることや、車体が損傷する可能性があることを、回避法とともに示しています。

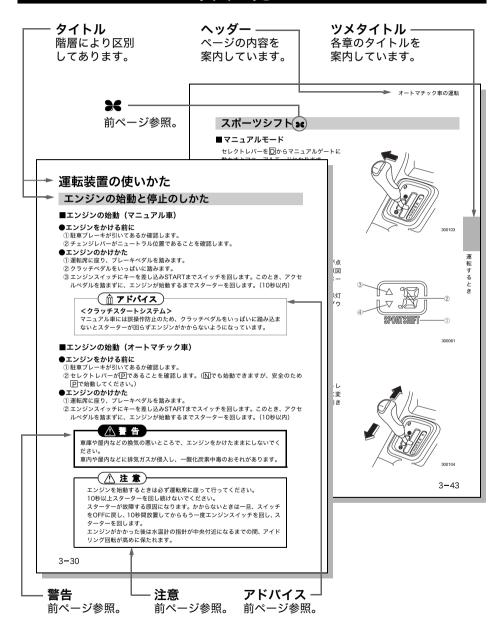
	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。
	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。

禁止行為はイラストに禁止マークが入っています。

	イラストに左記のマークを記載して禁止事項を示しています。

その他の表示

アドバイス	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
	グレード等により異なる装備については よつばマークがついています。

本文の見かた

このページはサンプルページです。記載されている内容は実際のお車とは異なります。

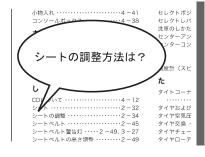
検索について

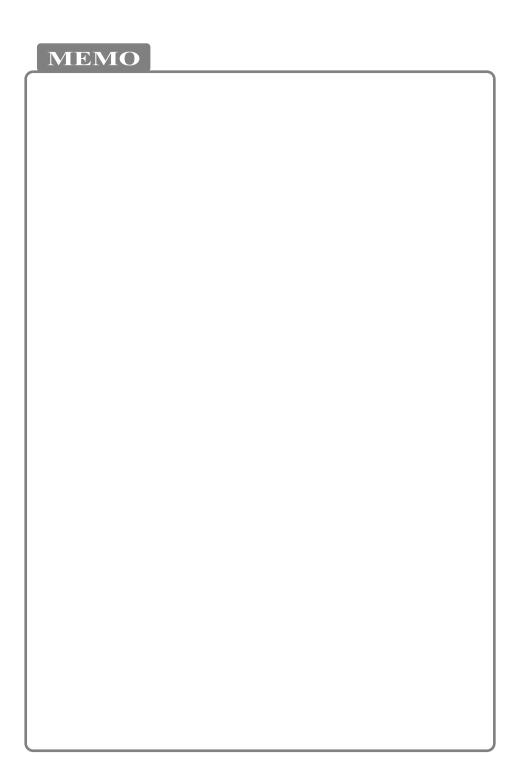
本書では、色々な方法で目的のものを検索できるようにしてあります。

タイトルから探す

本書の目次
ツメタイトル
各章の目次

場所から探す

イラスト目次……………… 0－1 ページ

名称から探す

さくいん ………… さくいん－1 ページ

本書の目次

イラスト目次

1 必読！安全で快適な運転のポイント 1－1
- ●お車をお使いいただく上で…1－2
- ●お出かけ前には…1－2
- ●お子さまを乗せるときの気くばり…1－7

2 運転する前に 2－1
- ●各部の開閉…2－2
- ●シート…2－24

3 運転するとき 3－1
- ●スイッチの使いかた…3－2
- ●メーター、表示灯、警告灯の見かた…3－18

4 室内装備品の使いかた 4－1
- ●エアコン…4－2

5 寒冷地での使いかた 5－1
- ●冬の前の準備、点検…5－2

6 日常点検・車の手入れ 6－1
- ●日常点検…6－2

7 万一のとき 7－1
- ●ジャッキ、工具、スペアタイヤ…7－2
- ●パンクしたタイヤの交換…7－5
- ●発炎筒について…7－10

8 サービスデータ 8－1

さくいん

1

●オートマチック車の特徴と運転上の注意…1－10
●走行するときには…1－14
●雪道走行するときには…1－20
●駐・停車するときには…1－21
●SRSエアバッグシステムについて…1－24
●燃料補給時の注意…1－25
●こんなことにも注意を…1－26
●保証書・メンテナンスノートについて…1－30
●環境にやさしい運転…1－31

2

●シートベルト…2－35
●SRSエアバッグシステム…2－49
●ハンドルとミラーの調整…2－64

3

●運転装置の使いかた…3－30
●マニュアル車の運転…3－33
●オートマチック車の運転…3－35
●AWD車の運転…3－47
●サスペンション…3－50
●VDC…3－51
●ブレーキ…3－56
●ハンドル…3－59

4

●オーディオシステム…4－9
●室内装備…4－30

5

●走行する前に…5－6
●走行するとき、駐車するとき、洗車するとき…5－8

6

●車の手入れ…6－9

7

●故障したとき…7－12
●けん引のとき…7－14
●オーバーヒートしたとき…7－18
●バッテリーが上がったとき…7－20
●事故が起きたとき…7－22

8

イラスト目次

インストルメントパネル周辺

ハンドル周辺

ワイパー／ウォッシャースイッチ…3－10
ライトスイッチ…3－5
方向指示レバー…3－9
フロントフォグランプスイッチ…3－14
000283
コイントレイ…4－37
ボンネットオープナー…2－17
フューエルリッドオープナー…2－15
光軸調整ダイヤル…3－7
リヤフォグランプスイッチ…3－14
VDC OFFスイッチ…3－53
フロントワイパーデアイサースイッチ…3－15

メーター・表示灯

＜４速オートマチック車＞

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

＜５速マニュアル車＞

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

＜６速マニュアル車＞

フューエルメーター（燃料計）…3−18
水温計…3−19
タコメーター（エンジン回転計）…3−18
方向指示器表示灯…3−21
外気温表示…3−23
オドメーター・トリップメーター…3−20
トリップ切り替え／トリップリセットノブ…3−21
ハイビーム／パッシング表示灯…3−21
スピードメーター…3−18
イモビライザー表示灯…3−25
リヤフォグランプ表示灯…3−24
000280

警告灯

＜4速オートマチック車＞

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

＜５速マニュアル車＞

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

＜６速マニュアル車＞

燃料残量警告灯…3－26
SRSエアバッグ警告灯…3－27
オートヘッドランプレベラー警告灯…3－29
シートベルト警告灯…3－26
ABS警告灯…3－27
ブレーキ警告灯…3－25
x1000r/min
km/h
FUEL DOOR
000281
エンジン警告灯…3－25
オイルプレッシャー警告灯…3－26
半ドア警告灯…3－26
チャージ警告灯…3－27

室内・前側

発炎筒…7－10
フロントシート…2－26
チルトステアリング…2－64
電動ガラスサンルーフスイッチ…2－21
スポットマップランプ…4－48
フロントヘッドコンソール…4－37
000290
駐車ブレーキレバー…3－32
前席用カップホルダー…4－30
パワーウインドゥスイッチ…2－11
電動リモコンドアミラースイッチ…2－65

室内・後側

センターコンソール…4－35
電源ソケット…4－42
後席用カップホルダー…4－30
リクライニング調整レバー…2－31
ルームランプ…4－47
000291
ロックノブ…2－32
中央席用シートベルト…2－42
カーゴルームランプ…4－49

荷室

ジャッキハンドル…7−2
ジャッキ…7−2
アンブレラボックス…4−40
トノカバー…4−41
000292
サブトランク…4−40
応急用スペアタイヤ…7−3
カーゴフック…4−44
カーゴルームバー…4−45
電源ソケット…4−42
買い物フック…4−45

外観

けん引フック…7−15
ボンネット…2−17
ワイパー…3−10
ドアの施錠・解錠…2−6
チャイルドプルーフ…2−10
タイヤ…6−5
000346
リヤワイパー…3−11
リヤゲート…2−19
フューエルリッド（燃料補給口）…2−15

1 必読！安全で快適な運転のポイント

お車をお使いいただく上で…………………… 1－2
お出かけ前には……………………………… 1－2
お子さまを乗せるときの気くばり ………… 1－7
オートマチック車の特徴と運転上の注意…… 1－10
走行するときには…………………………… 1－14
雪道走行するときには ……………………… 1－20
駐・停車するときには……………………… 1－21
SRSエアバッグシステムについて ………… 1－24
燃料補給時の注意…………………………… 1－25
こんなことにも注意を ……………………… 1－26
保証書・メンテナンスノートについて …… 1－30
環境にやさしい運転………………………… 1－31

お車をお使いいただく上で

■キーナンバープレート、セキュリティ IDプレートの保管

- キーナンバーは合いかぎを作るときに、セキュリティ IDナンバーは作った合いかぎをイモビライザーへ登録するときに、必要となる物です。これらのナンバーが打刻してあるプレートは盗難防止のため、車の中には置かず大切に保管してください。
- イモビライザー機能付車は、キーを紛失したときに、盗難事故を防ぐため全てのキーのイモビライザー再登録が必要となります。このとき、セキュリティ IDプレートと全てのキーをスバル販売店にお持ちになってください。

☆2−2ページ参照

■カスタマイズ機能

お客さまのお好みにより、以下の機能の設定を変更することができます。スバル販売店にて変更することができますので、詳しくはスバル販売店にご相談ください。

機能の内容	設定	初期設定
アンサーバックブザーの作動	作動あり／作動なし	作動あり

☆2−7ページ参照

お出かけ前には

■点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。

☆別冊のメンテナンスノート参照

■タイヤ空気圧を点検して

タイヤ空気圧の点検は法律で義務づけられています。タイヤ空気圧は応急用スペアタイヤも含め、空気圧ゲージを使用してドライブの前や、定期的（最低月１回程度）に点検・調整してください。タイヤ空気圧が不足したまま走行すると走行不安定やバースト（破裂）を招き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆6−6ページ参照

■バッテリーの液量はときどき点検して

バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ないときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

■正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。

☆2−24、2−64ページ参照

100028

■シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ず全員がシートベルトを正しく着用してください。
- 後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRS エアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

☆2−35ページ参照

100029

■運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで固定してください。
  アクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

100230

■サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めなくなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■室内に荷物を積むとき

- 荷物はできるだけ低くし、背当ての高さ以上に積まないでください。ブレーキを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながることがあります。
- トノカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし、けがをするおそれがあり危険です。

100231

■ルーフに荷物を積むとき

- ルーフに荷物を積むときは、別売のスバル純正ルーフキャリアおよびアタッチメントを使用してください。スバル純正品以外を使いますと、車体に損傷を与えたり、サンルーフの開閉に支障をきたすことがあります。
- 走行中荷物が落下すると危険ですので、確実に荷物を固定してください。
- 固定方法や最大積載量については、ルーフキャリアおよびアタッチメントに添付の取扱説明書を必ずお読みください。

100003

■インストルメントパネルの上やスイッチの近くに物を置かないで

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スイッチの近くに物を置かないでください。走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動したり、スイッチの押されかたによっては、故障や加熱・火災の原因になります。
- SRSエアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。

100232

☆2−52ページ参照

■危険物の持ち込みはやめて

燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは炎天下で車内が高温になったとき火災の原因につながるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。

100233

■排気ガスの換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不充分になり、車内や車庫などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

100542

■車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら

すみやかに窓を開け、換気してください。
そのまま放置すると、排気ガスにより一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

100699

■車の後ろに気をつけて

- お子さまや障害物など、車のまわりの安全を充分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。

100005

■こんなとき、スバル販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音やにおいや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき
- 各警告灯が点灯・点滅したままのとき

■燃料には無鉛ガソリンを

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 粗悪なガソリンや軽油、アルコール燃料等の不適切な燃料やガソリン添加剤は、エンジンの各部に悪影響を与えますので使用しないでください。
- ターボ車以外は無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ターボ車は無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。
  無鉛プレミアムガソリンが入手できないときは無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、エンジン性能を充分発揮できないこともあります。また、ノッキングが起こりやすくなり、始動性も悪くなる場合があります。
  指定ガソリンは、フューエルリッド（給油口フタ）の裏に記載されています。

☆1－25ページ参照

お子さまを乗せるときの気くばり

■お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置にさわって思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席にすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができない場合はチャイルドシートを後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

☆2−50ページ参照

100036

100234

■チャイルドシートを使用して

- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまの場合、チャイルドシートを使用してください。
- 法律により6歳未満のお子さまを対象に、チャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまは必ずチャイルドシートを使用してください。

〈選択の目安〉

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重（目安）	9 kg以下	9〜18 kg	18〜36 kg
身長（目安）	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢（目安）	0か月〜9か月頃まで	4か月〜4歳頃まで	4歳〜12歳頃まで

- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでも確実にシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用させてください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまへはチャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていても、衝突したとき充分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグの前やシートの上に立たせたりした状態では走行しないでください。

100037

■ドアの開閉に注意して

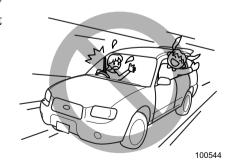
- 開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。また、安全のため、チャイルドプルーフをご利用ください。
- ドア開閉時、爪などを挟まないようにご注意ください。

☆2−5、2−10ページ参照

100543

■窓やサンルーフから顔や手を出させないで

走行中、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。

100544

■パワーウインドゥに気をつけて

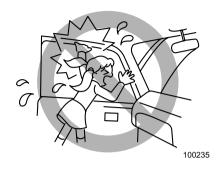
- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので、閉める前にお子さまが窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときにはパワーウインドゥのロックスイッチをロックにしておいてください。
  お子さまがウインドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2－11ページ参照

100235

■車から離れるときはご一緒に

- とくに乳児など小さなお子さまや介護を必要とする方は車内に残さないでください。
  炎天下の車内は高温となり熱射病などにつながるおそれがあります。
  エアコンを作動させていても途中で止まることがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキ等、運転装置のいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

100008

オートマチック車の特徴と運転上の注意

☆3−35 ページの「オートマチック車の運転」も併せてお読みください。

■クリープ現象があります

- エンジンがかかっているとき、アクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動きだす現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が上がるため、(アイドルアップ)、クリープ現象が強くなることがありますのでブレーキペダルを確実に踏んでください。
  必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

100009

■強い加速を必要とするときキックダウンができます

- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。
- スポーツシフト装備車でマニュアルモード選択時は、キックダウンは行われません。キックダウンを行う必要のあるときは、Dに戻してください。

■ブレーキペダルは右足で

- エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応がおくれることがあり危険です。

100077

■セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルを踏まずにブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないと（スポーツシフト装備車はセレクトレバーのボタンを押さないと）Pから動かないようになっております。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため後退した後は、セレクトレバーをすみやかにRからPまたはNにする習慣をつけてください。

■セレクトレバー位置は目で確認

エンジンをかけるときはP、前進するときはD（後退はR）にあることを目で確認してください。

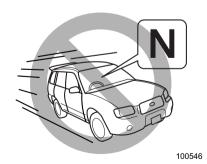
100078

■発進時、アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時はゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

■走行中はセレクトレバーをNにしないで

エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

100546

■走行中（前進時）は、Rにしないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

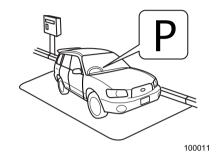
必読！安全で快適な運転のポイント

■車が完全に止まらないうちにPに入れないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

■駐車するときはPにして、駐車ブレーキを確実に

車が動きだしたり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーをPにし、駐車ブレーキも必ずかけてください。

☆1－21ページ参照

100011

■停車中は空吹かしをしないで

思わぬ事故につながるおそれがありますので、空吹かしをしないでください。

100012

■車から離れるときはエンジンを止めて

- クリープ現象で車がひとりでに動いたり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーをPにして駐車ブレーキを確実にかけエンジンを切ってください。

100009

■R に入れるとブザーが鳴ります

R に入れるとブザーが鳴り、R であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。

■シフトロックシステムがついています

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

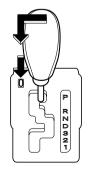
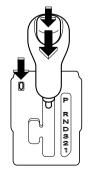
- P からのレバー操作は、エンジンスイッチを ON にしブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- ゲート式セレクトレバー装備車の場合、レバーを P から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- P 以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
  （P 以外ではキーをAccからLOCKに回せません）
- N でエンジンスイッチをOFFにした場合、しばらくするとレバーを P に操作することができなくなる場合がありますので直ちに P に操作してください。
  もし、セレクトレバーが N から P に操作できないときは、エンジンスイッチをONにしてから P へ操作してください。あるいは、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを P に操作してください。

■P からのレバー操作ができないとき

エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でもレバー操作ができないときは、次の手順でシフトロックを解除してください。

①駐車ブレーキレバーを引きます。
②ブレーキペダルを踏みます。
③シフトロック解除ボタンを押しながらセレクトレバーを操作します。
　ただし、スポーツシフト装備車はセレクトレバーのボタンを押しながら操作します。

ゲート式

スポーツシフト付

100549

この場合は、シフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

走行するときには

■タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定された位置に装着してください。
  なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

☆6－5、7－3ページ参照

■走行中異常があったら

- 警告灯が点灯したら、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡してください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3－25ページ参照

- ボンネット内部は高温になっています。ボンネットを開けてチェックするときは、高温部に触れないでください。やけどをすることがあります。エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- オーバーヒートしてエンジンルームから水蒸気が吹き出しているときは絶対にボンネットを開けないでください。

☆7－18ページ参照

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルを確実に握り、急ブレーキを踏まずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を停め、ブレーキ液や燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように点検してください。損傷や異常がある場合は、スバル販売店に連絡してください。

100013

■ペダルに足をのせたまま運転しないで

ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま運転しないでください。ブレーキやクラッチの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。

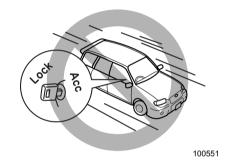
100236

■走行中はエンジンスイッチを切らないで

- 走行中エンジンを止めるとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3−58ページ参照

- 走行中エンジンスイッチをLOCKにしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作ができなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。

100551

■キーホルダーや他のキーに気をつけて

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。
  大型のキーホルダーはキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。また、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

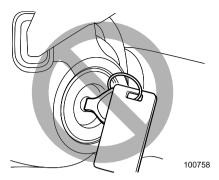
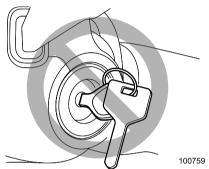
次ページへ ⇒

⇒前ページより

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき

100758

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

100759

■ABSを過信しないで

ABSは必ずしも制動距離を短くするものではありません。
下記の道路などではABSが作動した場合、ABSが付いてない車よりも制動距離が長くなることがあります。
ABSが付いてない車と同様、充分な車間距離をとって安全運転を心がけてください。

- マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
- 道路のつなぎ目などの段差
- 凹凸路、石畳などの悪路
- 下り坂での旋回
- 路肩に草や砂利が多い道路
- 砂利道
- 雪道（新雪路、圧雪路、アイスバーンなど）

☆3－56ページ参照

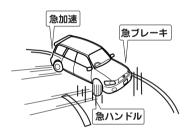
■洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効き確認を

水たまり走行後や洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に充分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。

100015

■ぬれた路面や滑りやすい路面での走行は慎重に

とくに雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転が急上昇するような急なシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆1−20ページ参照

100016

■雨天の走行は速度を落として

- 路面がぬれると滑りやすくなります。
  通常より注意して安全運転を心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。とくに摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン損傷や車両事故につながるおそれがあります。

■下り坂ではエンジンブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
- シフトダウンせずにエンジンの低回転領域でブレーキを使用し続けると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）のアシスト力（補助力）が弱くなり、ブレーキペダルを踏むとき通常より強い力が必要となる場合があります。

☆3－58ページ参照

〈エンジンブレーキとは〉

走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。

〈シフトダウンとは〉

- マニュアル車では5→4、4→3、3→2、2→1のように低速ギヤへ変速すること。
- オートマチック車ではセレクトレバーを[D]→[3]、[3]→[2]、[2]→[1]にすると低速ギヤに切り替わります。
  また、スポーツシフト装備車のマニュアルモードではステアリング部のスイッチまたはセレクトレバーを㊀側（ダウン側）にすることで低速ギヤに切り替わります。
- シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、進路状況や車間距離に注意して行ってください。

☆3－43ページ参照

■横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転しましょう。
走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。

100017

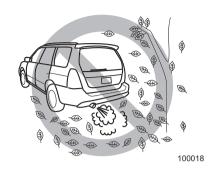
■高速道路に入る前には

- 燃料は充分補給してください。高速道路上での燃料切れは危険です。
- タイヤ空気圧を確認してください。空気圧不足の状態で高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。

☆8－6ページ参照

- 万一のために停止表示板（停止表示灯）を車に備えておいてください。
  停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。（別売り）

■燃えやすいものの上は走らないで

排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。

■こんなことにも注意してください

- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は充分とってください。
- スタック（立ち往生）したときなどはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。

■適切なエンジン回転数で運転を

- 新車の慣らし運転中（1,000 kmまで）……4,000 rpm以下
- 慣らし運転後……タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン未満

■ブレーキパッドの摩耗警報

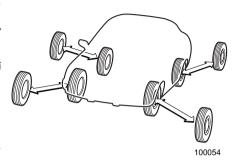
パッドが摩耗して交換時期になるとブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。
音が発生したときはすみやかにスバル販売店で交換してください。

雪道走行するときには

■4輪とも冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）で

100054

- 雪道走行が予想される場合は冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を用意してください。
  一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4輪とも必ず指定空気圧および指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

☆1－14ページ参照

■控えめな運転に心がけて

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは、避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、2速ギヤの使用をお奨めします。
- オートマチック車：スノーホールドモードスイッチをONにしてください。

☆3－45ページ参照

- マニュアル車：チェンジレバーを“2”にします。

☆3－33ページ参照

■タイヤチェーンは非常のときのみ前輪に

- タイヤチェーンは非常のときのみ前輪に取り付けてください。

☆5－2ページ参照

100019

- タイヤチェーンを取り付けると、前後輪の接地力バランスが変わるため、後輪が滑りやすくなります。後輪が滑りだすと、ハンドルで車の進路をコントロールすることが難しくなります。
  急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。

駐・停車するときには

■燃えやすいものの近くに車を停めないで

- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を停めないでください。排気管や排気ガスの熱により火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して停めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、火災につながるおそれがあります。

■停車中は空吹かしをしないで

排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

100012

■坂道に駐車するときは

無人で車が動きだすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。安全のため次の処置をしてください。

①駐車ブレーキを充分にかけ、車が動きださないことを確認します。

☆5−9ページ参照

②マニュアル車：チェンジレバーを以下の位置に入れます。

下り坂；“R”

登り坂；“1”

オートマチック車：セレクトレバーをPに入れます。

③輪止め（石やタイヤストッパー）をします。

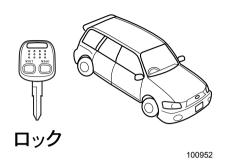
なお、急な坂での駐車は避けてください。

■車の移動はエンジンをかけて

必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンをかけないで坂道を利用した移動は、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車から離れるときは必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを切り、必ず施錠を

- 無人で車が動きだしたり、車両盗難や貴重品盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまや介護が必要な方を車内に残したままにしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

100952

■いきなりドアを開けないで

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。後ろから車、オートバイ、自転車などがきている場合があり思わぬ事故につながるおそれがあります。

100022

■仮眠するときは必ずエンジンを止めて

仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、チェンジレバー、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

100059

■雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

■ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないで

車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。（5秒未満）オイルの潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置を損傷することがあります。

100023

■エンジンルーム内には冷却ファンがついています

エンジンの温度が高い状態では、エンジンが停止していてもエンジンスイッチをONにすると、エンジンルーム内の冷却ファンが作動することがありますのでボンネットを開ける場合は、ご注意ください。
回転している冷却ファンに触れるとけがをするおそれがあります。

SRSエアバッグシステムについて

■SRSエアバッグシステムとは

- 運転席、助手席SRSエアバッグシステムは、エンジンスイッチがONのとき車両が前方から強い衝撃を受けた場合のみ作動します。この装置は運転者および助手席同乗者の頭部への衝撃をやわらげるシートベルトの補助装置で、横方向や後部からの衝突、あるいは横転などの衝撃では作動しないよう設定されています。
- SRS サイドエアバッグは、エンジンスイッチが ON のとき車両が側面から強い衝撃を受けた場合のみ作動し、運転者および助手席同乗者への側面からの主に胸部、頭部にかかる衝撃をやわらげる装置です。

＜運転席SRSエアバッグ＞

100061

＜助手席SRSエアバッグ＞

100062

＜SRSサイドエアバッグ＞

100560

■シートベルトは必ず着用して

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRS エアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☆2−24、2−35ページ参照

■お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまには、スバル純正チャイルドシートを使用してください。
  スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付の専用取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆1−7、2−46ページ参照

燃料補給時の注意

■指定燃料を必ずご使用ください

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 給油時に指定されている燃料であることを確認してください。

☆1−6ページ参照

- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンや燃料系統部品を損傷するおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

■燃料補給時には次のことを必ずお守りください

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど火気を絶対に近づけないでください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。
  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどするおそれがあります。
- 必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
- フューエルキャップはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料補給口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作は必ずお一人で行ってください。
- 給油中、ふたたび車内のシートに戻らないでください。(すわることで再帯電することがあります)
- 給油口に他の人を近づけないでください。
- セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料補給後はフューエルキャップを“カチッ、カチッ”と音がするまで右に回し、確実に締まっていることを確認してください。
- 車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

■給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください

燃料の成分には、有害な物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

こんなことにも注意を

■クラッチ・スタートシステムについて(マニュアル車)

マニュアル車にはエンジン始動時の誤操作防止機構(クラッチ・スタートシステム)が装着されています。
クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかかりません。
☆3−30ページ参照

■AWD車は万能車ではありません

AWDとは、All Wheel Drive(オール ホイール ドライブ=全輪駆動)の略です。4輪車では4WD(四輪駆動)とも呼びます。

二輪駆動車に比べて滑りやすい路面、積雪路などではより安定した走行ができますが、急ブレーキ、急ハンドル時は差がありません。安全な速度で走行してください。
☆3−47ページ参照

■走行中は携帯電話を使わないで

法律により、自動車の運転者が走行中に携帯電話等を手で保持して通話したり、メールの送受信等のために画面を注視することは禁止されています。

100237

■アクセサリーの取り付けに注意

ウインドゥにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、助手席 SRS エアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

100238

■灰皿※を使用したあとは

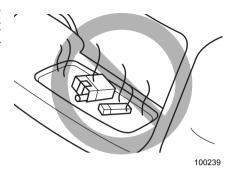
マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。また、可燃物や多量の吸ガラを入れておかないでください。火災になるおそれがあります。

※灰皿はディーラーオプションです。

100081

■車内にガスライター、スプレー缶等を放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にガスライターやスプレー缶等を放置しないでください。車室内が高温になるためライターやスプレー缶等が爆発するおそれがあります。

100239

■排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずスバル販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

100025

■リヤゲートを確認して

リヤゲートが閉まっていることを確認してください。確実に閉まっていないまま走行すると排気ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

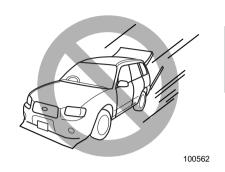
■ラジエターが熱いときキャップを外さないで

ラジエターやリザーブタンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。

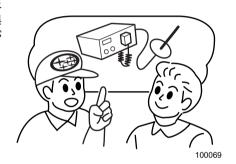
100561

■不正改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。火災など思わぬ事故につながることがあります。
- スバルが国土交通省に届け出した部品以外のものを取り付けると不正改造になることがあります。スバル販売店にご相談ください。（タイヤ、ホイール、マフラーなど）

100562

■電装品、無線機を取り付けるときには

取り付け、取り扱いを誤ったり、スバル純正以外の部品を使用すると、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
スバル販売店にご相談ください。

100069

■純正部品をお奨めします

- マフラー、エアクリーナーエレメント、オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合があるばかりか、故障の原因になることもあります。
例えば、マフラーやエアクリーナーエレメントの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。
- 詳しくは「保証書・メンテナンスノート」をご覧ください。

100070

■点検整備をするときは

- スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ね備えております。お客さまが安心してお車にお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検を行うときは、エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分ご注意ください。思わぬけがをすることがあります。
- AWD車でエンジンを回したまま点検を行うときは、車が動かないようにするため、必ず4輪ジャッキアップ、または4輪ローラー上で行い、空吹かしや急制動はしないでください。

保証書・メンテナンスノートについて

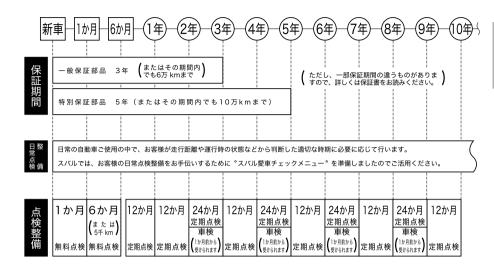
別冊の「メンテナンスノート」には、保証の内容および点検・整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

■保証について

保証書には、万一故障が起きたときに無料で修理が受けられる条件や範囲が記載してあります。
一度お読みになり、条件や範囲などについてご確認ください。

■点検・整備について

- 法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。
- メンテナンスノートには点検・整備の時期ややりかたなどが記載してあります。
よく読んで必ず行ってください。
- 日常点検整備や他の点検整備を行ったときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入しておいてください。
- 納車してから1か月後および6か月後（ただし、6か月以内に走行距離が5千 kmを超える場合は5千 km時点）に新車時点検を無料で実施しております。

保証期間と点検整備時期

環境にやさしい運転

■環境にやさしい運転をするには

常にタイヤの空気圧を適正にしましょう。

適正空気圧で 50 km 走行すると 50 kPa〈0.5 kg/cm^2〉減のときに比べて、ガソリン約150 ccの節約になります。
＊CO_2 約1,250 g削減〈650 km/月〉

走行する前に、不必要な荷物は降ろしましょう。

10 kgの荷物を降ろして50 km走行すると、ガソリン約15 ccの節約になります。
＊CO_2 約130 g削減〈650 km/月〉

長時間停車するときは、エンジンを止めましょう。

5分間のアイドリングを止めると、ガソリン約65 ccの節約になります。
＊CO_2 約420 g削減〈10回/月〉

空吹かしはやめましょう。

空吹かしを1回やめると、ガソリン約6 ccの節約になります。
＊ CO_2 約1,150 g削減〈300回/月〉

エアコンの使用は、少し控えましょう。

エアコンを6分間OFFにすると、ガソリン約70 ccの節約になります。
＊ CO_2 約130 g削減〈3時間/月〉

発進や加速はスムーズにしましょう。

急発進を1回やめるとガソリン約17 cc、急加速を1回やめるとガソリン約11 ccの節約になります。
＊ CO_2 約360 g削減〈各20回/月〉

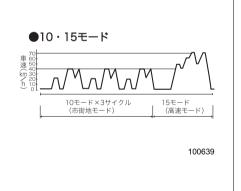
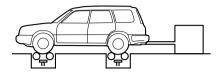
経済速度で走行しましょう。

- 一般道路や有料道路では、法定速度で走行すると燃費が良くなります。
- 高速道路では、100 km/hより80 km/hで走行すると燃費が10〜30%向上します。
- 下り坂や減速時には、エンジンブレーキを使いましょう。燃料噴射が停止し、燃費向上につながります。

アドバイス

10・15モード燃費とは

車両カタログに記載されている「10・15モード燃費」とは、一定条件にしたがって測定した燃費です。
このモードは、市街地モード（10モード）と高速モード（15モード）の２パターンを測定したものです。
測定方法は、10の走行パターンを想定したテスト（市街地モード）を3回行い、続けて15の走行パターン（高速モード）を想定したテストを1回行います。

平均速度：約23 km/h
走行距離：約4.2 km

この測定は実走行ではなく、測定装置（シャシーダイナモメーター）上に車両をのせて行います。

100640

「10・15モード燃費」は、都市内走行状態を想定して測定したもので、実際の走行とは異なる場合が多くあります。
例えば、天候や路面、車両重量、運転等に応じて燃費が異なります。

対象車種は 2.0L 乗用車（オートマチック車）の燃費 11.7 km/L（10・15 モード）を基準に計算してあります。

参考資料：社団法人日本自動車工業会「あしたへ　ECO-MOTION」参照

2 運転する前に

各部の開閉

キー……2－ 2
ドア……2－ 5
チャイルドプルーフ……2－10
パワーウインドゥ……2－11
フューエルリッド（燃料補給口）……2－15
ボンネット……2－17
リヤゲート……2－19
電動ガラスサンルーフ……2－21

シート

正しい運転（乗車）姿勢……2－24
フロントシート……2－26
リヤシート……2－31

シートベルト

シートベルトの正しい着用……2－35
フロントシートベルト……2－38
リヤシートベルト……2－42
ISO-FIX固定バーおよびテザーアンカー……2－46

SRS エアバッグシステム

SRSエアバッグシステム……2－49
SRSエアバッグが作動するとき、しないとき……2－54
SRSエアバッグ警告灯……2－62
車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください……2－63

ハンドルとミラーの調整

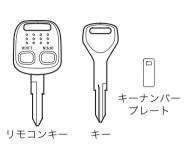
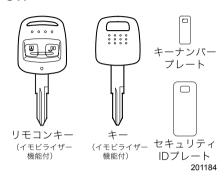
チルトステアリング……2－64
ルームミラー……2－64
ドアミラー……2－65

各部の開閉

キー

キーはドアの施錠、解錠、エンジンの始動、停止に使います。
リモコンキーを使うと、ドアやリヤゲートの施錠、解錠がボタンで操作できます。

STI以外

STI

- キーナンバーは盗難防止のため、 キーナンバープレートに打刻してあります。
- セキュリティ IDプレートにはキーをイモビライザーに登録するためのセキュリティ IDが打刻してあります。

アドバイス

- キーナンバープレートとセキュリティIDプレート（イモビライザー機能付車）は、合いかぎを作る際に必要となりますので、大切に保管してください。
- 盗難防止のため、キーナンバープレートとセキュリティIDプレートは車内に置かないでください。
- 万一に備えてキーナンバーとセキュリティ ID（イモビライザー機能付車）をメモしておいてください。
- キーを作るときは、スバル販売店にご相談ください。
- 万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、直ちにスバル販売店にご相談ください。

■イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）

イモビライザー機能付キーには個々の違った識別コードが登録されています。
差し込まれたキーの識別コードが正しければエンジンを始動できますが、未登録のキーや識別コードのないキーなどではエンジンを始動することができません。

アドバイス

- イモビライザー機能は車両自体の盗難を防ぐ装置であり、車室内への侵入を防ぐ機能はありません。車から離れるときは必ずドアをロックしてください。
- イモビライザー機能付キーは、最大4つまで登録できます。
- 合いかぎを作る際は、セキュリティIDプレートに打刻されているセキュリティ IDが必要になりますので、セキュリティ IDプレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため全てのキーの識別コードの再登録、リモコンの再登録をお奨めします。
- 登録は、スバル販売店でのみ行えます。

●イモビライザー表示灯

通常は点滅してイモビライザーが作動していることを示します。エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯し、エンジンの始動ができます。正規のキー以外を使うと、表示灯が点灯しエンジンを始動できません。もし、正規のキーを使っても表示灯が点灯し始動できない場合、一旦キーを抜いて再度やり直してください。

注 意

- キーは、強い磁石の近くには置かないでください。イモビライザーの誤作動の原因になるおそれがあります。
- ダッシュボードの上など高温になる場所には置かないでください。
  キーは水にぬらさないでください。
- 次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。

①キーグリップに金属製のものが接しているとき。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

②キーグリップに他のキーの金属部が接しているとき。

200377

③キーが他の車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と近いとき。

200378

④キーが他の信号発信機と近いときや接しているとき。

アドバイス

エンジンスイッチにキーを差したままにしておくと、イモビライザー表示灯が再度点滅しますが、エンジン始動はできます。

ドア

■ドアの開閉

ドアを開けるときは、ドアハンドルを手前に引きます。
ドアを閉めるときは確実に閉め、半ドアにならないことを確認してください。

200114

⚠ 注 意

- ドアを開けるときは周囲の安全を充分に確認してください。不用意に開けると後続車、自転車、オートバイなどにぶつかることがあり危険です。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは開くことがあり危険です。

アドバイス

- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、ドアを施錠する前にキーを持っていることを確認してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けると、ブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

☆2−10、3−4ページ参照

- 乗車中の施錠、解錠については次のような特徴がありますので選択しご使用ください。

施錠している場合

－ お子さまなどの同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
－ 停車時、車外からの不意の侵入者を防ぎます。
－ シートベルトの着用と併せ、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

解錠している場合

－ 万一の事故の場合、車外からの救援活動が受けやすくなります。

■電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠

電波により、車から離れたところ（約１ m）から全ドア（リヤゲートを含む）の施錠・解錠ができます。

●施錠

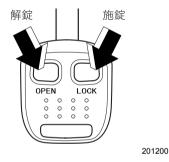
車のまわりからリモコンキーの「LOCK ／🔒」ボタンを押すと全てのドア（リヤゲートを含む）が施錠します。このときブザーが1回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。

●解錠

車のまわりからリモコンキーの「OPEN／🔓」ボタンを押すと全てのドア（リヤゲートを含む）が解錠します。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

STI以外

201200

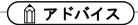
STI

201164

> **アドバイス**
>
> 車から離れるときは、ドアハンドルを引き、半ドアになっていないことを確認してください。

●半ドア警報

ドア（リヤゲート含む）が確実に閉まっていない場合、リモコンキーで「LOCK ／🔒」ボタンを押すとブザーが4回鳴ります。
ドア（リヤゲート含む）を確実に閉めてから施錠してください。

●ブザーの解除

解錠時や施錠時に鳴るブザーを消音にすることができます。
詳しくはスバル販売店にご相談ください。

バッテリー交換やヒューズ交換などでバッテリーとの接続が断たれたときは、初期設定の状態（ブザーが鳴る設定）になります。

●ルームランプとカーゴルームランプの連動

ルームランプとカーゴルームランプのスイッチがドア連動位置にあるとき、リモコンにより解錠またはドアの開閉を行うとルームランプおよびカーゴルームランプが点灯し、一定時間後に消灯します。点灯中、リモコンの「LOCK ／🔒」ボタンが押された場合、またはエンジンスイッチにキーを差してONにしたとき、ルームランプおよびカーゴルームランプは消灯します。

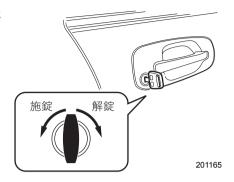
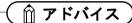
●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。
自動施錠する約5秒前に、ブザーでお知らせします。

アドバイス

- 車の周囲約1 m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときやドアまたはリヤゲートが開いているときや半ドアの場合、作動しません。
- キーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
  - 強い衝撃を与えないでください。
  - 電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショートおよび⊕、⊖の方向に注意してください。
  - 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、充分に乾かしてください。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。
- リモコンキーを紛失した場合は盗難などを防ぐため、リモコンの再登録をお奨めします。リモコンの再登録をするときはスバル販売店にご相談ください。

■車外からキーによる施錠・解錠

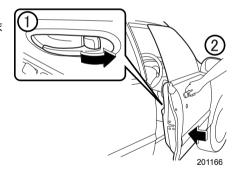
キーを確実に差し込んで車の後ろ側に回すと施錠され、前側に回すと解錠されます。

201165

車外から施錠・解錠できるのは運転席ドアだけです。

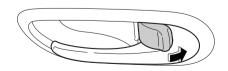
■キーを使わない車外からの施錠

●フロントドア

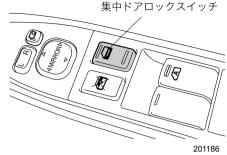
①ドアロックノブを後ろ側に引きます。

②ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

201166

●リヤドア

ドアロックノブを後ろ側に引いてドアを閉めます。

201167

■車内から集中ドアロックによる施錠・解錠

運転席ドアの集中ドアロックスイッチを前側（⊜側）に押すと全てのドアとリヤゲートが施錠されます。後ろ側に押すと全てのドアとリヤゲートが解錠されます。

⚠ 注 意

ドアロックノブで運転席ドアを施錠または解錠しただけでは集中ドアロックは作動しません。必ず集中ドアロックスイッチで施錠または解錠してください。

●キー閉じ込み防止機能

エンジンスイッチにキーが差し込まれている場合、ドアを施錠しないように働き、キーが車内に残したままになることを防止する機能です。

▼キー閉じ込み防止機能が作動するとき

- 運転席ドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチを前側（⊜側）に押してドアを施錠しても、自動的にドアが解錠されます。

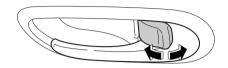
▼キー閉じ込み防止機能が作動しないとき

- ドアロックノブで施錠し、ドアを閉めたとき機能は作動せず施錠されます。
- 車外から合いかぎを使い施錠した場合、機能は作動せず施錠されます。

アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■車内からドアロックノブによる施錠・解錠

ドアロックノブを後ろ側に引くと施錠され、
前側に押すと解錠します。

201169

■キー抜き忘れ警報

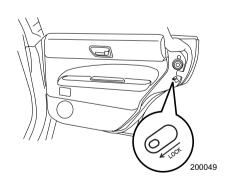
キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴り、エンジンスイッチのリングが点滅します。ただし、エンジンスイッチがONのときは警報は作動しません。

チャイルドプルーフ

左右のリヤドアにあります。後席にお子さまを乗せたときにご使用ください。

■使用方法

チャイルドプルーフのレバーを矢印方向に動かしてドアを閉めると、車内のドアハンドルではリヤドアを開けられなくなります。解除するときはレバーを矢印とは逆方向に動かしてください。

200049

■チャイルドプルーフが働いているときのドアの開けかた

ドアを解錠し、車外からドアハンドルを引いて開けます。
車内から開けるときは、ドアロックノブを解錠にし、ウインドゥを下げ車外のドアハンドルを引いて開けます。

パワーウインドゥ

パワーウインドゥは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。

■スイッチの操作

●運転席ウインドゥの開閉操作方法

スイッチを軽く操作している間、作動します。強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

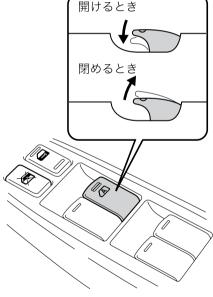
アドバイス

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドゥの初期設定をしてください。
初期設定がされないと運転席ウインドゥは自動で全開（全閉）しません。
☆2－13ページ参照

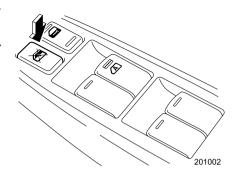
開けるとき：

- スイッチを軽く押します。押している間ウインドゥが下降します。
- スイッチを強く押すと自動で全開になります。途中でウインドゥの下降を停止させるときは、スイッチを軽く引き上げます。

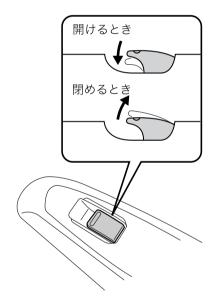
閉めるとき：

- スイッチを軽く引き上げます。引き上げている間ウインドゥが上昇します。
- スイッチを強く引き上げると自動で全閉になります。途中でウインドゥの上昇を停止させるときは、スイッチを軽く押します。

201161

●ロックスイッチの操作方法

ロックスイッチを押すと助手席と後席のウインドゥは開閉できなくなります。（ロック状態）
もう一度スイッチを押すとロックは解除されます。

●助手席、後席ウインドゥの操作方法

それぞれのウインドゥを開閉します。スイッチを操作している間作動します。

開けるとき：スイッチを押します。
閉めるとき：スイッチを引き上げます。

■ウインドゥ反転機能

運転席のウインドゥが自動全閉中、窓枠とウインドゥとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインドゥの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

⚠注 意

- 走行時（約10 km/h以上)、ウインドゥ反転機能は作動しません。
- ウインドゥを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないように注意してください。
- ウインドゥ反転機能は自動全閉時のみ作動します。スイッチを引き続けた状態では作動しません。指など挟まないように注意してください。

アドバイス

- 環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドゥに加わるとウインドゥ反転機能が作動することがあります。
- 故障などでウインドゥ反転機能が作動してしまい運転席ウインドゥを閉めることができない場合、スイッチを引き続けると閉めることができます。または10 km/h以上で走行しながらスイッチを引くと閉めることができます。
- ウインドゥ反転機能が作動した後、数秒間はスイッチを操作してもウインドゥが作動しません。
- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドゥの初期設定をしてください。初期設定がされないと、ウインドゥ反転機能が作動しません。

■パワーウインドゥの初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドゥの初期設定を行ってください。パワーウインドゥの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

- 運転席ウインドゥの自動全開（全閉）

☆2−11ページ参照

- ウインドゥ反転機能

●初期設定のしかた

①ドアを閉め、エンジンスイッチをONにします。
②運転席ウインドゥスイッチを下に押し、半分くらいまでウインドゥを開けます。
③運転席ウインドゥスイッチを上に引き続け、ウインドゥを全閉にします。全閉後、約1秒間スイッチを上に引き続けてください。

⚠ 警 告

- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには操作させないでください。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロックにしておいてください。お子さまがウインドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2－12ページ参照

⚠ 注 意

ウインドゥの全閉､全開後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因になります。

アドバイス

- 車体の構造上、後席のウインドゥを全開にすることはできません。
- 下記操作を行うとパワーウインドゥのブレーカーが作動してウインドゥの開閉ができなくなることがあります。
  - 運転席ウインドゥを全閉または全開にした後、スイッチを同じ方向へ数秒間操作し続ける。
  - 3 席以上のウインドゥを全閉または全開にした後、それぞれのスイッチを同時に同じ方向へ操作し続ける。

  この場合、ブレーカー復帰後に必ずパワーウインドゥの初期設定を行ってください。初期設定がされていないと、運転席ウインドゥの自動全開（全閉）およびウインドゥ反転機能は作動しません。

☆2－13ページ参照

フューエルリッド（燃料補給口）

メーターの燃料計にフューエルリッド（燃料補給口）が右側にあることをお知らせする表示があります。

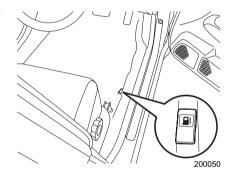
FUEL DOOR▷

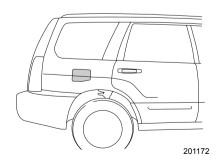
200150

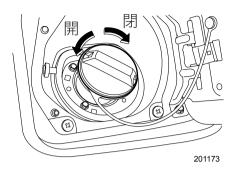
	使用燃料	タンク容量
ターボ車	無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン	約60 ℓ
ターボ車以外	無鉛レギュラーガソリン	約50 ℓ

■フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

開けるときは、運転席右下にあるフューエルリッドオープナーレバーを引き上げます。

200050

閉めるときは、ロックするまでフューエルリッド（燃料補給口）を手で押し付けてください。

201172

■フューエルキャップの開閉

フューエルキャップを左に回して開けます。燃料補給後は、「カチッ、カチッ」と2回以上音がするまで右に回して閉めます。

⚠ 警告

燃料補給時には必ず次のことをお守りください。

- ガソリンは非常に着火しやすいため、燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- エンジンは必ず止めてください。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。
- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップは車に合ったスバル純正品を使用してください。

☆1－25ページ参照

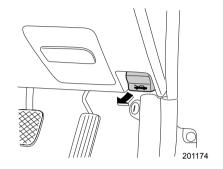
⚠ 注意

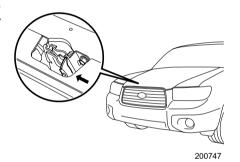
セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。

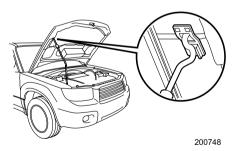
ボンネット

■開けるとき

①ボンネットのオープナーレバーを引きます。運転席側のインストルメントパネル右下にあります。

201174

②フロントグリルとボンネットのすき間からレバーを左に押してロックを外し、ボンネットを開けます。

200747

③ステーをホルダーから外し、ボンネットのストッパー穴に入れ、固定します。

200748

■閉めるとき

ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボディ近くになったら（約30 cm）手を離します。
確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注 意

ボンネットを開閉するとき

- 走行後すぐに開けるときには、部品が熱くなっているので、やけどしないように注意してください。
- ボディ近くまで降ろして手を離す際には指や他の物を挟まないよう充分注意してください。
- 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。
  確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。
- 風の強いときには充分注意して開けてください。突然ステーが外れて閉まることがあります。

アドバイス

ボンネットを開けるときには

ワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。

ボンネットを閉めるとき

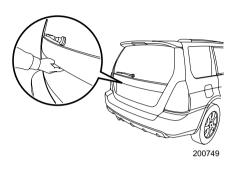
ボンネットを上から強く押しつけないでください。ボンネットがへこむことがあります。

リヤゲート

電波式リモコンドアロックまたは集中ドアロックスイッチにて施錠、解錠ができます。

■開けるとき

リヤゲートハンドルを引いてリヤゲートを少し開けます。手で支えながらゆっくりと最上部（全開位置）まで持ち上げます。

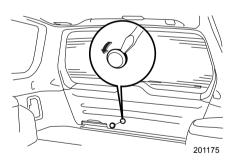
200749

■閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえつけるように閉めます。
半ドアでないことを確かめます。

■リヤゲートの解錠ができなくなったとき

万一、バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障等でリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から解錠することができます。

① リヤゲートトリムのキャップを、細いマイナスドライバーなどを使って外す。
② 穴の斜め下方向に指を入れ、レバーを上方向に上げる。
③ 車外からリヤゲートを開ける。

201175

⚠ 注 意

- 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
- 走行前リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。
- 走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（とくにお子さまには気をつけてください）や荷物を挟まないように注意してください。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。
- リヤゲートを支えているガスステー部に薄いビニール袋、テープ等が噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。

アドバイス

リヤゲートを開閉するとき

- リヤゲートハンドルを操作するときは、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開けてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

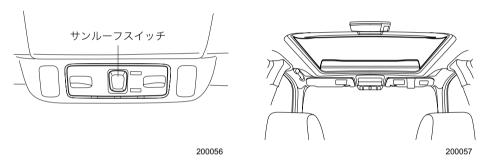
電動ガラスサンルーフ

電動ガラスサンルーフは、エンジンスイッチがONのときに作動します。

■電動ガラスサンルーフの開閉

●開けるとき

①全閉または任意の位置からスイッチを「OPEN」側に押すと、全閉位置から約50 cmまで開き、停止します。また、室内への風の巻き込みを防ぐディフレクターが自動的に上がります。

②再度スイッチを「OPEN」側に押すと全開まで開きます。
任意の位置で止めたいときは、ガラスルーフが動いている間にスイッチを「OPEN」または「CLOSE」側に押します。

⚠ 注 意

サンルーフを開口したときには

- 停車中、開口部のふちに腰掛けたり、荷物をのせるなど大きな力を加えないでください。ルーフがへこむことがあります。
- 全開または全閉になったらスイッチを押し続けないでください。サンルーフモータの損傷の原因になります。

アドバイス

- 走行中は安全上、一旦停止位置での使用をお奨めします。
- 全開で走行すると、車速によって「ボッボッボッ」と耳を圧迫するような音が発生します。このようなときは、一旦停止位置で使用することによって圧迫音が軽減します。

●閉めるとき

①スイッチを「CLOSE」側に押すと、全閉になる手前約20 cmまで閉まり、停止します。
②安全を確認してから再度スイッチを「CLOSE」側に押すと全閉まで閉まります。
任意の位置で止めたいときは、ガラスルーフが動いている間にスイッチを「OPEN」または「CLOSE」側に押します。

⚠ 警 告

サンルーフを開閉するときには

- 走行中または一時停止したときに開口部から顔や手、物などを出さないでください。車外の物などに当たったり、万一のとき重大な事故になるおそれがあり危険です。とくにお子さまには気をつけてください。
- サンルーフを開閉するとき手や首を挟まないように気をつけてください。とくにお子さまには気をつけてください。
- 走行中または一時停止したときに開口部のふちに腰掛けたりしないでください。万一のとき投げ出されることがあり危険です。

アドバイス

サンルーフを開閉するときには

- 車から離れるときや洗車するときは、サンルーフが完全に閉じていることを確かめてください。
- 雨の後や洗車した後開けるときは、サンルーフの上の水を拭き取ってください。室内に水が入ることがあります。
- 降雪の後は、サンルーフ上の雪を取り除いてから開けてください。
- キャリアなどを取り付けたときは、のせた荷物に当たらないように気をつけてください。

●サンルーフ反転機能

閉じるときに、窓枠とサンルーフとの間に異物の挟み込みを感知すると、サンルーフの作動が停止し、自動で少し戻り止まります。

⚠ 注 意

サンルーフを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないようにしてください。

アドバイス

環境、走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃がサンルーフに加わると、サンルーフ反転機能が作動することがあります。

■サンシェード

ガラスルーフと連動して開閉します。
サンルーフが全閉のときは、手で開閉できます。

200058

アドバイス

サンシェードを開閉するとき
なるべく全開か全閉で使用してください。
途中で止めて使うと、走行中音が出ることがあります。また、急ブレーキにより閉じることがあります。

■サンルーフが閉まらないとき

スバル販売店で点検整備を受けてください。

シート

正しい運転（乗車）姿勢

無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシートを調整します。ミラーも調整します。そしてシートベルトを正しく装着します。

⚠ 警 告

シートなどの調整は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- シート調整は必ず走行を始める前にしてください。とくに運転席は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったり、運転への注意がそれ、運転ミスなどを起こし、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
- シートを調整した後はシートを軽くゆさぶり、「確実に固定されていること」を確かめてください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が充分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて背当てを必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当てと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレストを外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⚠ 注 意

シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。挟まれたり、荷物を損傷したりすることがあります。

アドバイス

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）やフロアマットの汚れ防止フィルムは必ず取り外してから使用してください。

フロントシート

■マニュアルシート

シートのドア側と下部にあるレバーとダイヤル操作で調整ができます。

●スライド調整（前後の調整）

下部のレバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

200750

> ⚠ 注 意
>
> 後方にスライドする際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

●リクライニング調整（背当て角度の調整）

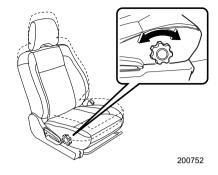
ドア側レバーを完全に引き上げた状態で背当ての角度を調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

200751

> ⚠ 注 意
>
> 調整する際には、レバーとレバーカバー内に指を挟まないよう気をつけてください。

●上下調整（運転席のみ）

ダイヤルを前側に回すとシートクッションが上がり、後ろ側に回すとシートクッションが下がります。
無段階に調整することができます。

200752

■パワーシート

シート右横のスイッチ操作で調整ができます。

⚠ 注意

操作するときには
スイッチ部に異物を挟まないようにご注意ください。走行中、予期しないときに動くことがあります。

アドバイス

バッテリー上がりに注意
エンジンがかかっているときに調整してください。

操作するときには
- 調整できる終点まで移動させたときにスイッチを押し続けないでください。故障の原因になります。
- シートが人や物に当たった場合、それ以上無理に操作しないでください。故障の原因になります。

●スライド調整（前後の調整）

スイッチ全体を前後に動かして調整します。

200753

●**リクライニング調整　（背当て角度の調整）**

リクライニングスイッチを前後に動かして背当て角度を調整します。

200754

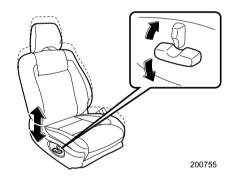
アドバイス

リクライニング調整中は

リクライニング調整と他の調整を同時に行わないでください。

●**上下調整**

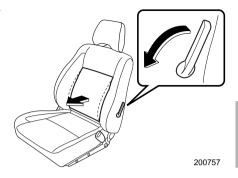
スイッチの後ろ側を上下に動かしてシートの高さを調整します。

200755

●**座面前側の高さ調整**

スイッチの前側を上下に動かして前側の高さを調整します。

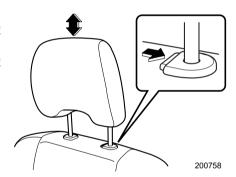
201201

■ランバーサポート（腰部支え調整）

レバーを前に回すと腰部を支える背当ての一部がもり上がります。無段階で調整することができます。

200757

■ヘッドレストの高さ調整

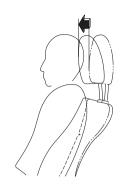
- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

200758

⚠警 告

運転するときには

ヘッドレストを確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。
ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

■アクティブヘッドレスト

フロントシートのヘッドレストには、アクティブヘッドレストが装備されています。
この装置は、後方から追突されたとき、前方に少し傾斜するようになっています。
これにより、頭や首を保護し、むち打ち症などを軽減します。
万一の衝突事故に備え、ヘッドレストの乗員保護効果を最大限にするため、ヘッドレストの高さを正しく調整してください。

100089

⚠注 意

ヘッドレストに物を引っかけたり、つかまったりしないでください。
充分な効果が発揮できなかったり、故障につながるおそれがあります。

■シートヒーター

エンジンスイッチがAcc またはON のときスイッチを押すとシートが暖まります。
作動中はスイッチ内のランプが点灯します。

(HI)：早く暖めたいときに使います。暖まったらLO にしてください。
(LO)：保温するときに使います。通常はこの位置で使用してください。

201177

⚠注 意

- 長時間使い続けるとやけどの原因になることがあります。お子さま、皮ふの弱い方、病気の方などは注意してください。
- 毛布や座ぶとんなどをのせて使用しないでください。
- 水、ジュースなどをこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取り、充分乾かしてから使用してください。

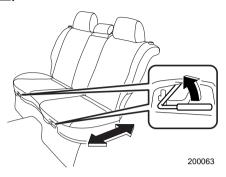
アドバイス

- エンジンがかかっているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。
- シートに硬いものや突起のあるものをのせないでください。

リヤシート

●リクライニング調整（ 背当て角度の調整）

レバーを完全に引き上げた状態で座面を前方に動かし、背当ての角度を調整します。4段階の角度調整ができます。レバーを下ろし、ロックを確認します。

200063

⚠ 注 意

- リクライニング操作後は、座面をゆさぶって、シートが確実に固定されていることを確認してください。また、走行中は必要以上に背当てを倒さないでください。万一のとき、シートベルトが肩から外れ、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- ISO-FIX方式の乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを装着したときは、リクライニング操作を行わないでください。

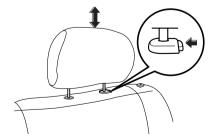
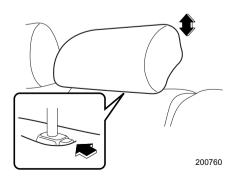
■ピローの高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

外側席用

200153

中央席用

200760

⚠ 警 告

ピローは確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ピロー中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

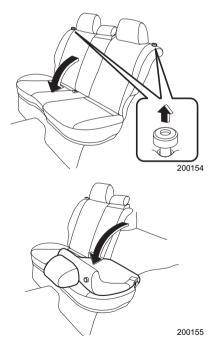
アドバイス

乗員がいないときは下げておくと、後方視界が良くなります。

■6：4分割リヤシートの背当てを倒し、荷室として使うとき

リヤシートの背当てを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。
背当ては左右に分割されているシートをそれぞれ倒すことができます。

●背当てを倒すとき

ピローの横にあるロックノブを引き上げながら背当てを倒します。

注 意

- チャイルドシートを取り付けているときは、背当てを倒さないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背当てを倒すとき、中央席のシートベルトを格納してください。

☆2－44ページ参照

アドバイス

上り坂などで背当てが倒れないときは、手で倒してください。

●背当てを元に戻すとき

背当てを起こし、確実にロックします。

警 告

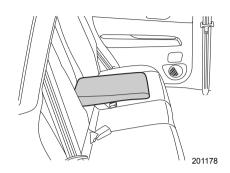
- 背当てを倒して荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長いものをのせたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし重大な傷害を受けることがあります。

☆2－25 ページの注意事項もお守りください。

- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物が飛びだすなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトが背当てに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背当てに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

■アームレスト

前に倒して使用します。

201178

⚠警 告

アームレストを使用するときには

シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。

① 最初にシートベルトを装着する。

② 次にアームレストを下ろす。

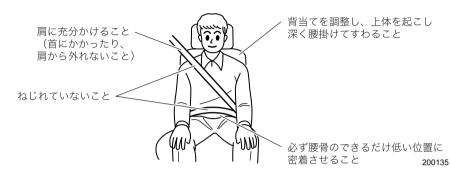
先にアームレストを下ろしてからシートベルトを着用すると、衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

アームレストを使うとき上に乗ったり、重いものをのせないでください。アームレストが損傷したり、思わぬけがをすることがあります。

シートベルト

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

⚠ 警 告

シートベルトの着用は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかけてください。肩に充分にかかっていないと上半身が拘束されず充分な効果を発揮しません。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転（乗車）姿勢」(2−24 ページ)をご覧ください。
- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるみをつけないでください。充分な効果を発揮しません。

⚠ 警告

- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用してください。局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。

200136

- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらなくなり、走行中に外れる場合があります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させてください。膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに充分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。
  6歳以上のお子さまでもシートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはスバル純正チャイルドシートを使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。
  なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書をご覧ください。

＜選択の目安＞

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重（目安）	9 kg以下	9～18 kg	18～36 kg
身長（目安）	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢（目安）	0か月～ 9か月頃まで	4か月～ 4歳頃まで	4歳～ 12歳頃まで

⚠警 告

200364

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにチャイルドシート固定機構付シートベルトの場合は、シートベルトに体を巻きつけたりして遊んでいるときに、誤ってチャイルドシート固定機構が作動すると、ベルトが引き出せなくなり、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。
  万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてしまい、シートベルトを外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。
- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に働かず、充分な効果を発揮しません。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしないでください。衝突などのとき充分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤はシートベルトを弱めるため絶対に使用しないでください。

⚠注 意

炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持ってシートベルトを着用してください。シートベルトの金属部が熱くなっている場合があり、やけどにつながるおそれがあります。

フロントシートベルト

身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとするとベルトが自動的にロックします。
（ELR機構）

■3点式シートベルト

●着用のしかた

①タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。

200119

②ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。

200120

③正しい姿勢で腰掛け、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させせます。

200121

●外すとき

外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

201179

アドバイス

- ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときは、ショルダーアジャスターでベルトの高さを調整します。

☆2－40ページ参照

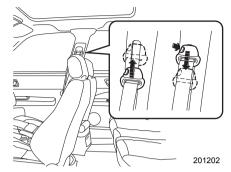
- ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。
  それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■シートベルト警告灯

エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。

200122

■シートベルトの高さ調整（ショルダーアジャスター）

① 上げるときはショルダーアジャスター本体を上に動かします。下げるときはボタンを押しながらショルダーアジャスターを動かして最適な位置を選びます。
② ショルダーアジャスターが固定されていることを確認します。

⚠ 警 告

ショルダーアジャスターを調整するときは、次のことをお守りください。

守らないと衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に充分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認してください。

アドバイス

アジャスターが上がらない場合、ベルトが引き出せず固定された状態になっている場合があります。ベルトが引き出せる状態にしてから、アジャスターを操作してください。
☆2－39ページ参照

■プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、前方向からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込み、前席乗員をシートに確実に固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。
運転席のプリテンショナーは肩ベルトと腰ベルトに、助手席のプリテンショナーは肩ベルトに装着されており、シートベルトを着用していなくても作動します。

運転席側

助手席側

⚠ 注 意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。

- シートを正しい位置に調整する。

☆2－24ページ参照

- シートベルトを正しく着用する。

次のような作業をするときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき

アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

リヤシートベルト

3点式シートベルトが3名分装備されています。中央席にも格納のできる3点式シートベルトが装備されています。

■外側席用シートベルト

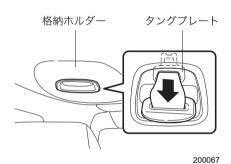
フロントシートベルトと同じ方法で着用します。
☆2−38ページ参照

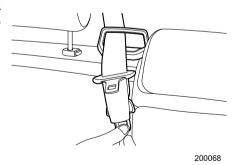
■中央席用シートベルト

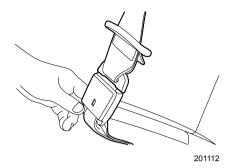
必ず中央席用のシートベルトを使ってください。タングプレートとバックルに「CENTER」印があります。

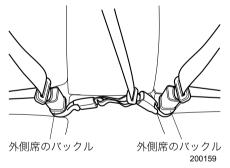
●着用するとき

①カーゴルームのルーフにある、格納ホルダーよりタングプレートを一旦車両後方へ水平方向に引き抜いてから前方へ引き出してください。

200067

②カーゴルームの格納ホルダーからシートベルトを引き出し、シートベルトを背当てのガイドに通します。

200068

③コネクター（小さいバックル）とタングプレートをラベルが付いている面を合わせて結合してください。

201112

④フロント３点式シートベルトと同じ要領で着用します。このとき、中央席用のバックルとコネクターは、必ず外側席用のバックルの前を通してください。

200168

200159

注 意

コネクターを結合しないで使用するとシートベルト本来の機能が発揮されません。必ず結合してから着用してください。

●格納するとき

①バックルの「PRESS」ボタンを押します。

②コネクターの解除ボタンをキーなどを使って押し、分離します。

200158

③シートベルトを巻き取り、小さいタングプレート（コネクター）をカーゴルームの格納ホルダーに差し込み、固定させます。

201181

⚠ 注 意

- 使用しないときは、シートベルトを格納しておいてください。
- シートベルトの脱着時には、隣の乗員に金具が当たらないように気をつけてください。
- 巻き取りが早いので、コネクターを分離するときはシートベルトを手で持ってください。急に巻き取らせないよう気をつけてください。

■チャイルドシート固定機構付シートベルト

後席にチャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。
チャイルドシート固定機構を作動させると引き出し方向にベルトが動かないようにできます。
〔ISO-FIX方式において、本車両用に認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを専用のISO-FIX固定バーおよびテザーアンカーに取り付ける場合には、2−46 ページの「ISO-FIX固定バーおよびテザーアンカー」をご覧ください。〕

⚠警 告

チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。

●チャイルドシート固定機構の使いかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

①リヤシートの背当てをリクライニングレバーを使い、元の位置まで起こします。

☆2−31ページ参照

②チャイルドシート（別売／スバル純正ISO-FIX方式を除く）を取り付けます。

③チャイルドシートが取り付けにくい場合には、リヤシートのピローを取り外します。

④シートベルトを引き出し、チャイルドシートにシートベルトを通して、タングをバックルに確実に差し込みます。

⑤肩ベルトをゆっくりと全部引き出します。
（自動的にチャイルドシート固定機構が作動します。）

⑥チャイルドシートに体重をかけ、座席に充分しずみ込ませた状態で、腰ベルトのたるみがなくなるまで肩ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートを確実に固定させます。

⑦チャイルドシートをゆさぶり、固定されていることを確認します。

●チャイルドシート固定機構の解除のしかた

①バックルの「PRESS」ボタンを押して、シートベルトを外します。

②シートベルトを全部巻き取らせると、チャイルドシート固定機構は解除されます。

アドバイス

- シートベルトを全て引き出した後、ベルトを巻き取らせていくときにチャイルドシート固定機構が働き、作動音がします。この場合、ベルトの巻き取りのみ可能です。
- とくに、お子さまのいたずらなどに気をつけてください。

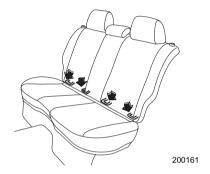
ISO-FIX固定バーおよびテザーアンカー

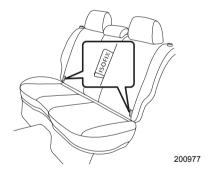
リヤシートの左右席には、乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスバル純正ISO-FIXチャイルドシートを固定するための専用の ISO-FIX 固定バーおよびテザーアンカーが装備されております。

- ISO-FIX方式において、この車両で認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスバル純正 ISO-FIX チャイルドシートは、専用の ISO-FIX 固定バーとテザーアンカーを使用して確実に、また、容易に固定することができます。

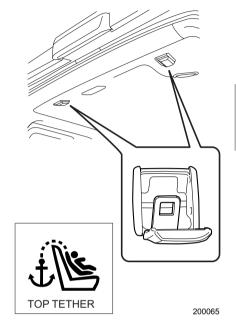
■ISO-FIX固定バー

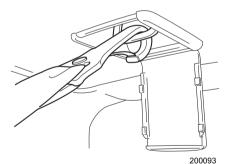
背当てとシートクッションのすき間にあります。

200161

ISO-FIX 固定バーが装備されていることを示すタグが背当てについています。

200977

■テザーアンカー

室内ルーフ後ろ側の左右にあるカバーを開けるとあります。カバーにはテザーアンカーを示すマークがあります。
カバーを開けるとテザーアンカーが現れます。

200065

チャイルドシートのフックをテザーアンカーに引っかけます。

200093

●スバル純正ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を使用する場合の取り付けかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO-FIX チャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

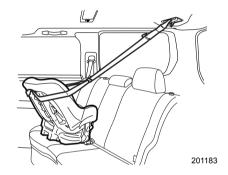
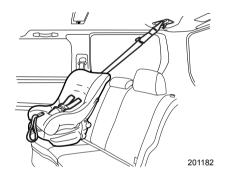
① リヤシートの背当てをリクライニングレバーを使い、元の位置まで起こします。
☆2－31ページ参照

② ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を取り付ける側のリヤシートのピローを取り外します。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

③背当てとシートクッションのすき間を少し広げ、ISO-FIX固定バーの位置を確認します。
④ベースシートをISO-FIX固定バーに確実に取り付けます。
⑤ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。
⑥ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を軽く上下左右にゆさぶり、ISO-FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
⑦ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトをテザーアンカーに確実に引っかけます。
⑧ISO-FIX チャイルドシート（テザー式）のテザーベルトがピンと張る（5 kg 程度）まで強く引っ張って、チャイルドシートの上側を確実に固定します。
⑨ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトを軽く引っ張り、テザーアンカーに確実に固定されていることを確認します。

後ろ向きの場合

前向きの場合

⚠ 警 告

- ISO-FIX チャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
  シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートを取り付ける場合は、必ずISO-FIX固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合には、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります

詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 注 意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。
全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。
運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
SRSサイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部、頭部への衝撃をやわらげる装置です。

■シートベルトは必ず正しく着用してください

⚠警 告

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2−35ページ参照

- 正しい乗車姿勢になるようシート位置、ハンドル位置を調整してください。不適切な乗車姿勢ではSRSエアバッグシステムの効果を発揮させることができず命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2−24ページ参照

■乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください

⚠警 告

膝の上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せるときには、次の事項をお守りください

⚠警告

- お子さまは後席にすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとってもっとも安全な乗車位置です。
- お子さまを SRS エアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しないでください。

200366

- 法律により6歳未満のお子さまを対象にチャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。6歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。スバルチャイルドシートの使用方法は添付されている取扱説明書をご覧ください。

100234

- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。チャイルドシートをお使いになるときは、必ず後席に取り付けてください。

200127

■運転席SRSエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

■運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠警 告

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなります。

- ハンドルのSRSエアバッグ格納部に手を置いたり、パッド部を強打したり衝撃を加えたりしないでください。また、顔や胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。
助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。

■助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠警 告

- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネルの上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

- インストルメントパネル上面近くにテレビやナビゲーションシステムを取り付ける場合、スバル販売店にご相談ください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■SRSサイドエアバッグ

運転席、助手席各シートの背当てに格納され、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時に膨らみます。
SRSサイドエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

■SRSサイドエアバッグ付車に関しては、次の事項をお守りください

⚠警告

- フロントシート背当てのSRSサイドエアバッグ格納部に手、足、顔を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢ですわらないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200762

- お子さまなどに後席からフロントシートの背当てを抱えこむような姿勢はさせないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントシート背当てのSRSサイドエアバッグ格納部を強打したり、衝撃を加えないでください。正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

200369

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- スバル純正の SRS サイドエアバッグ専用シートカバー以外は使用しないでください。
  使用する場合には添付されている使用説明書をよくお読みください。正しい向き、位置に装着しないとSRSサイドエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- SRSサイドエアバッグが格納されている付近に物を置いたり、周辺にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けないでください。SRS サイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200370

SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

⚠ 警 告

- SRSエアバッグが展開すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。
- 排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。

アドバイス

- 運転席、助手席SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。
- SRSサイドエアバッグは脹らんだ後、数秒後にしぼみます。
- SRSエアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRS　エアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。

- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
  ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、できるだけ早く水で洗い流してください。皮ふの弱いかたなどは、まれに皮ふを刺激する場合があります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用はできません。スバル販売店で交換してください。

■運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで、吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。
したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

●作動するとき

- 次のようなときに作動します

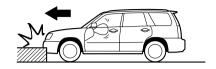
20～30 km/h 以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき

200074

- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります

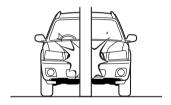
深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき

200075

縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき

200076

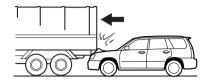
●作動しにくいとき

- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき

電柱などに衝突したとき

200077

斜め前方への衝突のとき

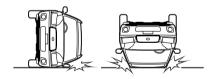
200078

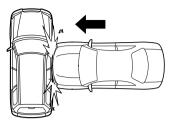
トラックの荷台にもぐり込んだとき

200079

- また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもありますが、本来の効果は発揮されません

後ろから衝突されたとき

200080

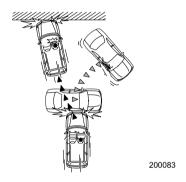
横転や転覆したとき

200081

横方向から衝突されたとき

200082

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません

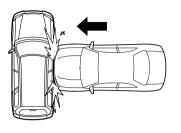
一度SRSエアバッグが作動した後の衝突

200083

■SRSサイドエアバッグが作動するとき、しないとき

SRS サイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部と頭部への衝撃をやわらげる装置です。
SRS サイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。
SRS サイドエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

●作動するとき

- 次のようなとき衝撃が大きいと作動します

側面に真横から衝突されたとき

200084

●作動しにくいとき

- 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります
  衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるためSRSサイドエアバッグは作動しにくくなります。

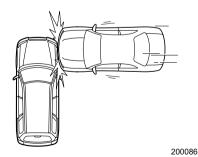
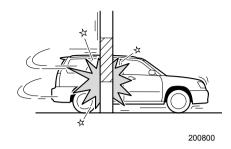
車両側面に斜めから衝突されたとき

200085

客室以外に側面から衝突されたとき

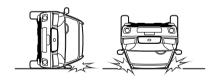
200086

電柱などに衝突したとき

200800

側面にバイクが真横から衝突したとき

200087

- 次のような場合はSRSサイドエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません

横転や転覆したとき

200081

停車中や走行中の車に正面衝突したとき

200088

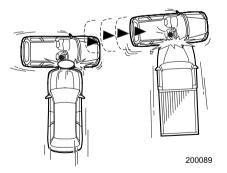
後ろから衝突されたとき

200080

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません

一度SRSサイドエアバッグが作動した後の
衝突

200089

SRSエアバッグ警告灯

警告灯は、メーターに組み込まれており、運転席、助手席、サイドの各SRSエアバッグおよびシートベルトプリテンショナーと兼用になっています。エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯すれば正常です。

200094

⚠ 警 告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

⚠ 注 意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください

⚠ 警 告

- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  これらの作業が必要なときは必ずスバル販売店にご相談ください。
- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドル廻りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車体前面（車体側面）の板金塗装および修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- SRSサイドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしないでください。
  シートに内蔵されている SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- SRSサイドエアバッグ装着車では、センターピラーのセンサー格納部を分解、修理しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。分解、修理はスバル販売店で行ってください。
- SRSエアバッグが格納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずスバル販売店で交換してください。
  衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。
  無線機の電波などは SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

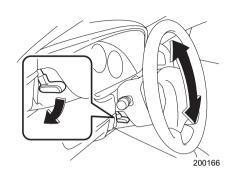
ハンドルとミラーの調整

チルトステアリング

運転姿勢に合わせてハンドル位置を上下に調整できます。

①チルトレバーを押し下げます。
②ハンドル位置を合わせます。
③チルトレバーを引き上げます。
④ハンドルが固定されたことを確かめてください。

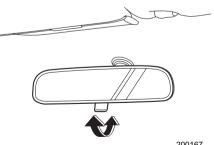
200166

⚠ 警 告

調整は必ず走行前に

- 走行中に操作すると、ハンドルが動いて危険です。
- ハンドル位置を調整した後は、確実に固定してください。固定が不充分な場合、ハンドル位置が突然変わり、重大な事故につながることがあります。

ルームミラー

■防眩ルームミラー

ミラー本体を動かして後方が充分確認できるように調整します。
通常はレバーを前方の位置にして使います。夜間走行時、後続車のヘッドライトランプがまぶしいときは、レバーを引きます。ライトの反射を弱くすることができます。

200167

⚠ 注 意

調整は必ず走行前に行ってください。

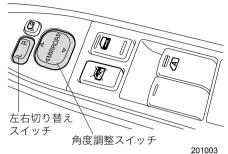
ドアミラー

■電動リモコンドアミラー

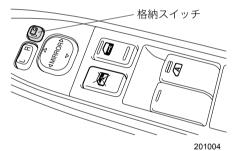
エンジンスイッチがAccまたはONのとき、ミラーの調整ができます。

① 調整するミラーを選びます。
左右切り替えスイッチを調整するミラー側に押して切り替えます。
「L」：左側ミラー、「R」：右側ミラー

② 「角度調整スイッチ」を上下左右に動かして後方視界が充分確認できる位置に調整します。

201003

■電動格納式ミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、左右のミラーを同時に格納できます。
スイッチを押し込むと格納します。
もう一度押すと元に戻ります。

201004

アドバイス

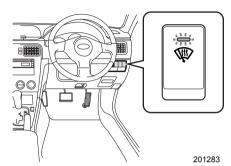
- 寒いときには、作動の途中で止まることがあります。もう一度スイッチを押してください。スイッチの操作で動かないときには、ドアミラーを手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して「格納⇔元に戻す」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。
- 格納状態から手動で元に戻すとドアミラーがグラグラすることがあります。必ず電動で元に戻してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてから電動で元に戻してください。

■ヒーテッドドアミラー

エンジンスイッチがONのとき使用できます。
ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使用します。フロントワイパーデアイサーに連動して作動します。

- フロントワイパーデアイサースイッチを押します。
  約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときはスイッチをもう一度押します。

☆3−15ページ参照

201283

アドバイス

消費電力が大きいので長時間の使用、または雪などを溶かすような使いかたは避けてください。

3 運転するとき

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ…… 3－ 2
ライティングスイッチ…… 3－ 5
オートヘッドランプレベラー(自動光軸調整機構)…… 3－ 6
光軸調整ダイヤル…… 3－ 7
方向指示レバー…… 3－ 9
ワイパー＆ウォッシャースイッチ…… 3－10
フォグランプスイッチ…… 3－14
フロントワイパーデアイサースイッチ…… 3－15
リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチ…… 3－15
ハザードランプ（非常点滅灯）スイッチ…… 3－16
パーキングランプ（駐車灯）スイッチ…… 3－17
ホーンスイッチ…… 3－17

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター…… 3－18
表　示　灯…… 3－21
警　告　灯…… 3－25

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた…… 3－30
駐車ブレーキレバー…… 3－32

マニュアル車の運転

チェンジレバー…… 3－33

オートマチック車の運転

セレクトレバー…… 3－35
運転手順…… 3－39
スポーツシフト…… 3－43
スノーホールドモードスイッチ…… 3－45
Info-ECOモードスイッチ…… 3－46

AWD 車の運転

運転するとき…… 3－47
ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD…… 3－48
VTD-AWD…… 3－48
アクティブトルクスプリットAWD…… 3－49

サスペンション

セルフレベリングサスペンション…… 3－50

VDC

ビークルダイナミクスコントロールシステム…… 3－51

ブレーキ

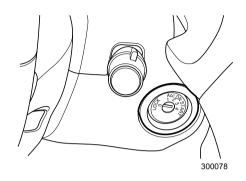
アンチロックブレーキシステム：ABS…… 3－56
ブレーキブースター（制動力倍力装置）…… 3－58

ハンドル

パワーステアリング…… 3－59

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

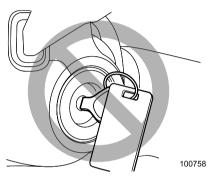
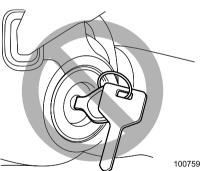
■各位置の働き

LOCK （ロック） 0	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます
1	電源が切れる位置 マニュアル車はキーを押し込む位置 オートマチック車は、セレクトレバーが P にあるときは、この位置は使えません
Acc （アクセサリー） 2	エンジン停止時、次のものが使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、電源ソケット
ON （オン） 3	エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます
START （スタート） 4	エンジンを始動する位置

⚠ 警 告

走行中 LOCK にしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

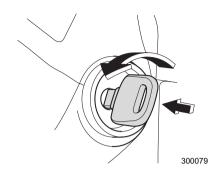
⚠ 注 意

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。
  大型のキーホルダーはキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。また、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

アドバイス

- エンジンを止めているときスイッチをLOCKにしてください。
- 長時間ONにしたり、Accにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーがLOCKからAccに回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

オートマチック車は、セレクトレバーをPにしてキーをLOCKに回してください。
マニュアル車は、「1」（キーを手前に回すと動かなくなる位置、エンジンスイッチに1と刻印）でキーを押し込んでからLOCKに回してください。

アドバイス

ルームランプを中間（ドア連動）位置、カーゴルームランプをDOOR位置にしている場合、キーを抜くと一旦点灯し、徐々に消灯します。
☆4−47ページ参照

■キー抜き忘れ警報

（キーを抜き忘れるとブザーが鳴ります）
キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴り、エンジンキー照明が点滅します。
ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

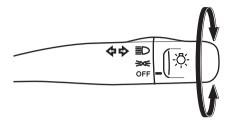
アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■エンジンキー照明（イグニッションキー照明）

エンジンスイッチの周辺が点灯します。
運転席のドアを開けたとき点灯し、閉めた後も5秒間点灯し、その後消灯します。また、キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けると点滅します。ただし、エンジンスイッチがONのときは点滅しません。

ライティングスイッチ

ハンドルの右側のレバーがライティングスイッチです。
エンジンスイッチが ON のときスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。

300080

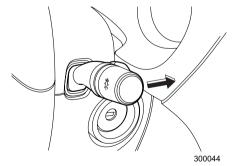
スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯、メーター照明
OFF	消灯	
	消灯	点灯
	点灯	

アドバイス

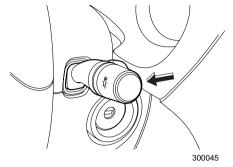
エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。バッテリー上がりを起こします。

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押すと上向きになります。
元に戻すと下向きになります。

300044

■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引いている間、ヘッドランプの上向き、下向きが同時に点灯します。
ライティングスイッチがOFFでも使えます。

300045

オートヘッドランプレベラー (自動光軸調整機構) ✤

下向きヘッドランプにHID（高輝度放電式ランプ）が装着されている車には、自動光軸調整機構がついています。
ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。

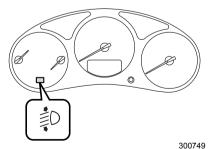
⚠ 警 告

HID バルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。バルブの脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約3秒間点灯し、消灯するのが正常です。
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

300749

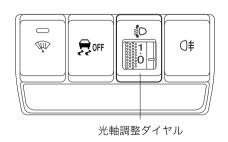
⚠ 注 意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- HIDバルブは、点灯、消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。信号待ちなど短時間の場合は、点灯したままの方がバルブが長持ちします。
- バルブが切れかかると、一般の蛍光灯と同じように、著しく明るさが低下したり、点滅したり、赤味を帯びた色になることがあります。そのような現象が現れるときは、スバル販売店にご相談ください。
- HIDランプは点灯するとき、安定するまでに若干明るさや色が変化することがあります。
- HIDランプは、発熱量が少ないため雪道走行の際、レンズ面に積もった雪が溶けにくい特性があります。雪を落として走行してください。

光軸調整ダイヤル

下向きヘッドランプにハロゲンランプが装着されている車には、光軸調整ダイヤルがついています。ヘッドランプの下向き点灯時に使います。
エンジンスイッチがONのとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプの照らす向きは下側になります。

300751

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にダイヤル位置を調整してください。

CROSS SPORTS車

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	無
2	2名	3名	有※
3	1名	0名	有※
4	—	—	—
5	—	—	—

CROSS SPORTS車以外

- セルフレベリングサスペンション装着車

<table>
<tr><th>ダイヤル位置</th><th>前席乗車人数</th><th>後席乗車人数</th><th>荷室への積載</th></tr>
<tr><td rowspan="2">0</td><td>1名もしくは2名</td><td>0名</td><td>無</td></tr>
<tr><td>2名</td><td>3名</td><td>無もしくは有※</td></tr>
<tr><td>1</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>2</td><td>1名</td><td>0名</td><td>有※</td></tr>
<tr><td>3</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>4</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>5</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
</table>

- セルフレベリングサスペンション装着車以外

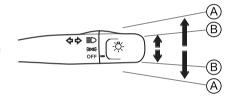
ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	—	—	—
2	2名	3名	無もしくは有※
3	—	—	—
4	—	—	—
5	1名	0名	有※

※最大許容重量まで積載した場合

アドバイス

- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑となります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- ハロゲンヘッドランプの光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

方向指示レバー

ハンドルの右側のレバーが方向指示レバーです。
エンジンスイッチが ON のとき、レバーをⒶの位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。
右折あるいは左折後、ハンドルを戻すと自動的に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。
☆3－21ページ参照

300081

アドバイス

車線変更の合図をするには
レバーを変更しようとする方向に軽く押さえていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。（Ⓑ 位置）
手を離すと元の位置に戻ります。

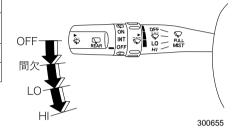
ワイパー＆ウォッシャースイッチ

ハンドルの左側のレバーがワイパー＆ウオッシャースイッチです
エンジンスイッチがAccまたはONのとき使用できます。

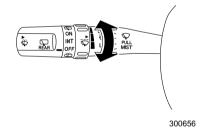
■フロントワイパーの作動

レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

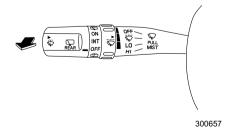
OFF	停止
	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動

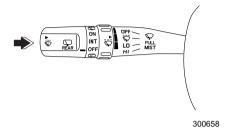
300655

●間欠作動の時間調整

レバーを1段押し下げます。
リングを回し間欠作動の間隔を調整します。
作動の間隔は2秒から16秒の間で調整できます。
リングを上に回すと作動間隔が短くなり、下に回すと長くなります。

300656

●ワイパーを手動で使いたいときには（MIST）

レバーを手前に引いている間、ワイパーが動きます。手を離すと停止します。

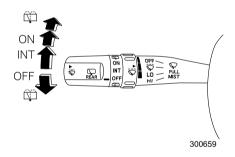
300657

●**フロントウォッシャー**
スイッチを押している間、ウォッシャー液が噴射します。

300658

アドバイス

スイッチを押すと連動してワイパーが1〜2回動きます。

■リヤワイパー／ウォッシャーの作動

スイッチを回すと作動します。

300659

（上側）	ウォッシャー液が噴射し、手を離すとONに戻ります。
ON	連続で作動
INT	間欠で作動（9秒おき）
OFF	停止
（下側）	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。 手を離すとOFFに戻ります。

アドバイス

- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ガラスに拭き残りができるときにはワイパーブレードのラバーを交換してください。

☆6－18ページ参照

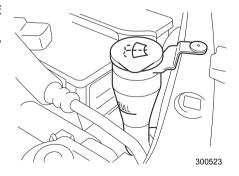
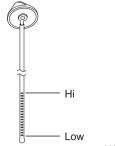
- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。
ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止します。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
  - フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを（デフロスター）にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
  - リヤガラスは、リヤウインドゥデフォッガーを使用してください。

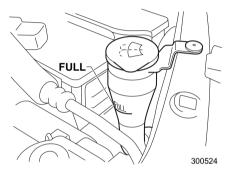
☆3－15、4－8ページ参照

- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にワイパーが止まることがあります。その場合には、車を安全な場所に停めて、一度ワイパースイッチを OFF にしてください。10 分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- ゴミなどがつまる等、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

■ウォッシャータンク

運転前にウォッシャー液の量を点検してください。
ボンネットを開け、向かって右側のヘッドランプ後ろに給水口があります。フロントとリヤの共用になっています。

300523

キャップを外し、キャップに付いているレベルゲージで液量を点検します。

レベルゲージ下部の穴（レベル）に液量の膜が付着していることを確認してください。
付着していない場合、ウォッシャー液をレベルゲージのHiの位置、あるいは注入口のFULL位置まで補給してください。
補給するときは、注入口のFULL位置以上ウォッシャー液を入れないでください。
(FULL位置は、注水ホースのほぼ中央にあり、エンジン側に記載されています。リザーバータンクの脇から確認するか、注水口を覗き込んで確認してください。)

⚠ 注 意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでは、ウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。

☆4－4ページ参照

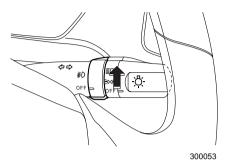
- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液を外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

☆5－4ページ参照

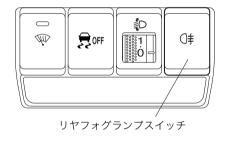
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないよう注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

フォグランプスイッチ

■フロントフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONでライティングスイッチが またはのとき、スイッチを回すとフロントフォグランプが点灯します。
フロントフォグランプ点灯中はメーター内の表示灯が点灯します。

300053

■リヤフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONでフロントフォグランプまたはヘッドランプが点灯しているとき、スイッチを押すとリヤフォグランプが点灯します。
リヤフォグランプ点灯中はメーター内の表示灯が点灯します。

300054

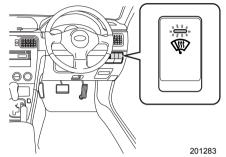
アドバイス

- リヤフォグランプの消し忘れ防止のため、下記の操作をすると、リヤフォグランプは消灯します。
  – ライティングスイッチをOFFにした場合
  – フロントフォグランプスイッチをOFFにした場合
  再度リヤフォグランプを点灯させるには、ヘッドランプまたはフロントフォグランプを点灯させ、リヤフォグランプスイッチを押してください。
- フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計しているため、ヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。
- リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

フロントワイパーデアイサースイッチ

フロントワイパーデアイサーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。
フロントワイパーがガラスに凍結（ワイパー停止位置）しているとき、ガラスを暖めてワイパーが作動できるようにします。
電熱線はフロントガラスの下部にプリントしてあります。

- スイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、フロントガラスの下側が暖められます。約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めたいときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）

201283

アドバイス

- ワイパーデアイサーは消費電力が大きいので必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 物が電熱線に当たらないように気をつけてください。
- デアイサースイッチを押すと、デアイサーの作動と連動してミラーヒーターが作動します。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチ

リヤウインドゥデフォッガーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの中にあります。リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。
電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

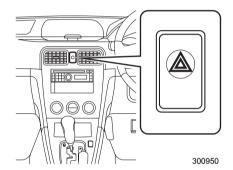
- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）

300055

アドバイス

- 消費電力が大きいので長時間使用や雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の掃除時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。

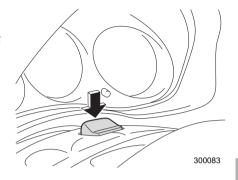
ハザードランプ（非常点滅灯）スイッチ

ハザードランプは、エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。
やむを得ず路上に駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。スイッチを押すと方向指示器が点滅します。

アドバイス

- 非常のとき以外は使わないでください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

パーキングランプ（駐車灯）スイッチ

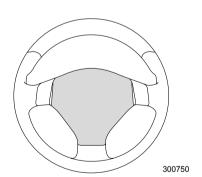
夜間、路上に一時駐車するとき使用します。エンジンスイッチの位置に関係なく、コラムカバー上面のスイッチを押すと前後の駐車灯が点灯します。

300083

アドバイス

長時間点灯したままにすると、バッテリー上がりの原因になります。短時間の駐車にご利用ください。

ホーンスイッチ

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。

300750

アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

■スピードメーター

車の走行速度を示します。

アドバイス

速度警告装置はついていません。
スピードを出し過ぎないようにしてください。

■ タコメーター（エンジン回転計）

毎分のエンジン回転数を示します。

注 意

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

アドバイス

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター（燃料計）

燃料の残量を示します。指針が「E」に近づいたら早めに給油をしてください。
エンジンスイッチの位置に関係なく燃料の残量を示します。
☆2−15ページ参照

301071

⚠ 注 意

燃料給油は、必ずエンジンを止めて行ってください。
☆1−25ページ参照

アドバイス

- エンジンスイッチが切れているとき、温度変化や振動で指針が若干変わる場合があります。
- 補給後エンジンスイッチをONにしてから指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- エンジンスイッチがONのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示されません。

■水温計

エンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。
冷却水が暖まると指針はオーバーヒートゾーンより下（ゲージのほぼ中央）を示します。

300587

⚠ 注 意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。
☆7−18ページ参照

アドバイス

エンジンスイッチがOFFのときは、指針は冷却水の温度に関係なく「C」を示します。
「H」：高温（HOT）
「C」：低温（COLD）
を示しています。

■オドメーター（積算距離計）

メーター下段に走行した総距離を km で表示します。

300088

アドバイス

エンジンスイッチが「ON」以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、約10秒間バックライトが点灯し、オド／トリップメーターを表示します。

■トリップメーター（区間距離計）

メーター上段に表示され、ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。表示範囲は0.0 km～9999 kmです。0.0 km～999.9 kmでは0.1 km単位、1000 km～9999 kmでは1 km単位で積算します。
AとB、2種類の設定ができます。

300089

●トリップ[A]、[B]切り替え

トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

トリップメーター[A] → トリップメーター[B]

↑________________________|

●トリップメーター[A]・[B]を0に戻すとき

トリップ[A]またはトリップ[B]のうち、リセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し続けると0に戻ります。

アドバイス

エンジンスイッチが「ON」以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、約10秒間バックライトが点灯し、オド／トリップメーターを表示します。

表　示　灯

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。

アドバイス

方向指示器のバルブ（電球）やヒューズが切れたときあるいはワット数の異なったバルブ（電球）を使うと点滅の速さが異常になります。
すみやかに点検し、異常のあるバルブ(電球)やヒューズを交換してください。
☆6−20ページ参照

■ スノーホールドモード表示灯（オートマチック車）

スノーホールドモードを選択したときに点灯します。
☆3−45ページ参照

■ハイビーム／パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きのとき点灯します。
また、パッシング時も点灯します。

■Info-ECO(インフォ・エコ)モード表示灯(オートマチック車)

ECO

「ECO」スイッチを押してInfo-ECOモードを選択したときに点灯します。
表示灯が点灯中は、燃費の良い走行状態であることを示しています。
急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、一時的に通常モードに戻ります。このとき表示灯は消灯します。
☆3－46ページ参照

⚠ 注 意

Info-ECO モード表示灯が点滅を繰り返すときは、オートマチック制御システムの異常を知らせています。すみやかにスバル販売店に連絡してください。

アドバイス

Info-ECOモード表示灯は、エンジンスイッチONで点灯し、エンジンが始動してから約2秒後消灯します。

■VDC作動表示灯 ✤

VDC作動時は点滅します。このときブザー(ピピピ音)が鳴ります。
TCS作動時は点灯します。
☆3－51ページ参照

⚠ 注 意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および、エンジンスイッチON後、約2秒たっても消灯しない場合はVDCの電子制御システムの異常が考えられます。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

エンジンスイッチONで点灯、約2秒後消灯します。

■シフトポジション表示灯（スポーツシフト装着車）

セレクトレバーの位置やスポーツシフトでマニュアルモード選択時、現在のシフトポジションをデジタル表示します。
また、シフトアップ、シフトダウンへの変速が可能状態であるかを示す“△”／“▽”印が点灯します。

☆3−43ページ参照

300059

■セレクトポジション表示灯（スポーツシフト装着車以外のオートマチック車）

セレクトレバーの位置を示します。

☆3−35ページ参照

300092

■外気温表示

外気温度を表示します。

スポーツシフト装着以外のオートマチック車

300973

スポーツシフト装着のオートマチック車

300974

次ページへ ⇒

⇒前ページより

マニュアル車

表示温度範囲は－30 ℃～50 ℃です。

OUT.
TEMP 24°C

300949

> **アドバイス**
>
> 下記の場合、エンジンの熱や路面の照り返しにより、外気温度を正しく表示しないことがあります。
> - 停車時
> - 渋滞時
> - 低速走行時
> - 走行後の再始動時

■フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプが点灯しているとき表示灯が点灯します。

> **アドバイス**
>
> フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計していますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

■リヤフォグランプ表示灯

リヤフォグランプが点灯しているときに表示灯が点灯します。

> **アドバイス**
>
> リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

■イモビライザー表示灯

通常は点滅しています。
エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯します。

> **⚠ 注 意**
>
> 登録されていないキーを使用すると表示灯が点灯します。
> ☆2－3ページ参照

警　告　灯

■エンジン警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点灯します。

> **⚠ 注 意**
>
> エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムに異常があります。
> 高速走行を避け、直ちにスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

■ブレーキ警告灯

エンジン回転中、次の場合に点灯します。
- 駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション（EBD）の電子制御システムに異常があるとき
  EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3－58ページ参照

> **⚠ 注 意**
>
> - エンジン回転中に駐車ブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し点検を受けてください。
> - ブレーキ液が正常で、ABS警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム（ABS）に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
>   直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯

エンジンスイッチがONのとき、運転者がシートベルトを装着していないときに点灯します。

☆2−35ページ参照

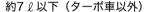
■半ドア警告灯

エンジンスイッチの位置に関係なくドアが完全に閉じていないときに点灯します。
リヤゲートが完全に閉じていないときも点灯します。

⚠注 意

警告灯が点灯したままの状態で走行しないでください。

■燃料残量警告灯

エンジンスイッチがONのとき、燃料残量が下記の残量以下になると点灯します。
約9ℓ以下（ターボ車）
約7ℓ以下（ターボ車以外）

アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■オイルプレッシャー警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。

⚠注 意

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。
オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■チャージ警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

> **注 意**
>
> エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店で点検を受けてください。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約2秒間点灯し、消灯するのが正常です。
アンチロックブレーキシステム（ABS）の電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3－56ページ参照

> **注 意**
>
> 警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

> **アドバイス**
>
> 警告灯が下記の場合は正常です。
>
> - エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
> - エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが､車速12 km/hになったとき消灯する。
> - 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■SRSエアバッグ警告灯

AIR
BAG

エンジンスイッチをONにしたとき約6秒間点灯し、消灯するのが正常です。
運転席・助手席エアバッグ、サイドエアバッグ（装着車）、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。

> **警 告**
>
> 警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
>
> - エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
> - 走行中に点灯したとき

> **⚠ 注 意**
>
> 上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■AWD警告灯（オートマチック車）

AWD

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。

VDC装着車および クロススポーツターボ車以外	スペアタイヤに交換するためAWDを解除し、2WD（二輪駆動）にしたとき点灯します。また、異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき、または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅します。 ☆3−49ページ参照
VDC装着車および クロススポーツターボ車	異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき、または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅します。

> **⚠ 注 意**
>
> - AWD 警告灯が点滅したまま走行を続けると駆動装置が損傷する可能性があります。AWD 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に駐車し、４本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。
> - タイヤに異常がない場合にはすみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■VDC警告灯／VDC OFF表示灯 ✤

- ビークルダイナミクスコントロール（VDC）、TCS機能が非作動状態（待機状態）のときは点灯します。VDC OFFスイッチを押してこれらの機能を非作動状態にしたときも点灯します。
  VDC警告灯はエンジンスイッチONで点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3−51ページ参照

⚠ 注 意

警告灯が点灯したままのとき

- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動するため、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯がエンジンを始動してから数分たっても消灯しない場合は、異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 警告灯が下記の場合は正常です。
  - エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
  - エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
  - 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。
- 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約3秒間点灯し、消灯するのが正常です。
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

⚠ 注 意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動（マニュアル車）

●エンジンをかける前に

①駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
②チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

①運転席にすわり、ブレーキペダルを踏みます。
②クラッチペダルをいっぱいに踏みます。
③エンジンスイッチにキーを差し込み、STARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

アドバイス

<クラッチスタートシステム>
マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らず、エンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動（オートマチック車）

●エンジンをかける前に

①駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
②セレクトレバーがPであることを確認します。（Nでも始動できますが、安全のためPで始動してください。）

●エンジンのかけかた

①運転席にすわり、ブレーキペダルを踏みます。
②エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

⚠警 告

車庫や屋内などの換気の悪いところで、エンジンをかけたままにしないでください。
車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠注 意

- エンジンを始動するときは必ず運転席にすわって行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けないでください。スターターが故障する原因になります。かからないときは一旦スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回します。

アドバイス

- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまでエンジンスイッチをSTARTに回します。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンスイッチをSTARTに回します。エンジンがかからない場合は、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んで、エンジンスイッチを START に回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を離してください。
  それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチを START に回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、ライティングスイッチ、エアコンスイッチ、リヤウインドゥデフォッガースイッチをOFFにしたほうが、容易に始動します。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合があります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- 急発進、急加速時等、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■エンジンの停止

アイドリング回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。

アドバイス

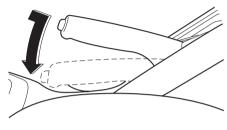
車両が停止した直後は、エンジン回転がアイドリング回転数に戻るまで時間が多少かかることがあります。

駐車ブレーキレバー

■使用するとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。

■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。

300095

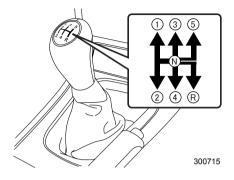
⚠ 注 意

- 駐車するときは車が動きださないように確実に引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。レバーを引いたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

マニュアル車の運転

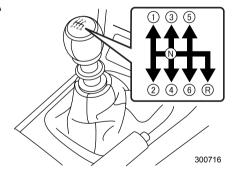
チェンジレバー

■5速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで確実に操作してください。

⚠ 注 意

5 速マニュアル車は誤操作を防ぐため、“5”→“R”へ直接入れることはできません。一度“N”に入れてから“R”に入れてください。

■6速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで確実に操作してください。

“R”に入れるときはプルリングを引き上げたままレバーを操作してください。
“R”にするとブザーが鳴ります。
レバーを“N”に戻すと、プルリングは元の位置に戻ります。

⚠ 注 意

レバーを“N”に戻してもプルリングが元の位置に戻らないときはシステムの異常が考えられます。この場合スバル販売店で点検を受けてください。

⚠ 注 意

- “R”に入れるときは車が完全に止まり、エンジン回転がアイドリング回転まで下がってから入れてください。エンジン回転が高いままだとトランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。

アドバイス

変速時、ギヤが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。

オートマチック車の運転

セレクトレバー

■各位置での働き

P (パーキング)	駐車およびエンジン始動位置	駐車のときは必ず駐車ブレーキをかけてPにしてください
R (リバース)	後退位置	ブザーが鳴り、ドライバーにRであることを知らせます。
N (ニュートラル)	中立位置	
D (ドライブ)	通常走行位置	車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速⇔2速⇔3速⇔4速を自動的に変速します。
3 (サード)	登・降坂路走行位置	エンジンブレーキが必要なとき、登り坂走行などで使います。1速⇔2速⇔3速に自動的に変速します。
2 (セカンド)	登・降坂路走行位置	さらに強くエンジンブレーキが必要なとき、急な登り坂、湿った砂地などで使います。1速⇔2速に自動的に変速します。
1 (ファースト)	登・降坂路走行位置	強力なエンジンブレーキが必要なとき、急な登り坂、砂地、泥道からの脱出などに使います。1速に固定されます。

☆1−10ページ参照

⚠ 警 告

発進時は絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- Pでエンジンをかけてください。
  Nでもエンジンはかかりますが、安全のためPでかけてください。
- P、Rに入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- 切り返しのとき、D→R、R→Dと何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルを確実に踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- Rに入れるとブザーが鳴り、Rであることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐにRからNに戻す習慣をつけてください。

アドバイス

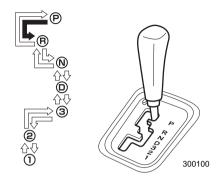
- オートマチック車は低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)
- 通常Dで走行中はよりスムーズな走りを実現するため、下記の制御を行っております。
  - Nコントロール
    このトランスミッションには「N コントロール」機能が装備されています。車が完全に停止した後、セレクトレバーがDのままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。
    「Nコントロール」機能が装備されているため、一時停止などからの再発進時、ブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間(約1秒)がかかります。
  - 登坂制御
    登坂での不要なアップ・ダウンを防ぎます。
  - 降坂制御
    急な降坂路でブレーキを踏んだとき、エンジンブレーキを効かせるために通常より高い車速でシフトダウンする場合があります。

■ゲート式セレクトレバー&スポーツシフト付セレクトレバーの操作方法

●ゲート式セレクトレバー

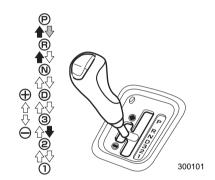
レバーは、各位置で確実に止まるところまで動かしてください。

⬇	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
⇩	そのままゲートに沿って動かします。

300100

●スポーツシフト付セレクトレバー

レバーは、各位置で確実に止まるところまで動かしてください。

	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。
	ボタンを押さずに操作します。
	ボタンを押したまま操作します。

300101

アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Pのときは、レバーを助手席側（スポーツシフト付セレクトレバーはレバーを手前側）に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCKまたはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り替えられません。

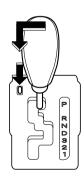
■シフトロックシステム

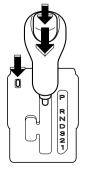
セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- Pからのレバー操作は、エンジンスイッチを ON にしブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- ゲート式セレクトレバー装備車の場合、レバーをPから他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- P以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
  (P以外ではキーをAccからLOCKに回せません)
- NでエンジンスイッチをOFFにした場合、しばらくするとレバーをPに操作することができなくなる場合がありますので直ちにPに操作してください。
  もし、セレクトレバーがNからPに操作できないときは、エンジンスイッチをONにしてからPへ操作してください。あるいは、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーをPに操作してください。

●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れ等で、セレクトレバーをPから動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

スポーツシフト装着車以外：
ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンを押した状態でセレクトレバーを動かします。

100079

スポーツシフト装着車：
ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンとセレクトレバーボタンを押した状態でセレクトレバーを動かします。

100549

この場合はシフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

運転手順

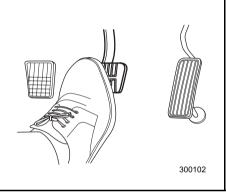
■エンジンをかける前に

①正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。

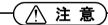
☆2－24ページ参照

②アクセルペダルの位置を右足で確認します。

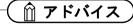
③ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。（踏み間違いは事故につながるおそれがあります。）

■エンジン始動

①駐車ブレーキレバーが確実に引いてあることを確認します。

②セレクトレバーがPであることを確認します。

Nでも始動できますが、安全のためPで行ってください。

③ブレーキペダルを右足で踏んだまま（アクセルペダルは踏まないこと）

④エンジンスイッチをSTARTに回し、エンジンを始動します。

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。

■発進

①ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

⚠警告

確実にブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると、急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

②セレクトレバーを[D]（前進）または[R]（後退）に入れます。
③セレクトレバーの位置を確認します。
④駐車ブレーキレバーを戻します。
⑤右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換え、ゆっくりと加速します。

⚠注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1－10ページ参照

- 後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内でブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し
①駐車ブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを離し、アクセルペダルをゆっくり踏みます。
②車が動きだす感覚を確認しながら、駐車ブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■走行

通常の走行：

[D]で走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

☆1－10ページ参照

上り坂では：

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを[3]、[2]、[1]にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂では：

エンジンブレーキを併用してください。

☆1−18ページ参照

急な下り坂では：

セレクトレバーを[2]または[1]に入れると、さらに強いエンジンブレーキがかかります。

⚠警告

走行中はセレクトレバーを[N]にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

アドバイス

急発進、急加速等、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■駐車

① 車を完全に止めます。

⚠注意

車が完全に止まらないうちにセレクトレバーを[P]に入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

② ブレーキペダルを踏んだままの状態で、駐車ブレーキレバーを確実に引きます。
③ セレクトレバーを[P]に入れます。
セレクトレバーが[P]のときは、車が動きだす心配がなく、より安全です。
④ エンジンを止めます。

☆1−21ページ参照

⚠ 注 意

車から離れるときは、必ずセレクトレバーをPに入れ、エンジンを止めてください。

■停車

① Dのままブレーキペダルを確実に踏みます。

⚠ 注 意

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でP、N以外に入れた状態で、アクセルを吹かしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

② 必要に応じて駐車ブレーキレバーを引きます。
③ 長時間停車するときはPにします。
④ 停車後、再発進するときは、セレクトレバーがDにあることを確認して発進します。

⚠ 注 意

- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。
- ブレーキペダルを踏み込み、確実に駐車ブレーキレバーを引いてください。

アドバイス

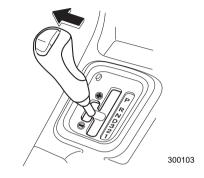
オートマチック車には、「Nコントロール」機能が装備されています

車が完全に停止した後、セレクトレバーがDのままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。
再発進時はブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）がかかります。
アクセルペダルを踏むとギヤはつながりますが、急な上り坂での再発進時は、駐車ブレーキを併用することをお奨めします。

スポーツシフト

■マニュアルモード

セレクトレバーをDからマニュアルゲートに動かすとマニュアルモードになります。

300103

■シフトポジション表示灯

マニュアルモードが選択されると表示灯が点灯（図中①）し、現在の変速ギヤの表示（図中②）とアップ、ダウンの変速の可否をシフトアップ、シフトダウン可能表示灯の点灯によりお知らせします。（図中③、④）
シフトアップ、シフトダウン可能表示灯が消灯している状態ではシフトアップ・ダウンはできません。

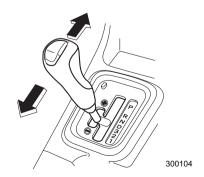
300061

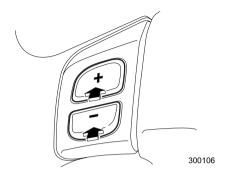
①スポーツシフト表示灯
②変速ギヤ表示
③シフトアップ可能表示灯
④シフトダウン可能表示灯

■シフト操作

●セレクトレバー

1段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊕方向に押します。1段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊖方向に引きます。

300104

●ステアリングスイッチ

1段上のギヤに変速するときは、ハンドル上のステアリングスイッチの⊕ボタンを押します。1段下のギヤに変速するときは、ハンドル上のステアリングスイッチの⊖ボタンを押します。

●マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートから[D]に移動させます。

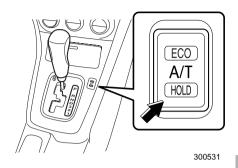
⚠ 注 意

スポーツシフト操作時は以下の注意をよくお読みください。

- オートマチックトランスミッションの油温が通常時より低い場合、また高い場合、オートマチックトランスミッション保護のため、ピーピーピーとブザーが鳴り、シフト表示は“－”と表示されます。マニュアルゲートから[D]にレバーを戻してください。
- マニュアルモードでは自動的にシフトアップしません。そのときの道路状況に合わせて、エンジン回転がレッドゾーンに入らないように適切にシフトチェンジしてください。また、エンジン回転数が規定の回転数に達すると燃料カットが働きます。シフトアップ操作をしてください。
- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン以上になる場合）でシフトダウン操作をした場合、“ピピ”とブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- セレクトレバーまたはシフトスイッチをすばやく2回操作すると、ギヤを1段飛びこします。
- 車が停車したとき、自動的にギヤは1速になります。
- マニュアルモードでは、スノーホールドモードスイッチをONにしてもマニュアルモードが優先されます。スノーホールドモードを使用する場合、マニュアルゲートから[D]にレバーを戻してください。

スノーホールドモードスイッチ

セレクトレバーが2・3・Dのときスイッチを押すと2速からの発進となるため、雪道など滑りやすい路面ではなめらかに発進できます。スイッチをONにしたとき、変速は次のようになります。

セレクトレバー	変速
D	2速⇔3速⇔4速
3	2速⇔3速 発進時、極低速時は2速になります。
2	2速固定

アドバイス

- セレクトレバーがどの位置にあってもスイッチは押せますが、機能が働くのは2・3・Dのときだけです。
- スイッチを押すと、スノーホールドモードになり、メーター内の「HOLD」表示灯が点灯します。

☆3−21ページ参照

Info-ECOモードスイッチ ✤

運転条件に応じて走行モード(ノーマルモード、Info-ECOモード)を選択するスイッチです。

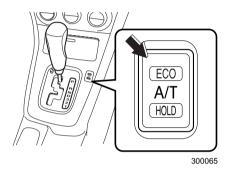
●ノーマルモード

通常の走行で使用するモードです。
「ECO」スイッチがOFFで“ECO”表示灯は消灯しています。

●Info-ECOモード

エンジンおよびオートマチックトランスミッションの最適な制御によって燃費を向上させるモードです。
“ECO”表示灯が点灯中は、エンジンおよびオートマチックトランスミッションが低燃費走行に最適な制御をしていることを示しています。
急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、一時的にノーマルモードに戻ります。このとき“ECO”表示灯は消灯します。
“ECO”表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

300065

アドバイス

- スイッチが押されていないときは、「ノーマルモード」です。
  スイッチを押すと「Info-ECOモード」になり、メーター内の「ECO」表示灯が点灯します。また、走行中「ノーマルモード」に戻る場合は消灯します。

☆3−22ページ参照

- Info-ECOモード選択時にマニュアルモードにすると“ECO”表示灯が消灯し、Info-ECOモードは解除されます。

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤが沈み込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
  やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
  この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WDより安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
  カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では充分にスピードを落とし、安全な速度で車間をとって慎重に走行してください。

⚠ 警 告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

  なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避け、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引、および後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛びだすことがあります。

☆7－14ページ参照

ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD

マニュアル車の機構です

ビスカスカップリング付センターデフ機構を採用しています。前後輪に回転差が生じたとき路面状況にあった駆動力が前後輪に配分され、雪道、ぬかるみ、滑りやすい路面で安定した走行性能を発揮します。

VTD-AWD

VDC装着車およびクロススポーツターボのオートマチック車の機構です

VTD-AWD（不等＆可変トルク配分電子制御AWD）を採用しています。走行状態、路面状態に応じて前後輪の駆動力配分を電子制御し、あらゆる路面で安定した走行性能を発揮します。

アクティブトルクスプリットAWD

VDC装着車およびクロススポーツターボ車を除くオートマチック車の機構です

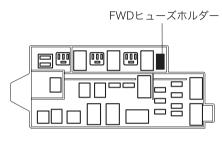
アクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子的に制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

■全輪駆動の強制解除

(VDC装着車およびクロススポーツターボ車を除くオートマチック車)
応急用スペアタイヤを装着するときは、全輪駆動を解除します。

① エンジンルーム内のFWDヒューズホルダーに、ヒューズカバー裏のスペアヒューズ(どれでも可能)を差しこみます。
② 全輪駆動が解除され、前二輪駆動になったときは、メーター内の AWD 警告灯が点灯します。
③ タイヤの修理あるいは交換後、すみやかに FWD ヒューズホルダーからスペアヒューズを抜いて全輪駆動状態に戻してください。
④ 抜いたスペアヒューズは、ヒューズカバー裏に戻します。

☆7−4ページ参照

⚠ 注 意

FWD ヒューズホルダーからスペアヒューズを抜かずにそのまま走行を続けると、駆動装置が損傷する原因となります。

サスペンション

セルフレベリングサスペンション

リヤサスペンションのダンパーには、セルフレベリング（後輪車高調整）機能が組み込まれています。
荷物や乗員を乗せたときに車両後部が下がるのを防ぎ、通常の車高を保つように調整します。

■積載時

重い荷物や乗員を乗せると車両後部が下がりますが、しばらく走行すると、自動的に車両を通常の車高に調整します。

300532

■積載を降ろしたとき

荷物や乗員を降ろすと通常よりも車高が高くなりますが、しばらく走行すると自動的に通常の車高に戻ります。

300533

⚠ 注 意

最大積載重量を超えて使用しないでください。セルフレベリングサスペンションの故障の原因となります。

アドバイス

積載状態で長時間放置すると、徐々に車高は低下します。（積載量に応じて低下量は変化します。）

VDC

ビークルダイナミクスコントロールシステム

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。
VDC システムは、横滑りや尻振り、車輪が空転を起こしそうになると ABS 機能、トラクションコントロール（TCS）機能および横滑りコントロール機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制して走行時の方向安定性を確保する装置です。

■トラクションコントロール（TCS）機能

トラクションコントロール（TCS）機能は、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。
この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点灯します。
☆3−53ページ参照

●電子制御リミテッド スリップ デファレンシャル（LSD）機能

トラクションコントロール（TCS）機能の中には、リミテッドスリップディファレンシャル（LSD）機能も含まれます。この機能は、一般的なLSDの機能と同様に、左右輪の片輪がスリップ（空転）しそうになると、もう片方の車輪にも駆動力を伝え、滑りやすい路面上でも駆動力を確保する機能です。

■横滑りコントロール（VDC）機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。
この機能が作動すると、VDC作動表示灯の点滅と同時にブザー（ピピピ音）が鳴ります。
☆3−53ページ参照

⚠ 注 意

- VDCを過信しないでください。VDCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- VDCが作動するような路面では車速を充分に落として運転してください。
- サスペンション構成部品、ハンドル構成部品、アクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

次の事項は必ず守ってください

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンを装備するときは、5−2 ページの記載事項をお守りください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- VDC装着車であってもカーブなどの手前では、充分に速度を落としてください。
- VDCが正常に機能しなくなることがありますので、一般タイヤおよび冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときは、下記事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定された位置に装着してください。

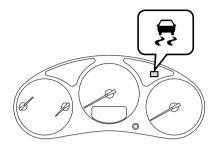
☆8−6ページ参照

アドバイス

- VDCが作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じることがあります。これは、VDCが作動している状態で、正常です。
- エンジンをかけた後、および最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がします。これは、VDCの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンをかけた後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じることがあります。これは、VDCの作動をチェックしている動きで、正常です。
- VDC が作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- 応急用スペアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。
  他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。
- タイヤ交換の際は必ずエンジンスイッチをOFFにしてください。
  エンジンをかけたままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

☆6−15、7−3ページ参照

■VDC作動表示灯

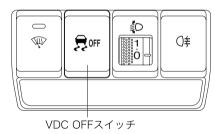
VDC 機能作動時は点滅します。このときブザー音（ピピピ音）が鳴ります。
TCS機能作動時は点灯します。

300067

アドバイス

エンジンスイッチがONで点灯、約1秒後消灯するのが正常です。

■VDC OFFスイッチ

下記のような特殊な状況下においてTCS機能、VDC機能を一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が走破性が向上するという場合に使用します。

- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき。
- ぬかるみ、深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき。

300534

- エンジン回転状態のとき、VDC OFFスイッチを押すと、VDC警告灯／VDC OFF表示灯が点灯し、VDC機能、TCS機能が作動停止状態になり、VDC機能、TCS機能が装備されていない車両と同じ走行性能になります。
  ただし、作動停止状態でも電子制御LSD機能は残ります。
- 作動可能状態に復帰させるときには、もう一度VDC OFFスイッチを押します。

注 意

VDC機能、TCS機能を解除したままにすると、駆動力を向上する機能、車両安定性を高める機能は働きません。
そのため必要なとき以外は、VDC機能、TCS機能を作動停止状態にしないでください。

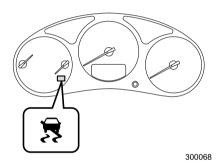
アドバイス

- VDC OFFスイッチを10秒以上押し続けるとメーター内のVDC警告灯／VDC OFF表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなりますが、これは正常です。
  この場合は、一度エンジンスイッチを切り、再度エンジンを始動すれば元に戻ります。
- エンジンを始動すればVDC機能、TCS機能は自動的に作動可能状態になります。

■VDC警告灯／VDC OFF表示灯

VDC警告灯／VDC OFF表示灯は、以下の場合に点灯します。

- VDCの電子制御システムに異常があるとき。
- VDC機能、TCS機能が非作動状態（待機状態）のとき。
- VDC OFFスイッチを押してVDC機能､TCS機能を非作動状態にしたとき。

300068

注 意

- 下記の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
  - エンジンスイッチONで点灯しないとき
  - 点灯したままのとき
  ただし、エンジンスイッチを一気にSTART（エンジン始動）にした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。再度エンジンスイッチをOFFまで戻し、ONで約1秒止めてからSTART（エンジン始動）にして、消灯する場合は、異常ではありません。
  上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動するため、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCのついていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯がエンジン始動してから数分たっても点灯し続ける場合は、異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- VDC警告灯はエンジンスイッチONで点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯するのが正常です。また、次の場合も正常です。
  - エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
  - エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
  - 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

☆3－28ページ参照

- 寒い朝などにエンジンを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。
危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。
ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。

⚠ 注 意

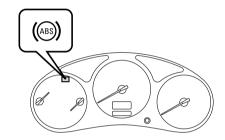
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABS を過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなることがあります。
  - マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
  - 道路のつなぎ目などの段差
  - 凹凸路、石畳などの悪路
  - 下り坂での旋回
  - 路肩に草や砂利が多い道路
  - 砂利道
  - 雪路（新雪路、圧雪路、アイスバーンなど）
- タイヤチェーン装着時には ABS の付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
  とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

ABSが作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

- ABS が作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
  これはABSが作動している状態を現しており異常ではありません。そのままブレーキペダルを確実に踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の現象がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで、異常ではありません。
  - エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
  - ブレーキペダルを踏むタイミングによって、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約2秒間点灯し、その後に消灯するのが正常です。

300155

⚠注 意

警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき。

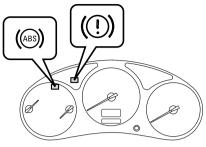
なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABSとしては作動しません。）

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

●エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション（EBD）

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールし、後輪の早期ロックを防止する機能です。

300156

⚠注 意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。
点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
EBDシステムに異常があるときは、後輪がロックしやすくなります。

アドバイス

- EBDが作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3－25ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

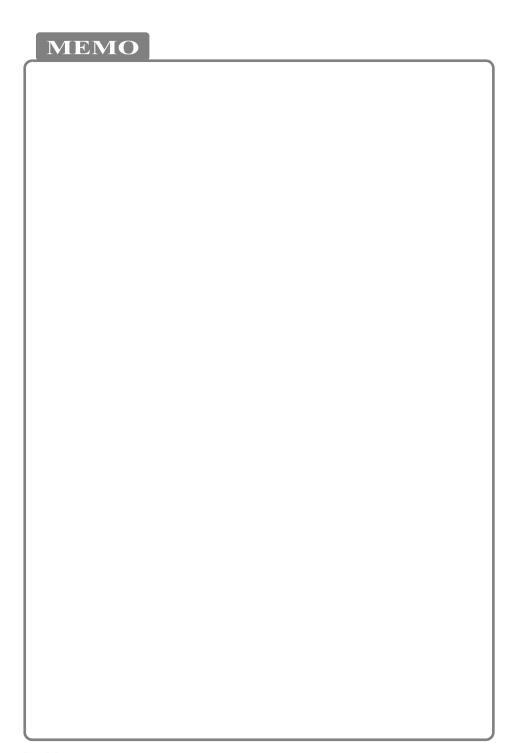
アドバイス

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。
エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

ハンドル

パワーステアリング

アドバイス

- ハンドルを切ると、パワーステアリングポンプの作動音が変化することがありますが、異常ではありません。また、ハンドルをいっぱいに切った状態ではさらに音が大きくなりますが、異常ではありません。
- 極低温時にオイルが低温で硬くなり、エンジンを始動したとき音がしますが異常ではありません。数分で消えます。

室内装備品の使いかた

エアコン

吹き出し口の調整・・ 4－ 2
吹き出し口表示と使用目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4－ 3
オートエアコン・・・ 4－ 4

オーディオシステム

あらかじめ知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4－ 9
AM／FM電子チューナー・CDプレーヤー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4－12
FORESTER SOLID FORCE SOUND SYSTEM（CLARION製）・・・・・・・・・・・・・・ 4－18

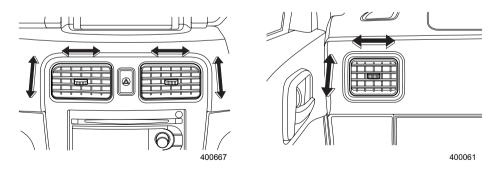
室内装備

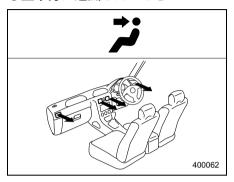
カップホルダー・・・ 4－30
ボトルホルダー・・・ 4－31
サンバイザー・・ 4－32
小物入れ・・・ 4－33
マルチボックス・・・ 4－39
サブトランク・・ 4－40
トノカバー・・・ 4－41
電源ソケット・・ 4－42
カーゴフック・・ 4－44
買い物フック・・ 4－45
室内の照明・・・ 4－47
時計・・・ 4－50

エアコン

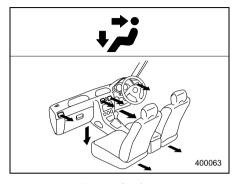
吹き出し口の調整

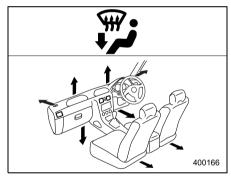
●吹き出し口

吹き出し口のノブを左右に、また吹き出し口全体を上下に動かして、風向きを調整します。

吹き出し口表示と使用目的

使用目的に合わせて吹き出し口を選択してください。

●上半身に送風したいとき

●上半身と足元に送風したいとき

●足元に送風したいとき

●足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき

●窓ガラスの曇りを取りたいとき

オートエアコン

エンジンをかけているとき、風量調整（ファン）ダイヤルを「OFF」以外の位置にすると作動します。冷房・除湿をするときは、さらにA/Cスイッチを押します。風量調整（ファン）ダイヤルを「OFF」にすると止まります。

■オートでの使いかた

①温度調整ダイヤルを回し、希望温度に設定します。
②吹き出し口切り替えダイヤルを「AUTO」位置にします。
③風量調整（ファン）ダイヤルを「AUTO」位置にします。
④A/Cスイッチを長押し（1秒以上）して、オートモードにします。
⑤内外気切り替えスイッチを長押し（1秒以上）して、オートモードにします。

アドバイス

- エンジンがかかっているときにスイッチを操作してください。
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- 停車中の冷房効果を上げるため、アイドリング回転が高くなります。オートマチック車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキを確実に踏んでください。
- 炎天下に駐車したときには、冷房を使う前にウインドゥを全開にするなどして熱気を追い出してください。
- 室内のにおいが気になるときには消臭剤を使って消してください。空気が汚れているときや、タバコを吸うときは換気してください。ほこりやタバコの煙が冷房装置に付いて、におうことがあります。
- 冷房中は乾燥ぎみとなり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。目が痛くなったときは外気を導入してください。
- 体が冷え過ぎないように適温に調整してください。冷え過ぎは健康を損ないます。設定温度25℃付近でお使いください。
- 冷房・除湿機能は各部を潤滑するためにも月に２、３回程度作動させてください。
- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。お近くのスバル販売店で点検を受けてください。
- 冬場の始動時、風量調整（ファン）ダイヤルを「AUTO」にし、吹き出し口切り替えダイヤルを“ ”や“ ”、“ ”にしたとき、冷却水温が暖まるまで風量調整のオートモードは作動しません。
- 次の場合冷房・除湿機能は作動しません。
  - 室内の温度が低いとき
  - 外気温度が低いとき（0℃以下のとき）

■操作パネルの使いかた

●吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。
AUTO では適切な吹き出し口に自動制御されます。
内気循環時でも、ダイヤルを あるいは にしたときは、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/C スイッチ）が ON になり、外気導入に切り替わります。
☆4－3ページ参照

400068

●風量調整（ファン）ダイヤル

風量を7段階に調整できます。
右に回すほど強くなります。
AUTOでは適切な風量に自動制御されます。

400069

●内外気切り替えスイッチ

一時的に外気を遮断したい場合に使います。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が交互に切り替わります。
早く冷房したいとき、または冷房の効きを高めたいときには、内気循環をお使いください。
表示灯が点灯しているときが内気循環です。
スイッチを長押し（1 秒以上）すると AUTO モードとなり内外気を自動制御します。
AUTO モードに切り替わると表示灯が 2 回点滅します。
AUTO モードを解除するには再度スイッチを押してください。

400070

⚠ 注 意

内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと、万一、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂が生じた場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。また、ガラスが曇りやすくなりますので、内気循環で使用する場合は、A/Cスイッチを押して除湿機能を働かせて使用してください。

●温度調整ダイヤル

室内温度を調整するとき使います。
温度設定は 20 ～ 30 ℃の範囲で変更できます。ただし、ダイヤルを左端または右端に設定したときは最大冷房または最大暖房となります。

400071

アドバイス

風量調整をAUTO以外で使用すると、適温に温度調整されない場合があります。

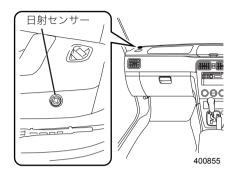
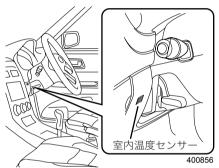
●A/Cスイッチ

風量調整（ファン）ダイヤルが「OFF」以外のとき、スイッチを押すと冷房・除湿機能が作動し、スイッチ内のランプが点灯します。もう一度押すと冷房・除湿機能は停止します。スイッチを長押し(1秒以上)するとAUTOモードとなり、冷房機能のON/OFFを自動制御します。
AUTO モードに切り替わると表示灯が２回点滅します。AUTO モードを解除するには再度スイッチを押してください。

400072

■感知センサー

オートエアコンには次のセンサーが付いています。

- 日射センサー（ダッシュボード左端）

- 室内温度センサー（運転席ロアカバー左側）

- 外気温度センサー（フロントバンパー裏側）

> ⚠ **注 意**
>
> センサーに衝撃を与えたり、水をかけたり、物を置いたりしないでください。温度制御にずれが発生する原因となります。

■エアコンの使いかた

スイッチ	吹き出し口切り替え	風量調整	A/Cスイッチ	温度調整	内外気切り替え	アドバイス
冷房	AUTOまたは	AUTOまたは希望位置	AUTOモードまたはON	希望位置（中間より左側）	AUTOモードまたは外気導入	• 早く冷やしたいときは、内外気切り替えを内気循環にしてください。 • 冷房の効きを高めたいときは、内気循環をお使いください。
暖房	AUTOまたは	AUTOまたは希望位置	AUTOモードまたは希望位置	希望位置（中間より右側）	AUTOモードまたは外気導入	• ウインドゥにも少し送風されますが、これはウインドゥの曇りを防止するためのものです。 • 顔部が熱い場合は、温度調整ダイヤルを左側に動かし、適温に調整してください。
曇り除去と暖房	AUTOまたは	AUTOまたは希望位置	AUTOモードまたは希望位置	希望位置（中間）	AUTOモードまたは外気導入	• 温度調整ダイヤルの位置によっては曇り除去機能が低下する場合があります。
頭寒足熱	AUTOまたは	AUTOまたは希望位置	AUTOモードまたは希望位置	希望位置（中間）	AUTOモードまたは外気導入	• 温度調整ダイヤルを右または左いっぱいにすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります。
曇り除去	AUTOまたは	希望位置	AUTOモードまたはON	中間より右側	AUTOモードまたは外気導入	• 夏期においてウインドゥの曇りを除去する場合、温度調整は中間より左側でご使用ください。また、外気温度と吹き出し風の温度差が大きいと、ウインドゥの外側が曇る場合があります。このときは冷房機能を「OFF」にするか、温度調整ダイヤルを右に動かしてください。
換気	AUTOまたは	希望位置	AUTOモードまたはOFF	希望位置	AUTOモードまたは外気導入	―――

注）吹き出し口切り替えダイヤルを　あるいは　にすると、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）がONになり、外気導入に切り替わります。

オーディオシステム

あらかじめ知っておいていただきたいこと

注 意

- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞いてください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。
- 運転者は車が止まっているときにラジオ・オーディオを操作してください。
- 内部に水や異物を入れないでください。故障の原因となります。
- お子さまがディスク挿入口に指を入れないようにしてください。けがの原因となるおそれがあります。

■ラジオ受信について

- 受信感度は周囲の状況、気象状況、送信局からの電波の強さ、送信局からの距離によって影響を受けます。山ろくや建物の近くでは電波がさえぎられたり、電波が反響したりして受信状態が悪くなることがあります。また、電車の架線や高圧電線の近くでは高圧電流の影響でノイズ（雑音）が入ったりするなど受信状態が悪くなることがあります。
- ラジオを聞いているとき、室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うとノイズ（雑音）が入ることがあります。

■アンテナについて

●ガラスアンテナ

アンテナは、左右のリヤウインドゥの内側にプリントされています。

スバル純正ナビゲーションシステム装着車は、TV 受信用アンテナアンプおよびフィーダー線を追加することにより、3 chダイバーシティアンテナとして、TV放送の受信が可能になります。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

400519

アドバイス

- リヤウインドゥ内側を清掃するときは、アンテナ線に沿って柔らかい布で拭いてください。硬い布で拭くとアンテナ線を傷つけることがあります。
- リヤウインドゥのアンテナ線部に次の物を貼りつけないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。
  - 金属を含有するウインドゥフィルム
  - 外付けTVアンテナ
  - その他の金属物

■CDについて

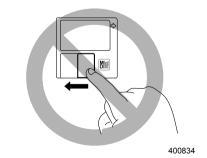
- 右図のマークがついている音楽CDを使ってください。右図のマークがないものは使えません。
- 大きい傷、変形、ヒビ等のあるディスクやハート型などの特殊形状をしたCDは使用しないでください。誤作動や故障の原因となる場合があります。
- 寒いときや雨天のときは、プレーヤー内に露が生じ、正常に作動しないことがあります。この場合CDを取り出し、しばらく待ってから再度CDを挿入してください。

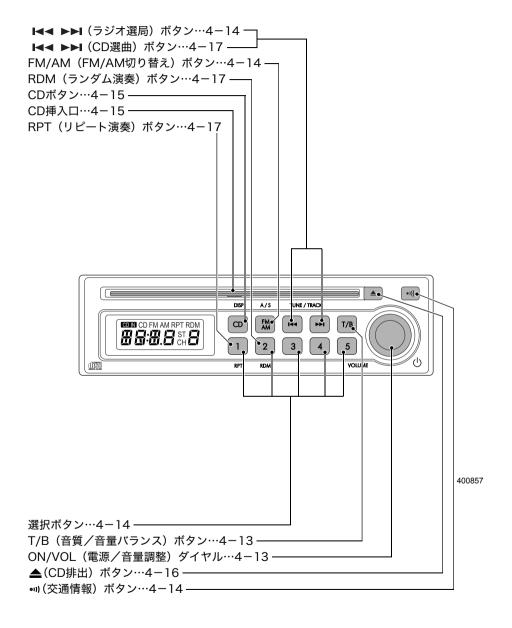
400335

- 炎天下に長時間駐車した後などはプレーヤーの温度が高くなり、正常に作動しないことがあります。温度が下がるまでしばらく待ってください。
- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びすることがあります。
- ケースからディスクを取り出す場合、ケース中心部を押し、ディスクの両端を持ってください。また、ディスク面に直接触れると音が悪くなる場合がありますので、手を触れないようにしてください。
- ディスクは熱に弱いので直射日光の当たる場所やヒーター吹き出し口などの近くに置かないでください。ディスクが変形して使用できなくなります。
- ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペンなどで傷をつけたりしないでください。
- ディスクはきれいなものをご使用ください。汚れている場合は、乾いた布で中心から外側に向かって拭いてください。硬い布やシンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。

■MDについて

- MDのシャッターは開けられないようになっています。無理に開けるとカートリッジが損傷して使用できなくなります。シャッターが何らかの原因で開いてしまったときには、記録部分を指でさわらないようにしてください。記録部分に触れると使用できなくなったり、音飛びを頻繁に起こすようになります。
- カートリッジ表面の汚れやゴミは乾いた布で拭き取ってから使用してください。とくに油汚れが付いた状態で使用すると、ディスクが引き込まれなかったり、取り出せなくなることがあります。また、お手入れされるときは、シャッターを開けないようご注意ください。

400834

- MDを長時間本体に入れたままにしないでください。また、取り出したMDは、MD専用ケースに入れて保管してください。
- MDを直射日光の当たる場所（ダッシュボードの上など）など温度が高くなるような場所に放置しないでください。MDのカートリッジが変形して使用できなくなります。
- ラベルのはがれかかったMDは使用しないでください。ラベルが浮いていたり、はがれかかっているMDを使用すると、本体の中ではがれて取り出せないなど故障の原因となります。
- レンズクリーナーは使用しないでください。故障の原因となります。

AM／FM電子チューナー・CDプレーヤー

■電源、音量・音質の調整

●電源を入れるとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、「ON/VOL」ダイヤルを押すごとに電源がON・OFFします。
電源がONになると、前に電源をOFFにしたときのモードになります。

アドバイス

次の操作を行っても電源をONにすることができます。
- CDを挿入したとき
- 「CD」ボタン＊、「AM/FM」ボタン、「•))」ボタンを押したとき
  ＊「CD」ボタンはCDが入っているとき

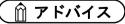
●音量を調整するとき

「ON/VOL」ダイヤルを回して調整します。
　右に回す：音が大きくなります
　左に回す：音が小さくなります

●音質と前後・左右の音量バランスを調整するとき

①「T/B」ボタンを押して調整モードを選択します。
ボタンを押すごとに

と、切り替わり、表示部に表示されます。
②「ON/VOL」ダイヤルを回してお好みの位置に調整します。

モード（調整レベル表示）	左に回す	右に回す
BAS（低音）（−7〜＋7）	低音減衰	低音強調
TRE（高音）（−7〜＋7）	高音減衰	高音強調
BAL（左右）（L6〜R6）	右側減衰	左側減衰
FAD（前後）（R6〜F6）	前側減衰	後側減衰

調整時、5秒間操作を行わないと、調整前の表示に戻ります。

■ラジオを聞くとき

●FM/AMを受信するとき

「FM/AM」ボタンを押します。

- バンドを切り替えるとき
  「FM/AM」ボタンを押し、バンドを選択します。
  ボタンを押すごとに
  FM⟷AM
  と、切り替わり、表示部に表示されます。

●選局するとき

「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを押します。

- 周波数に合わせて放送を聞くとき
  「⏮」ボタンを押す：
  ボタンを押すごとに周波数の低い方へ1ステップずつ切り替わります
  「⏭」ボタンを押す：
  ボタンを押すごとに周波数の高い方へ1ステップずつ切り替わります

- 自動的に放送局を探すとき
  「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを0.5秒以上押します。放送局が見つかると受信を始めます。
  「⏮」ボタンを押す：
  周波数の低い方へ放送局を探します
  「⏭」ボタンを押す：
  周波数の高い方へ放送局を探します

アドバイス

- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は表示部に“ST”が点灯します。

●記憶させた放送局を呼び出すとき

「選択」ボタンのいずれかを押します。

アドバイス

バッテリーを交換したときなどは記憶した内容が消去されます。この場合は再度記憶させてください。
☆4−15ページ参照

●交通情報を聞くとき

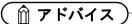
「•ıı)」ボタンを押します。
どのモードからでも自動的に切り替わります。
もう一度押すと、直前のモードに切り替わります。

■ラジオの放送局を記憶するとき

●手動で放送局を記憶するとき

①「FM/AM」ボタンを押してバンドを選択します。

②「 I◀◀ 」ボタンまたは「 ▶▶I 」ボタンを操作し、記憶したい放送局を選択します。

③「選択」ボタンのいずれか1つを2秒以上押します。
　表示部に押したボタンの番号（チャンネル番号）が表示されます。

各バンド（FM、AM）で最大5局まで記憶できます。

●自動的に放送局を記憶するとき（AUTO STORE）

①「FM/AM」ボタンを押してバンドを選択します。

②「FM/AM」ボタンを2秒以上押します。
　受信可能な放送局が見つかると、チャンネル1から自動的に周波数の低い順に記憶されます。

アドバイス

受信電波が弱いと自動的に記憶できないことがあります。

●交通情報局をかえるとき

交通情報モード中に、「 I◀◀ 」ボタンまたは「 ▶▶I 」ボタンを押して選局し、「•)))」ボタンを２秒以上押します。表示部の周波数が一度点滅し記憶されます。

■CDを聞くとき

●CDを挿入する

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、CDを挿入することができます。CDの中心穴と端を挟んで持ち、CD のラベル面を上にして CD 挿入口に差し込みます。CD を挿入すると、表示部に“CD”が点灯し、演奏が始まります。
CD演奏中はトラック番号（曲番号）を表示します。

- ディスプレイを切り替えるとき
  CD演奏中に「CD」ボタンを押すごとに、
  トラック番号表示←→演奏時間表示
  と切り替わり、表示部に表示されます。

- CDが挿入されているとき
  「CD」ボタンを押すと演奏が始まります。CD演奏中はトラック番号（曲番号）を表示します。

アドバイス

- 8 cmCD は 8 cmCD 用アダプターを使用せず、そのまま挿入してください。アダプターを使用すると、ディスクが取り出せないなど、損傷の原因となります。
- 音楽用CD-R、CD-RWに記録された音楽データを再生できます。ただし、CDの録音条件、特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。ファイナライズ（通常の CD プレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R、CD-RWは再生できません。
- CD-ROMやMP3＊、WMA＊で記録されたCDは再生できません。
- CD・TEXTについては対応しておりません。
- CDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“ER-○”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してCDを取り出してください。CDに傷や変形がないこと、またCDプレーヤーに対応しているCDが正しく挿入されていることを確認してください。CD が取り出せない場合、もしくはCD を交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

  ＊音楽データを圧縮して記録する方式

●演奏を停止するとき

「ON/VOL」ダイヤルを押して電源を切るか、他のモードに切り替えます。
または「⏏」ボタンを押してCDを排出します。

●CDを取り出すとき

「⏏」ボタンを押します。CDが排出され、前のモードに切り替わります。

アドバイス

- エンジンスイッチがOFFでもCDの排出をすることができます。
- 排出された CD を 15 秒以上そのままにしておくと、自動的に挿入されます。この場合、CDの再生モードに切り替わらずそのままの状態です。CDを聞くときは再度「CD」ボタンを押してください。
  (エンジンスイッチがON、Accのときのみ)
- CDが未挿入のときでも「⏏」ボタンを押すと、CD排出機構が動作し、動作音が聞こえます。

●選曲するとき

「 ⏮ 」ボタンまたは「 ⏭ 」ボタンを押します。

- 先の曲にするとき
  「 ⏭ 」ボタンを押します。押すごとに先の曲の頭出しをします。
- 手前の曲にするとき
  「 ⏮ 」ボタンを押します。1回押すと今聞いている曲の先頭に、押すごとに手前の曲の頭出しをします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「 ⏮ 」ボタンまたは「 ⏭ 」ボタンを押します。

- 早送り
  「 ⏭ 」ボタンを0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。
- 早戻し
  「 ⏮ 」ボタンを0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
②表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT」ボタンを押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

また、次の操作をしても自動的に解除されます。

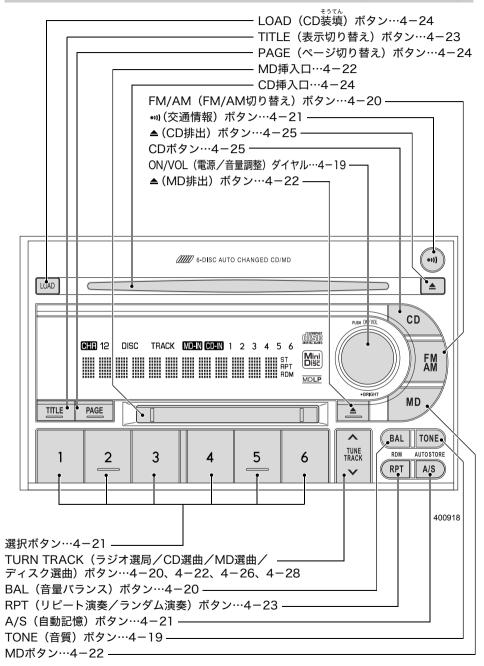
- CDを排出する
- ランダムプレイ機能にする
- 曲の選曲をする
- エンジンスイッチをOFFにする
- 電源をOFFにする
- 他のモードにする
- 曲の早送り、早戻しをする

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RDM」ボタンを押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RDM」ボタンを押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

また、次の操作をしても自動的に解除されます。

- CDを排出する
- リピートプレイ機能にする
- 曲の選曲をする
- エンジンスイッチをOFFにする
- 電源をOFFにする
- 他のモードにする
- 曲の早送り、早戻しをする

FORESTER SOLID FORCE SOUND SYSTEM（CLARION製）

■電源、音量・音質の調整

●電源を入れるとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、「ON/VOL」ダイヤルを押すごとに電源がON・OFFします。
電源がONになると、前に電源をOFFにしたときのモードになります。

アドバイス

次の操作を行っても電源をONにすることができます。
- CD、MDを挿入したとき
- 「•))」ボタン、「CD」ボタン*、「MD」ボタン*、「FM/AM」ボタンを押したとき
  *「CD」ボタン、「MD」ボタンはCDまたはMDが入っているとき。

●音量を調整するとき

「ON/VOL」ダイヤルを回して調整します。
　右に回す：音が大きくなります
　左に回す：音が小さくなります

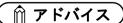
●音質を調整するとき

①「TONE」ボタンを押して調整モードを選択します。
　ボタンを押すごとに

BASS（低音）→ MIDDLE（中音）→ TREBLE（高音）→ VOLUME（音量調整）〈初期状態〉→ BASS（低音）

　と、切り替わり、表示部に表示されます。

②「ON/VOL」ダイヤルを回し、お好みの位置に調整します。

モード（調整レベル表示）	左に回す	右に回す
BASS（低音）（−6〜+6）	低音減衰	低音強調
MIDDLE（中音）（−6〜+6）	中音減衰	中音強調
TREBLE（高音）（−6〜+6）	高音減衰	高音強調

5秒間操作を行わないと、調整前の表示に戻ります。

●前後・左右の音質バランスを調整するとき

①「BAL」ボタンを押し、調整モードを選択します。

ボタンを押すごとに、

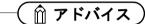
FADER（前後）──→BALANCE（左右）

↑　　　　　　　　　　　　　　　│

└── VOLUME（音量調整）←┘

と、切り替わり、表示部に表示されます。

②「ON/VOL」ダイヤルを回し、お好みの位置に調整します。

モード（調整レベル表示）	左に回す	右に回す
FADER（前後）（R9～F9）	前側減衰	後側減衰
BALANCE（左右）（L9～R9）	右側減衰	左側減衰

5秒間操作を行わないと、調整前の表示に戻ります。

■ラジオを聞くとき

●FM/AMを受信するとき

「FM/AM」ボタンを押します。

- バンドを切り替えるとき

  「FM/AM」ボタンを押し、バンドを選択します。

  ボタンを押すごとに

  FM1 ────→FM2

  ↑　　　　　　　│

  └── AM ←─┘

  と、切り替わり、表示部に表示されます。

●選局するとき

- 周波数に合わせて放送を聞くとき

  「TUNE TRACK」ボタンの「∧」または「∨」を押します。

  「∧」を押す：周波数の高い方へ1ステップずつ切り替わります

  「∨」を押す：周波数の低い方へ1ステップずつ切り替わります

- 自動的に放送局を探すとき

  「TUNE TRACK」ボタンの「∧」または「∨」を0.5秒以上押します。

  放送局が見つかると受信を始めます。

  「∧」を押す：周波数の高い方へ放送局を探します

  「∨」を押す：周波数の低い方へ放送局を探します

アドバイス

- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は表示部に“ST”が点灯されます。

●記憶させた放送局を呼び出すとき

「選択」ボタンのいずれかを押します。

アドバイス

バッテリーを交換したときなどは記憶した内容が消去されます。この場合は再度記憶させてください。

●交通情報を聞くとき

「•ıı)」ボタンを押します。
どのモードからでも自動的に切り替わります。
もう一度押すと、直前のモードに切り替わります。

■ラジオの放送局を記憶するとき

●手動で放送局を記憶するとき

①「FM/AM」ボタンを押してバンドを選択します。
②「TUNE TRACK」ボタンの「∧」または「∨」を操作し、記憶したい放送局を選択します。
③「選択」ボタンのいずれか1つを2秒以上押します。
　表示部に選択したボタンの番号（チャンネル番号）が表示されます。

アドバイス

各バンド（FM1、FM2、AM）で最大6局まで記憶できます。

●自動的に放送局を記憶するとき

①「FM/AM」ボタンを押してバンドを選択します。
②「A/S」ボタンを2秒以上押します。
　受信可能な放送局が見つかると、チャンネル1から自動的に周波数の低い順に記憶されます。

アドバイス

受信電波が弱いと自動的に記憶できないことがあります。

●交通情報局をかえるとき

交通情報モード中に「TUNE TRACK」ボタンの「∧」または「∨」を押して選局します。
「•ıı)」ボタンを2秒以上押すと、選局した交通情報局を記憶させることができます。

■MDを聞くとき

●MDが入っていないとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、MDを挿入することができます。MDのラベル面を上にし、シャッター面を右側にしてMD挿入口に入れます。MDを挿入すると“MD-IN”が点灯し、演奏が始まります。

●MDが入っているとき

「MD」ボタンを押すと演奏が始まります。

アドバイス

MDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“PUSH EJECT”または“CHECK DISC”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してMDを取り出してください。MDに傷や変形がないこと、またMDプレーヤーに対応している MD が正しく挿入されていることを確認してください。MDが取り出せない場合、もしくはMDを交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

●MDLPを聞くとき

通常のMDと同じ操作で聞くことができます。

アドバイス

- データ用のMDは使用できません。音楽用のMDを使用してください。
- MDLPのグループ機能には対応していません。

● 演奏を停止するとき

「ON/VOL」ダイヤルを押すか、他のモード（ラジオ、CD、CDチェンジャー）に切り替えます。または「⏏」ボタンを押してMDを排出します。

●MDを取り出すとき

「⏏」ボタンを押します。MDが排出され、前のモードに切り替わります。

●選曲するとき

「TUNE TRACK」ボタンの「∧」または「∨」を押します。

- 先の曲にするとき
  「∧」を押します。押すごとに先の曲を頭出しします。

- 手前の曲にするとき
  「∨」を押します。1回目で今聞いている曲の先頭に、押すごとに手前の曲の頭出しをします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「TUNE TRACK」ボタンの「∧」または「∨」を1秒以上押します。

- 早送り
  「∧」を長押しすると早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。

- 早戻し
  「∨」を長押しすると早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

① 曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
② 表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③ 解除するには再度「RPT」ボタンを押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

また、次の操作をしても自動的に解除されます。

- 演奏を停止する
- 他のモード（ラジオ、CD、CDチェンジャー）にする
- ランダムプレイ機能にする
- エンジンスイッチをOFFにする

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

① 曲の演奏中に「RPT」ボタンを2秒以上押します。
② 表示部に“RDM”が点灯します。
③ 曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RPT」ボタンを押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

また、次の操作をしても自動的に解除されます。

- 演奏を停止する
- 他のモード（ラジオ、CD、CDチェンジャー）にする
- エンジンスイッチをOFFにする

●表示部の表示を切り替えるとき

MD再生時、「TITLE」ボタンを押すことにより表示の切り替えができます。

トラック番号（曲番号）と演奏時間 ←
↓
ディスクタイトル表示（D-TITLE）
↓
トラックタイトル（曲名）表示（T-TITLE）

アドバイス

- タイトル文字は1回に12文字まで表示できます。
- タイトル名が13文字以上の場合、タイトル表示中に「PAGE」ボタンを押すと、13文字以降のタイトルを表示します。
- MDにタイトルが記録されていない場合は表示しません。
  その場合“NO TITLE”と表示します。

●10曲先の曲にするとき

「PAGE」ボタンを押すと、10曲先の曲の頭出しをします。
10曲先の曲がない場合は、最後の曲の頭出しをします。
最後の曲の演奏中に「PAGE」ボタンを押すと、先頭の曲の頭出しをします。

アドバイス

- 10曲先の頭出しは、トラック番号とトラック演奏時間を表示しているときのみとなります。
- タイトル表示中は、ページ切り替え機能となります。

■CDを聞くとき

●CDを聞くとき（CDが入っていないとき）

「LOAD」ボタンを押して、下記の手順にしたがいCDを挿入します。CD演奏中はディスク番号とトラック番号（曲番号）を表示します。

- CDを挿入する
  エンジンスイッチがAccまたはONのとき、CDを挿入することができます。
  ①「LOAD」ボタンを押します。
  ②表示部に挿入するディスク番号が表示され、“LOAD”表示が点滅すると、挿入準備完了です。
  ③CDの中心穴と端を挟んで持ち、CDのラベル面を上にしてCD挿入口に差し込みます。CDを挿入すると演奏が始まります。

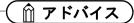
- 複数のCDを連続挿入するには
  ①「LOAD」ボタンを2秒以上押します。
  ②表示部に“ALL LOAD”と表示されます。
  ③CDの中心穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてCD挿入口に1枚ずつ挿入します。
  ④最初に入れたCDから演奏を始めます。

- 指定したディスク番号にCDを挿入するには
  ①「LOAD」ボタンを押します。
  ②選択ボタンの中から挿入するディスク番号を指定します。
  ③表示部に挿入するディスク番号が表示され、“LOAD”表示が点滅すると、挿入準備完了です。
  ④CDの中心穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてCD挿入口に挿入します。
  ⑤CDの演奏を始めます。

アドバイス

“LOAD”または“ALL LOAD”点滅後 15 秒間ディスクを挿入しないと、「LOAD」ボタンを押す前の状態に戻ります。

●CDを聞くとき（CDが入っているとき）

「CD」ボタンを押すと演奏が始まります。

CDの再生はディスク番号1→2→3→4→5→6→1…の順で再生されます。また、CDの入っていないディスク番号は飛ばして再生します。

●演奏するCDを指定するとき

CD演奏中に、選択ボタンの中から聞きたいディスク番号を押すと、指定したCDの演奏が始まります。

アドバイス

- 本機は12 cmCD専用です。8 cmCDは使用しないでください。損傷の原因となります。
- 音楽用CD-R、CD-RWに記録された音楽データを再生できます。ただし、CDの録音条件、特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。ファイナライズ（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R、CD-RWは再生できません。
- CD-ROMやMP3*、WMA*で記録されたCDは再生できません。
- CD・TEXTについては対応しておりません。
- CDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“PUSH EJECT”または“CHECK DISC”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してCDを取り出してください。CDに傷や変形がないこと、またCDプレーヤーに対応しているCDが正しく挿入されていることを確認してください。CDが取り出せない場合、もしくはCDを交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。
  *音楽データを圧縮して記録する方式

●演奏を停止するとき

次の操作をすると演奏を停止します。

- 電源をOFFにする
- 他のモードにする
- 「⏏」ボタンを押す
- エンジンスイッチをOFFにする

●CDを取り出すとき

- 演奏中のCDを取り出すには
  「⏏」ボタンを押します。
  演奏を中止し、自動的にCDが排出されます。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 演奏中以外のCDを取り出すには
  「選択」ボタンで取り出したいディスク番号を選択した後、「⏏」ボタンを押すと演奏を中止し、自動的に指定したCDが排出されます。

- 全てのCDを取り出すには
  ①「⏏」ボタンを2秒以上押します。
  ②演奏中止後、表示部に“ALL EJECT”が点滅し、1枚目のCDが排出されます。CDを抜き出すと、次のCDが自動的に排出されます。排出されたCDを全て抜き出します。

アドバイス

- CDが排出されると電源は自動的にOFFになります。ただし、演奏前のモードがMDまたはラジオの場合は、そのモードに切り替わります。
- エンジンスイッチがOFFでもCDを排出することができます。
- 排出されたCDを15秒以上そのままにしておくと、自動的に挿入されます。この場合、CDの再生モードに切り替わらずそのままの状態です。CDを聞くときは再度「CD」ボタンを押してください。
  (エンジンスイッチがON、Accのときのみ)

●選曲するとき

「TUNE TRACK」ボタンの「∧」または「∨」を押します。

- 先の曲にするとき
  「∧」を押します。押すごとに先の曲を頭出しします。

- 手前の曲にするとき
  「∨」を押します。1回目で今聞いている曲の先頭に戻ります。
  続けて2回以上押すと、押した回数分前の曲に戻ります。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「TUNE TRACK」ボタンの「∧」または「∨」を1秒以上押します。

- 早送り
  「∧」を長押しすると早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。

- 早戻し
  「∨」を長押しすると早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
②表示部に“RPT”が点灯します。演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT」ボタンを押します。
また、次の操作をしても自動的に解除されます。

- 演奏を停止する
- CDを排出する

- ランダムプレイ機能にする
- ディスクチェンジをする
- エンジンスイッチをOFFにする
- 他のモード（ラジオ、MD、CDチェンジャー）にする

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RPT」ボタンを2秒以上押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RPT」ボタンを押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

また、次の操作をしても自動的に解除されます。

- 演奏を停止する
- CDを排出する
- ディスクチェンジをする
- エンジンスイッチをOFFにする
- 他のモード（ラジオ、MD、CDチェンジャー）にする

■オプションのCDチェンジャーを接続したとき

●演奏するとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき「CD」ボタンを押すと演奏が始まります。
表示部に“CHR”と表示され、ディスク番号とトラック番号（曲番号）が表示されます。

アドバイス

- プレーヤー本体にCDが挿入されているときは「CD」ボタンを押すごとに、プレーヤー本体での再生⇔CDチェンジャーでの再生に切り替わります。
- CDの再生はディスク番号1→2→3→4→5→6→1…の順で再生されます。
  また、CDの入っていないディスク番号は飛ばして再生します。
  CDチェンジャーにCDまたはマガジン＊が装着されていないときは、“CD NO DISC”と表示します。
  ＊マガジン：
  ディスクを入れる入れ物のことです。このマガジンにCDを入れ、CDチェンジャーに装着するとCDチェンジャーが使用可能となります。
- CDチェンジャーが動作しなくなった場合は、表示部に“PUSH EJECT”または“CHECK DISC”と表示されます。表示された場合は、マガジンを取り出してください。マガジンに挿入されているCDに傷や変形がないこと、またCDチェンジャーに対応しているCDが正しく挿入されていることを確認してください。詳しくは、CDチェンジャーに付属している取扱説明書をご覧ください。

●演奏を止めるとき
「ON/VOL」ダイヤルを押して電源を切るか、他のモード（ラジオ、CD、MD）に切り替えます。

●演奏するCDを指定するとき
「選択」ボタンの中から、聞きたいディスク番号を押すと、そのCDを演奏します。

アドバイス

マガジンにCDが装着されていない番号を指定したときは、受け付けません。

●選曲するとき
「TUNE TRACK」ボタンの「∧」または「∨」を押します。

- 先の曲にするとき
  「∧」を押します。押すごとに先の曲を頭出しします。

- 手前の曲にするとき
  「∨」を押します。1回目で今聞いている曲の先頭に、押すごとに手前の曲の頭出しをします。

●曲の早送り、早戻しをするとき
「TUNE TRACK」ボタンの「∧」または「∨」を長めに押します。

- 早送り
  「∧」を0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。

- 早戻し
  「∨」を0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）
①曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
②表示部に“RPT”を表示させます。演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT」ボタンを押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

また、次の操作をしても自動的に解除されます。

- マガジンを取り出す
- ランダムプレイ機能にする
- エンジンスイッチをOFFにする

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）
①曲の演奏中に「RPT」ボタンを2秒以上押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RPT」ボタンを押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

また、次の操作をしても自動的に解除されます。
- マガジンを取り出す
- リピートプレイ機能にする
- エンジンスイッチをOFFにする

●マガジンの取り扱い

マガジンのチェンジャーへの挿入、チェンジャーからの排出方法、マガジンへのCD挿入、マガジンからのCD排出方法、その他のCDチェンジャーに関する注意は、CDチェンジャーに付属している取扱説明書をご覧ください。

アドバイス

- 本機は12 cmCD専用です。8 cmCDは使用しないでください。損傷の原因となります。
- 音楽用CD-R、CD-RWに記録された音楽データを再生できます。ただし、CDの録音条件、特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。ファイナライズ（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R、CD-RWは再生できません。
- CD-ROMやMP3＊、WMA＊で記録されたCDは再生できません。
- CD・TEXTについては対応しておりません。
  ＊音楽データを圧縮して記録する方式

■表示部の減光機能キャンセル

ライティングスイッチを またはにすると表示部の明るさが一段減光し、暗くなります。
昼間、ランプを点灯させて走るようなときで表示部が見にくい場合は、「ON/VOL」ダイヤルを2秒以上押すと減光機能がキャンセルされ、明るくなります。（BRIGHT機能）

アドバイス

ライティングスイッチOFF、エンジンスイッチLOCKの状態で、「ON/VOL」ダイヤルを長押しすることで通常の減光に戻ります。

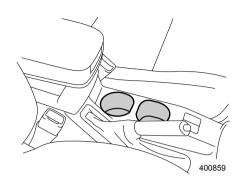
下記の操作をすると通常の減光状態に戻ります。
- ライティングスイッチをOFFにする
- エンジンスイッチをLOCKにする
- 再度「ON/VOL」ダイヤルを2秒以上押す

「ON/VOL」ダイヤルを2秒未満押すと、電源がOFFになります。

室内装備

カップホルダー

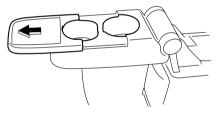
■前席用

400859

■後席用

●上部

フロントアームレストを後席側に倒すとカップホルダーと小物を置けるテーブルとして使えます。さらにテーブルを後方に引き出すと、もう1つカップホルダーが使えます。
テーブルを元の位置に戻すときは、テーブルの先端を押して戻します。

400528

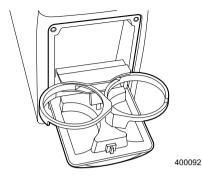
後席用カップホルダーを垂直の位置に戻すときは
テーブルを元の位置に戻し、後席用カップホルダーを「カチッ」と音がするまで起こします。

⚠ 注 意

- アームレストを前方に倒している位置から後席用カップホルダーとして使用するときは、一旦アームレストを垂直の位置に戻してから後席側に倒してください。アームレストが損傷するおそれがあります。
- テーブルを使用するときは、重いものをのせないでください。損傷するおそれがあります。

許容荷重	2 kg

- 走行中にテーブルの上に物を置かないでください。急ブレーキやカーブなどのとき、物や熱い飲み物などが落ちて思わぬけがをするおそれがあります。

●下部

センターコンソール背面のフタを開けて使用します。
カップ、コーヒー缶などを置くことができます。

400092

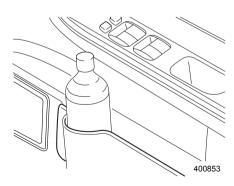
⚠警 告

- 飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行ってください。走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物などはやけどのおそれがありますのでご注意ください。

アドバイス

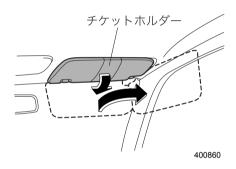
後席乗車時にはフタを閉めた状態にしてください。足をのせたり、ぶつけたりすると破損の原因となります。

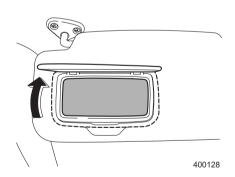
ボトルホルダー

左右のフロントドアに各１つの小物入れ兼用のボトルホルダーがあります。

400853

> ⚠ 警 告
> - 飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行ってください。走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。
> - ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物などはやけどのおそれがありますのでご注意ください。

サンバイザー

太陽光がまぶしいときにサンバイザーを降ろします。
横に回すときはフックから外して使用します。
運転席側にはチケットホルダーが付いています。

■バニティミラー

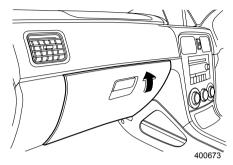
運転席および助手席サンバイザー裏側に鏡がついています。

> ⚠ 注 意
> 走行中は必ずフタを閉めてください。

小物入れ

■グローブボックス

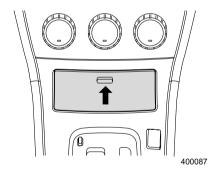
小物や書類を入れるのに使います。取っ手を引いて開けます。

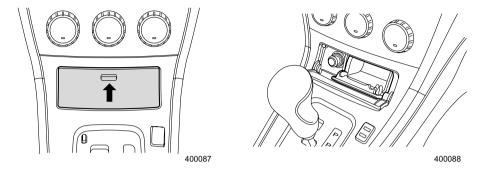
400673

⚠注 意

走行中はグローブボックスを必ず閉めておいてください。万一の場合、開いたフタに体が当たるなどして思わぬけがをすることがあります。

■インストルメントパネル

カバーの上側を押してカバーを開けると、小物入れとして使用できるようになります。

400087

●前席用灰皿（ディーラーオプション）

カバーの上側を押してカバーを開けると、灰皿のフタが開いて使用できるようになります。
外すときは、灰皿のフタを持ち上げるようにして引き出します。

⚠ 注 意

- マッチ、タバコは完全に火を消してから入れ、確実に閉めてください。開けたままにすると火が他の吸ガラに燃え広がり、火災になることがあります。
- 紙くずなど燃えやすいものを入れないでください。
- 吸ガラをため過ぎないでください。

アドバイス

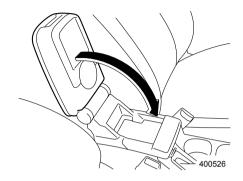
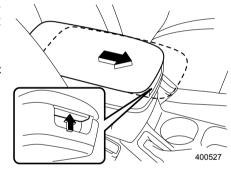
灰皿清掃時には、灰皿のフタのヒンジまわりのタバコの灰や燃えのこりをきれいに取り除いてください。
燃えのこりが詰まるとフタが開きにくくなる場合があります。

■マルチセンターコンソール

●フロントアームレスト

センターコンソールと一体の可倒式フロントアームレストです。

アームレストとして使用するときは

①アームレストを前方に倒します。

②アームレスト先端のノブを引き上げながらアームレスト上部を前方に押し固定します。運転姿勢に合わせて位置を調整してください。
元の位置へ戻すときは、ノブを引き上げながら戻します。

アドバイス

アームレスト上部が確実に固定されていることを確認してください。

アームレストを垂直の位置に戻すとき

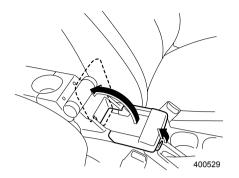
アームレスト先端のノブを引き上げながらアームレスト上部を元の位置に戻し、アームレストを「カチッ」と音がするまで起こします。

注 意

- アームレストの上にのったり、重いものをのせたりしないでください。アームレストの損傷や思わぬけがをすることがあります。
- コンソールボックスのフタの上に物を置いている場合は、アームレストを前方に倒さないでください。損傷や思わぬけがをするおそれがあります。

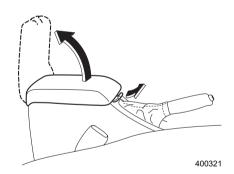
●コンソールボックス

コンソールボックスを使うときは、フロントアームレストを垂直に起こすか、後席側に倒します。コンソールボックスのロックボタンを引き上げて、フタを開けます。
また、コンソールボックスのフタの上には、小物などを置くことができます。

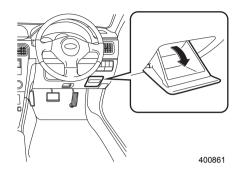
400529

> ⚠ 注 意
>
> - コンソールボックスのフタを開ける場合は、アームレストを垂直に起こすか、後席側に倒してください。フタの損傷や思わぬけがをすることがあります。
> - アームレストを起こしたり倒したりする際、コンソールボックスとの間に手を挟まないよう注意してください。

■センターコンソールボックス ✤

取っ手を持ち上げるとフタが開きます。

400321

■コイントレイ

取っ手を引いて開けます。

400861

■フロントヘッドコンソール

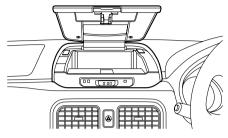
表面を押すと開きます。

400094

⚠注 意

走行中は必ず閉めておいてください。万一の場合、フタに体が当たったり、中に入れたものが飛びだして思わぬけがをすることがあります。また、運転視界のじゃまになる場合があります。
炎天下での駐車は大変高温になりますので、メガネやライターなどを収納しないでください。

■アッパーセンターポケット

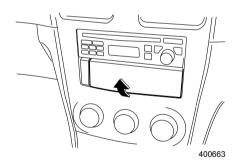
ボタンを押すと、フタが開きます。

400095

> **⚠ 注 意**
>
> 走行中は必ず閉めておいてください。万一の場合、フタに体が当たったり、中に入れたものが飛びだして思わぬけがをすることがあります。また、運転視界のじゃまになる場合があります。
> また、炎天下での駐車は大変高温になりますので、メガネやライターなどを収納しないでください。

■インストルメントパネルポケット

●1DINオーディオ装備車

フタの下部を押すと開きます。

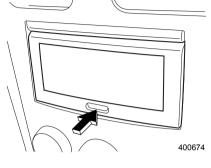
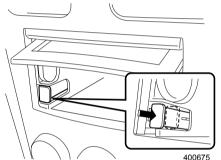
400663

> **⚠ 注 意**
>
> 走行中は必ずフタを閉めておいてください。万一の場合、フタに体が当たったり、中に入れたものが飛びだして思わぬけがをすることがあります。

マルチボックス

フタの下部を押すと開きます。
また、エンジンスイッチがONで、ライティングスイッチが または のとき、照明灯がつきます。

400674

このポケットにはエアコンの風を使った保冷機能が備わっています。吹き出し口切り替えダイヤルが“ ”または“ ”のとき、保冷機能を使用することができます。保冷機能を解除するときは、ポケット左下の縁にあるシャッターノブを押します。保冷機能を使用するときは、シャッターノブを手前に引きます。

400675

注 意

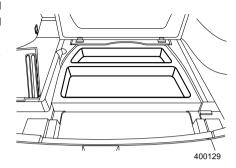
- 夏場などエンジンを止めた室内は高温になります。破裂するものや溶けるものを入れたままにしないでください。
- フタを開けたまま走行しないでください。中の物が飛びだし、思わぬけがをするおそれがあります。
- 開封後の飲み物を入れないでください。飲み物がこぼれると周辺機器の故障の原因となります。

アドバイス

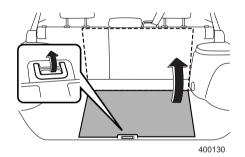
- ポケット内の温度は、エアコンの設定温度と同じになります。また、風量もエアコンの設定と同じ風量になります。
- ポケットのフタを閉めると保冷状態になります。
- 温度変化の影響を受ける食べ物（アイスやチョコレート等）は入れないでください。

サブトランク

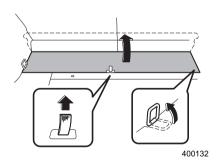
ラゲッジルームの床下に、小さい荷物を収納することができます。三角停止表示板も収納できます。ディーラーオプションのトノカバーを取り外したときは、サブトランク内に収納できます。

400129

●サブトランクの使いかた

リッド（フタ）の取っ手を持って開けます。

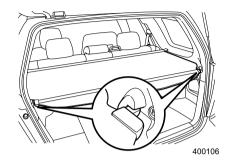
400130

●アンブレラボックス

サブトランク前側には、傘などを収納することができるアンブレラボックスがあります。

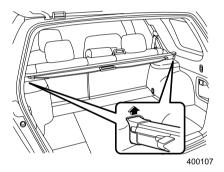
400132

トノカバー（ディーラーオプション）

●使用するときには

トノカバー中央部を持ち、ゆっくりとフックの手前まで引き、下げるようにして両側のフックに引っかけます。
戻すときは中央部を持ち、一度手前に引いたまま持ち上げるようにしてフックから外し、ゆっくりと巻き戻します。

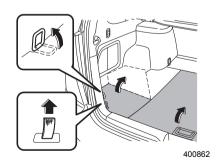
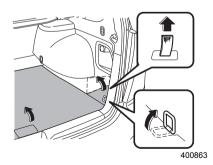
400106

●取り外すには

巻き戻した状態で、トノカバーの両端を持ち上げて取り外します。取り外したトノカバーは、サブトランクに収納することができます。

400107

●収納するには

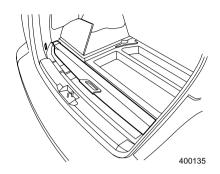
サブトランクの中央のリッド（フタ）と左右のリッド（フタ）を開けます。

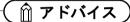
400862

400863

次ページへ ⇒

⇒前ページより

トノカバーの取っ手部分を手前にして、トノカバーを収納します。

400135

●取り付けるには

トノカバーの両端を取付部にはめ込み、取り付けます。

トノカバーの上に物をのせないでください。
物が落下したり、トノカバーが損傷するおそれがあります。

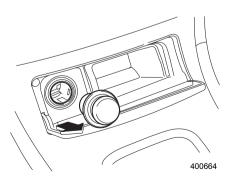
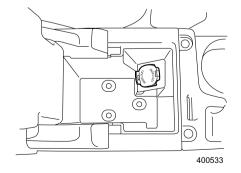
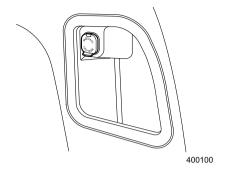
電源ソケット

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、12 V直流電源が取り出せます。
自動車用電気製品の電源ソケットとしてご使用ください。
電源ソケットはインストルメントパネル小物入れ内、センターコンソール内、カーゴルーム側面に付いています。

インストルメントパネル小物入れ内

400664

センターコンソールボックス内

400533

カーゴルーム内張り

⚠ 注 意

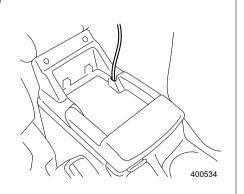
電源ソケットから電源を取るときは、スバル純正品の使用をお奨めします。自動車用電気製品は12 V 120 W以下のものをご使用ください。また、ご使用の際、下記項目をお守りください。

- 2つの電源ソケットを同時に使用する場合､自動車用電気製品の合計が120 W以下になるようにしてください。
- タコ足配線などはしないでください。発火の原因となる場合があります。
- 銀紙、硬貨などの異物を入れないでください。
- 電源ソケットがプラグに合わない（ガタがあったり、きつくて入らない）場合は、接触不良や抜けなくなる原因となります。ソケットに合ったプラグをご使用ください。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますのでご注意ください。また、走行中の使用でも、不要になったら切るように心がけてください。

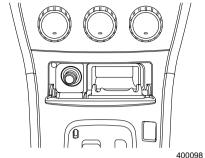
アドバイス

電源コードを引き廻す際は下記事項をお守りください。

STI：　コンソールのすき間から引き出してください。

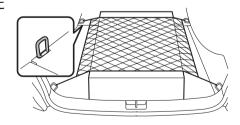
STI以外：　図のようにコンソールフタの凹部から引き出してください。

■シガレットライター（ディーラーオプション）

シガレットライターをオプションで取り付けたときは、次の事項に注意してください。
エンジンスイッチがAccまたはONのとき使用できます。シガレットライターを押し込んで手を離します。元の位置に戻ったら使用できます。

400098

⚠注 意

- シガレットライターの金属部分には触れないでください。やけどをすることがあります。
- シガレットライターを押さえつけたままにしないでください。シガレットライターが過熱して危険です。
- 30秒以上たっても戻らないときは、手で引き出してください。
- 他車のシガレットライターを使用しないでください。戻らなくなることがあります。
- 銀紙、硬貨などの異物は入れないでください。

カーゴフック

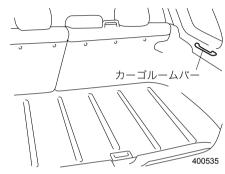
カーゴルームに4か所取り付けてあります。
カーゴルームネットなどを引っかけるときに使用します。

400136

⚠ 注 意

このフックはカーゴルームネットなど軽量物の固定、引っかけの用途だけに限定してください。

許容引張り荷重	25 kg

■カーゴルームバー

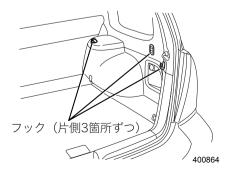
ネットなどを引っかけるときに使用します。
左右に各1個ずつ装備されています。

⚠ 注 意

ネットなどを張ったときは、軽量物（衣類等）をのせる用途だけに限定してください。

許容引張り荷重	3 kg

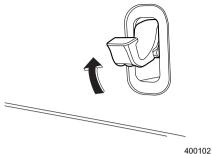
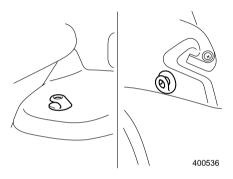
買い物フック

●カーゴルーム

カーゴルームの左右6か所にあります。
買い物袋などが転がらないようにするときに使用します。
袋の底を床につけ、手さげ部分をフックに巻きつけて使ってください。

格納式フック：
フックを使用しないときは格納しておいてください。

400102

固定式フック：

400536

⚠ 注 意

買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。

格納式フック：

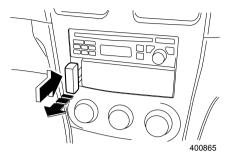
許容引張り荷重	3 kg

固定式フック：

許容引張り荷重	3 kg

●インストルメントパネル部 (1DINオーディオ付車)

フック表面を押すとフックが使えるようになります。

400865

⚠ 注 意

買い物袋などを引っかけた場合、チェンジレバーの操作の妨げにならないようにしてください。

アドバイス

- 買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。

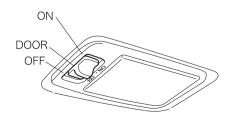
許容引張り荷重	1 kg

- カップホルダー、またはインパネセンターポケットを使用する場合は、買い物フックを格納してください。

室内の照明

■ルームランプ

車内の天井中央（後席上部）にあります。
スイッチの位置により切り替えができます。

- ON　　　　　：常に点灯します。
- 中間（DOOR）：ドアを開けると点灯し、閉めると一定時間点灯後消灯します。
- OFF　　　　　：常に消灯します。

400125

●オフディレイ機能

スイッチを中間位置にしているときに、下記操作を行うと一旦点灯し、徐々に消灯していきます。(オフディレイ機能)

- ドアを開けて閉めたとき
- キーレスエントリー(電波式リモコンドアロック)で解錠したとき

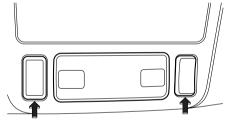
●キー抜き連動機能

中間位置にしているとき、エンジンスイッチからキーを抜くと約30秒間点灯し、徐々に消灯していきます。

●バッテリー上がり防止機能

中間位置のとき、半ドアなどでルームランプが点灯し続けた場合、バッテリー上がりを防止するため、約30分後に自動的に消灯します。
自動消灯時、ルームランプが点滅し、ブザーが鳴ります。
☆2−5ページ参照

■スポットマップランプ

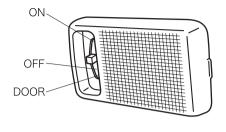
右側のスイッチを押すと右側のランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。
左側も同じように使います。
夜間、車を停めて地図を見るときなどに便利です。

400104

アドバイス

- 車から離れるときには消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。
- 長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

■カーゴルームランプ

車内の天井後側（カーゴルーム上部）にあります。

- ON　　：常に点灯します。
- OFF　　：常に消灯します。
- DOOR：いずれかのドア（リヤゲート含む）を開けると点灯し、閉めると消灯します。

●オフディレイ機能

スイッチをDOOR位置にしているときに、下記操作を行うと一旦点灯し、徐々に消灯していきます。（オフディレイ機能）

- ドアを開けて閉めたとき
- キーレスエントリー（電波式リモコンドアロック）で解錠したとき

●キー抜き連動機能

DOOR位置にしているとき、エンジンスイッチからキーを抜くと約30秒間点灯し、徐々に消灯していきます。

●バッテリー上がり防止機能

DOOR位置のとき、半ドアなどでカーゴルームランプが点灯し続けた場合、バッテリー上がりを防止するため、約30分後に自動的に消灯します。
自動消灯時、カーゴルームランプが点滅し、ブザーが鳴ります。
☆2－5ページ参照

アドバイス

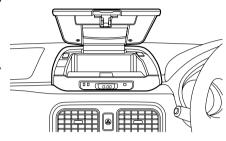
- 車から離れるときには消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。
- 長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

時計

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、時刻が表示されます。

●表示の合わせかた

時刻を調整するときは、アッパーセンターポケットのフタを開けて調整します。

「時」の調整　…Hボタンを押します。
「分」の調整　…Mボタンを押します。
「時報合わせ」…時報と同時にRESETボタンを押します。
(例)1：01〜1：29の場合…1：00
　　1：30〜1：59の場合…2：00

400105

バッテリーの接続を外すと時刻が消去されます。バッテリーを接続後、正しい時刻に修正してください。

5 寒冷地での使いかた

冬の前の準備、点検 …………………………… 5－2
走行する前に ………………………………… 5－6
走行するとき、駐車するとき、洗車するとき
走行するときは ………………………………………………… 5－ 8
駐車するときは ………………………………………………… 5－ 9
洗車するときは ………………………………………………… 5－ 9

5

冬の前の準備、点検

■冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換

雪道や凍結路では、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着して走行してください。
雪道や凍結路の走行が事前に予測される場合には、あらかじめ冬用タイヤを装着しておいてください。

アドバイス

- 装着についての条例は地区によって異なることがあります。走行する地区の条例にしたがってください。
- 装着のときは、下記事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
  - タイヤチェーンを取り付けるときに着用する手袋なども準備しておくことをお奨めします。

■タイヤチェーンの装着

- タイヤチェーンは予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常時のみ、前輪に装着してください。後輪にはタイヤチェーンを装着しないでください。
- タイヤチェーンは付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンを装着しても、路面の状況によっては極低速でスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
- アルミホイール、フルホイールキャップ装着車にタイヤチェーンを取り付けると、アルミホイール、フルホイールキャップが傷つく場合があります。

注 意

- タイヤチェーンを取り付けると前後輪の接地力のバランスが変わるため、後輪が比較的滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 乾いた路面を走行すると、チェーンの寿命を短くします。できるだけ避けてください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、後輪タイヤをパンクした前輪に取り付け、後輪に応急用スペアタイヤを取り付けます。そして前輪にタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認してください。

- タイヤチェーン装着後はゆっくりと走行し（100 m程度）、異音やタイヤチェーンのゆるみなどを確かめてください。

●タイヤサイズに合ったものを使用してください

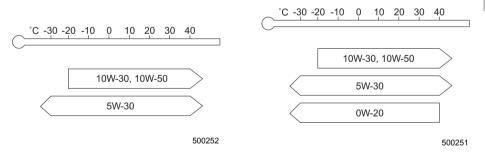
タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。
市販のゴムネットチェーンの中には装着できないものもあります。
詳しくは、スバル販売店にご相談ください。

タイヤサイズ	スバル純正タイヤチェーン			市販JIS チェーンNo.
	スチール チェーン	スプリング チェーン	サイルチェーン	
215/60R16	装着不可	B3177PA010	※B3176SA000	装着不可
215/55R17	装着不可	B3177AG000	装着不可	装着不可
225/45R18	装着不可	B3177AG000	装着不可	装着不可

※215/60R16 スタッドレスタイヤとサイルチェーンの組み合わせはストラットとの干渉が発生するため、装着できません。また、他サイズのスタッドレスタイヤとスバル純正タイヤチェーンとの組み合わせについては、スバル販売店にご相談ください。

■エンジンオイル

下図を参考に、外気温度に応じたエンジンオイルをご使用ください。

●ターボ車　　　●ターボ車以外

アドバイス

- ターボ車にはスバル純正エンジンオイル5W-30（SM級）の使用をお奨めします。
- ターボ車以外にはスバル純正エンジンオイル0W-20（SM級）の使用をお奨めします。

☆8－3ページ参照

■冷却水の濃度点検

冷却水の凍結を防ぐため、スバル純正クーラント（希釈タイプあるいは濃縮タイプ）をお使いください。

- 希釈タイプは、そのままお使いください。
- 濃縮タイプは、濃度を50%の希釈割合（濃度）にしてお使いください。

アドバイス

工場出荷時には50%濃度にしております。

■ウォッシャー液の濃度調整

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温度に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

注 意

- 外気温度と希釈割合を合わせてください。希釈割合が適切でないとウインドゥに噴射した液が凍結し、視界不良になるおそれがあります。また、タンク内で凍結することがあります。
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないように注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液補充後は、ウォッシャータンクからウォッシャーノズル間に残っている補充前の（濃度の低い）ウォッシャー液を除去するため噴射してください。濃度の低いウォッシャー液が残ったままだとノズルが凍結し、ウォッシャー液が出なくなる場合があります。

■バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。
必要に応じてバッテリー液の点検や補充をしてください。
メンテナンスノートをご覧ください。

■燃料タンクの水分除去

燃料タンク内の水分を除去するときは、スバル純正水分除去剤をお奨めします。

■寒冷地用ワイパーブレードの装着

- 寒冷地用ワイパーブレードは、ブレードの金属部分への雪の付着を防ぎ、降雪期の視界確保ができます。
- 寒冷地用ワイパーブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。
- ワイパーブレードの寸法は下記のとおりです。

  フロント

  　運転席側：550 mm

  　助手席側：475 mm

  リヤ　　　：350 mm

⚠ 注 意

高速走行時には、通常のワイパーブレードより拭き取りにくくなることがあります。その場合には、速度を落として走行してください。

アドバイス

寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時期は、通常のワイパーブレードに交換してください。

走行する前に

■足廻りの点検

車の下をのぞいて足廻り（ブレーキ廻り、ブレーキホース）に雪や氷のかたまりが付着していないか点検してください。
雪道を走行したり、吹雪の中に駐車したときは足廻りに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れやブレーキの効きが悪くなることがあります。付着している雪や氷を取り除いてください。

⚠ 注 意

雪や氷を取り除く場合は、鋭利なものや硬いもので叩いたりして車を傷つけないでください。
各タイヤの内側にはABSの車速センサーを取り付けてあります。これらに傷をつけないようにとくに気をつけてください。

■屋根の雪の除去

走行する前に屋根に積もった雪を取り除いてください。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。

■フロントガラス下側の雪の除去

雪がたまっているとワイパーブレードが定位置まで戻れず、作動し続けることがあります。作動し続けるとワイパーが損傷する場合があるため、雪を除去してからワイパーを使用してください。

■ガラス面の雪や霜の除去

プラスチックの板などを使用し、雪や霜を取り除いてください。

アドバイス

金属製の板を使用するとガラスに傷がつくおそれがあります。

■ドアを開けるときには

ドアが凍結しているときに無理に開けると、ドア廻りのゴムがはがれたり、亀裂が発生することがあります。ぬるま湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。その後、すぐに水分を充分拭き取ってください。

アドバイス

ドアのキー穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

■乗るときには

靴についた雪や氷をよく落としてください。
ペダルを操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなってガラスが曇ることがあります。

■暖機運転中

アクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が円滑にできるかを確認してください。

■ワイパーなどの凍結

ワイパー、電動リモコンミラー、パワーウインドゥなどが凍って動かない場合、無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたりバッテリー上がりを起こすおそれがあります。
無理にワイパーを作動させると、ワイパーブレードのゴムが切れることがあります。

ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。

- フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを (デフロスター) にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
- リヤガラスは、リヤウインドゥデフォッガーを使用してください。

☆3－15、4－8ページ参照

⚠ 注 意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
  ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液を外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

☆5－4ページ参照

走行するとき、駐車するとき、洗車するとき

走行するときは

■控えめな運転を心がけてください

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。なお、滑りやすい路面では、シフトダウンによる急激なエンジンブレーキを避けてください。
タイヤがスリップするおそれがあります。

アドバイス

雪道や凍結路など滑りやすい道では、2速ギヤでの発進をお奨めします。
- オートマチック車：
  スノーホールドモードスイッチをONにしてください。

☆3－45ページ参照

- マニュアル車：
  チェンジレバーを“2”にしてください。

☆3－33ページ参照

■ブレーキの効きを点検してください

ブレーキに雪や氷が付着して効きが悪くなることがあります。
走行を開始するとき、車や道路の状況に注意してブレーキの効きを確認してください。
効きが悪い場合には、回復するまでブレーキを軽く踏み続けてください。
ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ハンドルの切れを点検してください

走行中、足廻りに雪が付着するとハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき車を停め、足廻りを確認し、取り除いてください。

☆5－6ページ参照

■ヘッドランプを点検してください

ヘッドランプが汚れていると正常に照らせませんので、汚れを拭き取ってください。
HIDヘッドランプ装着車は、HIDランプの発熱量が少ないため雪が溶けにくい場合があります。雪を落として走行してください。

■積雪などにより、ワイパーが途中で止まったとき

車を安全な場所に停めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチをAccまたはLOCKにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

駐車するときは

■ブレーキの凍結に気をつけてください

駐車ブレーキをかけておくと、駐車ブレーキが凍結することがあります。
次の要領で駐車してください。

- マニュアル車はチェンジレバーを“1”か“R”に入れます。
- オートマチック車はセレクトレバーを[P]に入れます。
- 輪止めをします。

■ボンネット側を風下に

風の当たる部分は、予想以上に低温となります。バッテリー上がりを防ぐためにもボンネット側を風下に向けて駐車してください。

■屋外に駐車するときは、ワイパーアームを立てておいてください

ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防ぎます。

洗車するときは

■凍結防止剤を散布した道路を走ったとき

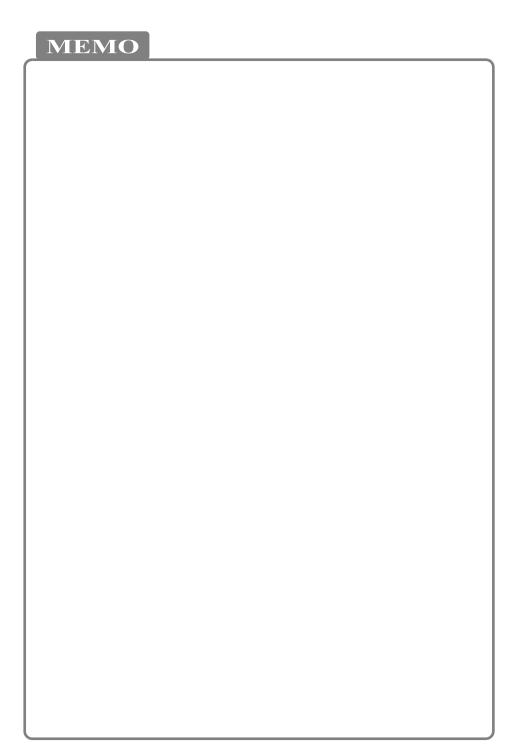
早めに洗車してください。洗車するときは下廻りと足廻りも充分に洗ってください。
放置すると錆の原因となります。

■洗車のしかた

☆6−10ページ参照

■洗車後の注意

洗車後、ボディ廻りの水分をよく拭き取ってください。とくにドア廻りは凍結しやすいところです。
また、ブレーキも凍結することがあるため、後続車や道路の状況に注意して効きを確認してください。

☆6−10ページ参照

6 日常点検・車の手入れ

日常点検

バッテリー液量の点検 …… 6－ 5
タイヤおよびホイール …… 6－ 5

車の手入れ

日常の手入れ …… 6－ 9
外装の手入れ …… 6－10
内装の手入れ …… 6－12
タイヤ・ホイールの交換 …… 6－14
ワイパーブレードの交換 …… 6－16
バルブ（電球）の交換 …… 6－20
ヒューズの点検・交換 …… 6－26
エアフィルターの交換 …… 6－32
リモコンキーの電池交換 …… 6－34

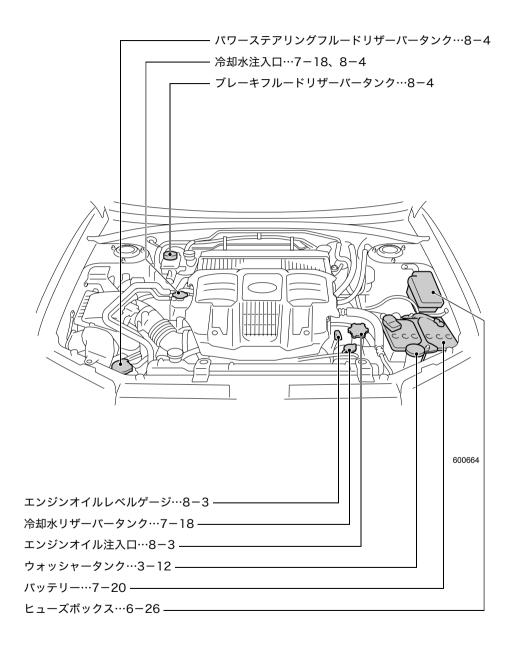
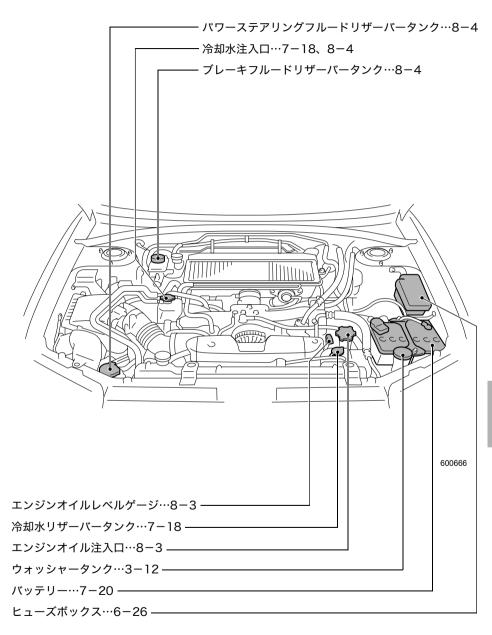
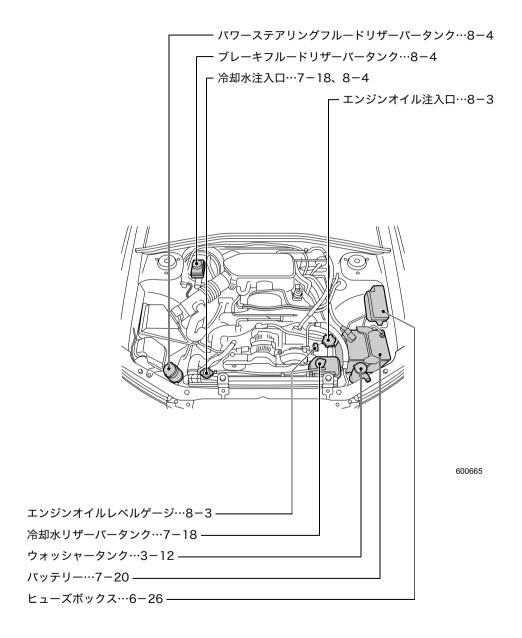
日常点検

＜2.0ℓターボ車＞

<2.5ℓターボ車>

パワーステアリングフルードリザーバータンク…8−4
冷却水注入口…7−18、8−4
ブレーキフルードリザーバータンク…8−4
600666
エンジンオイルレベルゲージ…8−3
冷却水リザーバータンク…7−18
エンジンオイル注入口…8−3
ウォッシャータンク…3−12
バッテリー…7−20
ヒューズボックス…6−26

＜ターボ車以外＞

パワーステアリングフルードリザーバータンク…8−4
ブレーキフルードリザーバータンク…8−4
冷却水注入口…7−18、8−4
エンジンオイル注入口…8−3
600665
エンジンオイルレベルゲージ…8−3
冷却水リザーバータンク…7−18
ウォッシャータンク…3−12
バッテリー…7−20
ヒューズボックス…6−26

バッテリー液量の点検

■バッテリーの液量はときどき点検して

バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ないときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

☆7－20ページ参照

タイヤおよびホイール

■タイヤの点検

タイヤに大きな傷がないか、くぎがささったり石が噛み込んでいないかを日常的に点検してください。
タイヤが異常に摩耗していないかも併せて点検してください。
タイヤの損傷や異常摩耗が見つかったら、スバル販売店にご相談ください。

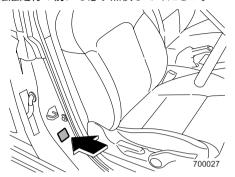
⚠ 注 意

- 縁石にぶつかったときや荒れた路面を走行したときの衝撃でタイヤやホイールが目に見えない損傷を受けることがあります。縁石に乗り上げないように心がけてください。やむを得ず縁石に乗り上げる際はゆっくりと、直角に乗り上げるようにしてください。また、駐車するときはタイヤが縁石に押しつけられていないか確認してください。
- 走行中いつもと違う振動を感じたり、車両の直進性が悪いようであれば、いずれかのタイヤおよびホイールが損傷を受けている可能性があります。お近くのスバル販売店まで安全を確かめながら走行して、点検を受けてください。

■タイヤ空気圧と摩耗

タイヤの空気圧を適正に保つことは、タイヤの寿命を延ばすだけでなく走行性能の点で非常に重要です。スペアタイヤを含むタイヤの空気圧は、最低でも月に1回は燃料補給の際等に点検し正しく調整してください。また、長距離走行の前にも必ず点検してください。

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに実施してください。空気圧ゲージを使用し、タイヤ空気圧ラベルに記載されている指定値どおりに調整してください。

タイヤ空気圧ラベルは運転席側のドアを開けたボディ側に貼られています。

タイヤはわずかな距離を走っただけでも暖まり空気圧は上昇します。また、タイヤの空気圧は気温の影響も受けるので、空気圧の点検は屋外で運転開始前に行うのが最良です。

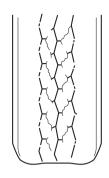
タイヤが暖まっていると、タイヤの中の空気が膨張するために空気圧は高くなります。誤って空気圧を下げないでください。

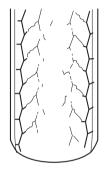
⚠ 注 意

- 扁平タイヤ（45タイヤなど）の空気圧は、見ためではわかりづらいため、必ず空気圧ゲージで点検してください。
- タイヤが暖まっているときは約 30 kPa（0.3 kgf/cm^2）空気圧が高くなります。
- タイヤが冷えているときとは、車を３時間以上駐車しておくか、走行距離が1 km以下の場合を意味します。

タイヤ空気圧が適正でないと操縦性能や乗り心地を悪化させるとともにタイヤの偏摩耗や異常摩耗の原因となります。

- 空気圧が適正である場合…
  タイヤの接地面が均一に摩耗。
  路面との接地性が良くハンドル操作が正確になります。
  車輪の抵抗が減るため燃料消費量が減少します。

- 空気圧が不足している場合…
  タイヤの接地面の端部が摩耗。
  車輪の抵抗が増えるため燃料消費量が増加します。

700020

- 空気圧が過大な場合…
  タイヤ接地面の中央部が摩耗。
  車の乗り心地が悪くなります。
  タイヤが路面の凹凸の影響を受けやすくなり、車両故障の原因になります。

700021

⚠ 警 告

とくに空気圧が低い状態のまま高速走行すると、タイヤは極端に変形し、タイヤ自体の温度が急激に高くなります。タイヤ温度の急激な上昇は、タイヤの接地面にセパレーション（剥離現象）を生じさせ、タイヤの破裂を引き起こす原因になることもあります。その結果、車両のコントロールを失い事故につながるおそれがあります。

■ホイールバランス

新車時、各ホイールのバランスは調整してありますが、しばらく使用するとタイヤの摩耗とともにホイールバランスが狂ってきます。
ホイールバランスが適正でないと特定の速度域でハンドルが小刻みに振動したり、直進性が悪くなったりするばかりか、ステアリング系統やサスペンションの故障およびタイヤの異常摩耗などの原因となります。ホイールバランスの狂いによる振動を感じたら、スバル販売店でホイールバランスを点検・調整してください。
タイヤの修理をした際、またはタイヤを交換した際もホイールバランスの調整をしてください。

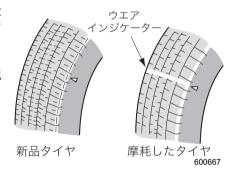
■ホイールアライメント

車両の走行安定性の確保およびタイヤの異常摩耗防止のため、あらかじめサスペンションおよびホイールに設定されている角度です。
縁石にぶつかったりすると、ホイールアライメントが狂うことがあります。

⚠ 注 意

ホイールアライメントが狂っていると、タイヤの片側だけが摩耗したり走行安定性が低下します。タイヤの異常摩耗に気がついたら、スバル販売店にご相談ください。

■ウエアインジケーター

タイヤには、ウエアインジケーター（摩耗状況を表示するもの）がついています。タイヤの接地面の溝の深さが 1.6 mm 以下になると現れます。
タイヤの接地面にウエアインジケーターが現れたときにはタイヤを交換してください。

⚠ 警 告

ウエアインジケーターが現れたら、タイヤの摩耗が限度以上になっています。すぐにタイヤを交換してください。
ウエアインジケーターが現れたままで雨天の高速走行をすると、ハイドロプレーニング現象＊を起こしやすく、その結果車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。
＊水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象

⚠ 注 意

安全のため、タイヤの接地面を定期的に点検し、ウエアインジケーターが現れる前に新品と交換するよう心がけてください。

車の手入れ

日常の手入れ

■手入れのしかた

下記のような場所を走行した後や、塗装面に異物が付着した場合は、必ず洗車してください。また、飛び石などにより、塗装面に傷がある場合、錆の原因となりますので早めに補修してください。

- 凍結防止剤を散布した道路や海岸地帯、ぬかるみ、砂地、砂利道を走行した後は、錆の原因となりますので車体の下廻り、足廻りを念入りに洗ってください。
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。

■保管のしかた

車の保管、長期間の駐車には次のような場所をお奨めします。

- 直射日光が当たらない風通しのよい場所。
- 鉄道線路わきや農薬などの化学薬品が飛散する場所、木のそばを避けます。
- いたずらされにくい場所。

アドバイス

- ラフロード等を走行し、泥や砂が床下部に付着したままで放置すると、錆の原因となります。ラフロード等の走行後には、床下部を洗車し堆積した泥や砂を洗い流してください。なお、洗車する場合は先の尖ったものや鋭利なものを使わないでください。ブレーキホースや配線等に傷をつけるおそれがあります。
- 夏期の屋外に車を停めると車内温度が非常に高くなります。可燃物（ライターやスプレー缶など）は置かないでください。また、インストルメントパネルの上、シートの上にゴム類を置かないでください。変色することがあります。
- 長い間車を使用しない場合には、駐車ブレーキを引かずに次の要領で駐車してください。
  - マニュアル車はチェンジレバーを“1”か“R”に入れます。
  - オートマチック車はセレクトレバーをPに入れます。
  - 輪止めをします。

  また、ワイパーを立てておいてください。ブレード（ゴム）のくせ付きや汚れの付着を防止できます。
- ボディカバーについて、下記の点をお守りください。
  - スバル純正品の中から車に合ったものを選んでください。
  - ときどき水洗いして砂ぼこりなどを洗い流してください。
  - 風で飛ばされないように確実にかけてください。
  - 雨の後はボディカバーを外し、車とボディカバーを乾かしてください。

外装の手入れ

■洗車のしかた

- 水を充分かけながら洗車します。
- ボディは柔らかいスポンジやセーム皮を使って洗います。
- 足廻り、フェンダー内側、下廻りなどを洗うときはゴム手袋を着用し、ハンドブラシなどを使って洗います。泥や砂などをよく落としてください。
- 拭き残しがないようにきれいに水を拭き取ります。
- 汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。

⚠ 注 意

- エンジンルーム内には直接水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品、配線部、パワーステアリングの故障、クラッチ切れ不良、ブレーキの効き不良などの原因につながるおそれがあります。
- 洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。後続車に注意しながらブレーキの効き具合を確かめてください。

アドバイス

- ターボ車において、ボンネットのエアインテークグリルには水をかけないでください。
- アルミホイールはセーム皮、スポンジなど柔らかいもので洗います。汚れがひどいときは、中性洗剤を使って洗い、ワックスがけをしてください。

●自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納してください。
- リヤスポイラー付車を洗車する場合、上面ブラシやエアブローダクトを使用しないでください。上面ブラシやエアブローダクトがリヤスポイラーに引っかかり、リヤスポイラーを損傷することがあります。
- 自動洗車機の種類によっては、ブラシが引っかかりリヤワイパーを損傷させるおそれがあります。洗車前に自動洗車機の使いかたをよく確認し、リヤワイパーを損傷させるおそれがある場合はリヤワイパーをガムテープで固定してください。係員がいる洗車場では、係員の指示に従ってください。
- マイカ塗装車はすり傷が目立ちやすいので、スポンジやセーム皮での手洗いをお奨めします。

●高圧洗車機を使うとき

- 洗車ノズルと車体との距離を充分離してください。（30 cm以上）
- 同じ場所を連続して洗浄しないでください。
- 汚れが落ちにくい場合は手洗いしてください。洗車機から噴射される温水は機種によっては高温・高圧のものがあるので、モールなど樹脂部分の変形、損傷や車内に水が入ることがあります。
- ターボ車において、ボンネットのエアインテークグリルに洗車ノズルを近づけないでください。インタークーラーのフィンが曲がることがあります。

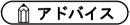
■ワックスのかけかた

洗車のあと、ボディの温度が体温以下のときワックスがけをします。

お使いになるワックス、コンパウンドの使用上の注意をよく読んでから使用してください。

■バンパー塗装面のお手入れ

バンパーの塗装面を末永くきれいな状態でお乗りいただくために、以下のような日常のメンテナンス方法をお奨めします。

① 中性洗剤を用いてバンパーに付着した汚れをよく洗い落としてください。
② 塗装表面に汚れが付着した状態で長期間放置すると、汚れが表面に固着して落ちにくくなりますので、こまめな洗車を行ってください。（少なくとも月に 1 回程度を目安とし、汚れが目立ってきたらその都度洗車してください。）
③ 洗車をしてもバンパーの汚れが落ちきらない場合は、微粒子コンパウンド、またはコンパウンド入りワックス（推奨品；サンジェット2000）を用いてのお手入れを行ってください。
④ 最後にワックス仕上げを行ってください。

【酸性雨に注意】
バンパーに限らず、雨（酸性雨）が降ったときは、出来る限り塗膜上の水分が蒸発する前の洗車をお奨めします。そのままの状態で時間が経過すると、塗膜が酸で侵される事があります。その他、鳥糞・虫・花粉・樹液などの付着は、放置されると塗膜を侵す原因となりますので早めに洗い落としてください。

■ガラスの手入れ

油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗浄剤を使ってきれいに落としてください。
ガラス洗浄剤はスバル純正品を使用してください。

アドバイス

- フロントガラスにワックスが付着したり、窓ガラス用水はじき剤を使用すると、ワイパーのビビリの原因になります。
- フロントガラスにワックスが付かないよう注意してください。ガラスに被膜、油膜が付着していると、ワイパーの拭きが悪くなると同時に夜間の雨降りの場合、対向車のヘッドライトでガラスがぎらぎら光り大変危険です。このようなときは、油膜落とし専用のガラスクリーナーで除去してください。
- リヤガラス（電熱線）を車内から拭くときは、ガラス洗浄剤を使わず、柔らかい布などで軽く、電熱線に沿って拭いてください。洗浄剤を使うと、リヤウインドゥデフォッガーの電熱線を損傷することがあります。

内装の手入れ

①カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除きます。
②水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
③直射日光を避け、風通しの良い日陰で乾燥させます。

警 告

- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤を絶対に使用しないでください。シートベルトの強度が低下し、衝突などのとき充分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 室内の清掃などで車内に水をかけないでください。
オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると火災や故障の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やシミの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、よく確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やシミ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。

■本革内装の手入れ

汚れ落としには、ウール用中性洗剤を5%濃度にうすめた液を柔らかい布に軽く含ませて拭いてください。

残った洗剤分は、真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、シミなどの原因になりますので使用しないでください。
- 本革内装表面に油汚れなどがつくとカビやシミなどの原因になります。早めに落としてください。
- 本革内装表面を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因になります。駐車するときは、日よけを心がけてください。
- 夏期などにビニール類を本革内装の上に置かないでください。室内が高温になるとビニールが変質して本革内装に付着することがあります。

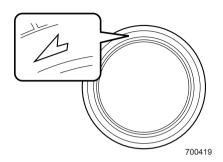
■その他の手入れ

- エアコン操作部、メーター、オーディオ操作部、インストルメントパネル、コンソールボックス、スイッチなどのプラスチック部品を清掃するときは、ぬれた柔らかい布を使用してください。
  きれいで柔らかい布を水あるいはぬるま湯に浸し、汚れを軽く拭き取ります。
- ＜ナビゲーション付車＞
  モニターの表示部が汚れたときは、シリコンクロスか柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーを一旦布に付けてから汚れを落とし、その後洗剤を拭き取ってください。スプレー式のクリーナーなどを直接モニターにかけると、モニターの構成部品に損傷を与えるおそれがあります。また、硬い布で拭いたり、シンナーやアルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷がついたり文字が消えることがあります。

タイヤ・ホイールの交換

■回転方向指定タイヤ

回転方向が指定されているタイヤには回転マークが表示されています。タイヤを取り付けるときには回転方向マークを前進方向に合わせてください。左右を入れ替えないでください。

700419

アドバイス

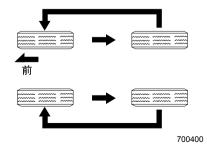
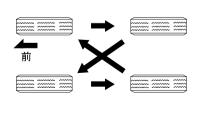
タイヤの位置交換をする際は、タイヤの偏摩耗や損傷を確認し、必要に応じてタイヤを交換してください。
タイヤの位置交換後、タイヤ空気圧を調整しホイールナットの締め付けを確認してください。
約 1,000 km 走行後にホイールナットの締め付け具合を点検してください。いずれかのナットがゆるんでいるようであれば締め付け直してください。

■タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

タイヤの摩耗は、各タイヤごとで異なります。タイヤの寿命を延ばすには、タイヤの摩耗を均一にする必要があります。5,000 kmごとに前後のタイヤの位置交換を行うことが最善です。

回転方向指定タイヤの場合

700400

回転方向指定タイヤ以外の場合

700401

■タイヤの交換

ホイールおよびタイヤは単なる付属品ではなく、設計上でも大変重要な役割を果たしています。

車には、走行性能と乗り心地と寿命をバランスさせせた、その車の性格に最も合ったタイヤが標準装備として取り付けられています。タイヤを交換する際は、タイヤ空気圧ラベルに指定されているタイヤを使用してください。

☆7−8ページ参照

タイヤを交換するときは、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

⚠ 警 告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定された位置に装着してください。

  なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。
- ラジアルタイヤ以外は装着しないでください。操縦性を危険なものにし、事故につながるおそれがあります。

●VDC装着車のタイヤ交換

VDC の正確な作動のために、４輪とも摩耗度合いの等しいタイヤを装着する必要があります。できるだけ4輪同時にタイヤを交換してください。

■ホイールの交換

- ホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のホイールを取り付けてください。
- ホイールのサイズはサービスデータをご覧ください。

☆8－6ページ参照

⚠ 警 告

仕様違いのホイールを装着しないでください。ホイールがブレーキに接触したり、タイヤと車体とのすき間が変わることで、操舵時にタイヤが車体に接触し、車両のコントロールができなくなり事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ホイールは、リムサイズやオフセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、スバル販売店にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限がありますので、交換するときはスバル販売店にご相談ください。
- タイヤやホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実にとってください。

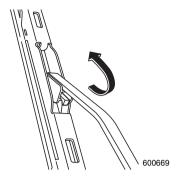
ワイパーブレードの交換

■ワイパー本体の交換

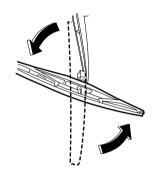
●フロント

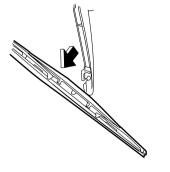
① ワイパーアームを立て、ワイパーアームについているツメを押しながらブレードを矢印の方向に引いて外してください。

②ワイパーアームに新品のワイパーブレードを取り付けてください。このときブレードのフックが確実に固定されていることを確認してください。

600669

③手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻してください。

●リヤ

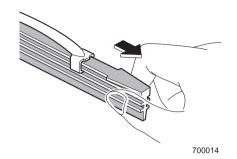
①ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを反時計回りに回してください。

700011

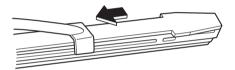
②ワイパーアームを手で支えながら、ワイパーブレードを手前に引き、取り外してください。

700013

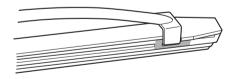
③ワイパーアームに、新品のワイパーブレードを取り外しの逆手順で取り付けます。手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻してください。

■ブレードラバーの交換方法

●フロント

①古いブレードラバーを引き抜きます。図のように凸部分をつまんで引き抜いてください。

700014

②新しいブレードラバーを挿入します。このとき、ラバーの溝を間違えないように挿入してください。

700015

③ブレードラバー先端のストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。
適切に挿入されていないとガラス面に傷をつけるおそれがあります。

700016

④確実に装着されているか、確認してからワイパーを作動させてください。
適切に装着されていないと、ガラス表面に傷をつけるおそれがあります。

●リヤ

① ブレードラバー端部をワイパーブレードから外してください。

700017

② ワイパーブレードのツメ部からブレードラバーを引き抜いてください。

700018

③ ワイパーブレードに新品のワイパーブレードラバーを挿入してください。このとき、ブレードラバーの溝部にワイパーブレードのツメ部が挿入されていることを確認してからワイパーを作動させてください。適切に装着されていないと、ガラス面に傷をつけるおそれがあります。

アドバイス

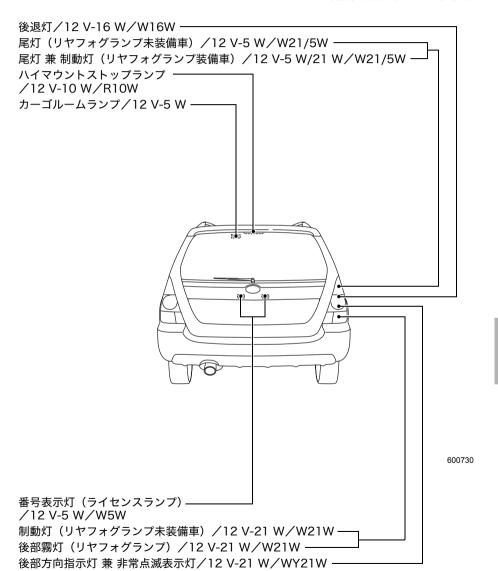
- ワイパーブレード本体およびブレードラバー（ゴム）はスバル純正品をご使用ください。純正品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- ブレードラバーは交換部品です。傷んだままのブレードラバーを使い続けると、ガラスに傷をつけるおそれがあります。払拭性能が落ちてきたり、スジつきが目立つようになったら早めに交換してください。
- ワイパーブレードの寸法は下記のとおりです。
  フロント
  　運転席側：550 mm
  　助手席側：475 mm
  リヤ　　　：350 mm
- 起こしたワイパーを戻すときは、手を添えながら、ゆっくりとウインドゥガラス面へ戻してください。スプリングの力だけで離れた位置から戻すとワイパーアームが変形したり、フロントガラスに傷がついたりすることがあります。

バルブ（電球）の交換

交換方法が記載されていない電球の交換については、スバル販売店にご相談ください。

ドアミラー内蔵型方向指示灯兼非常点滅表示灯およびルーフスポイラー内蔵型ハイマウントストップランプはLEDタイプとなります。交換はスバル販売店にご相談ください。

名称／容量（ワット数）／形式

後退灯／12 V-16 W／W16W
尾灯（リヤフォグランプ未装備車）／12 V-5 W／W21/5W
尾灯 兼 制動灯（リヤフォグランプ装備車）／12 V-5 W/21 W／W21/5W
ハイマウントストップランプ
／12 V-10 W／R10W
カーゴルームランプ／12 V-5 W
600730
番号表示灯（ライセンスランプ）
／12 V-5 W／W5W
制動灯（リヤフォグランプ未装備車）／12 V-21 W／W21W
後部霧灯（リヤフォグランプ）／12 V-21 W／W21W
後部方向指示灯 兼 非常点滅表示灯／12 V-21 W／WY21W

警 告

HIDヘッドランプは高電圧を使用しています。不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。HIDヘッドランプのバルブ交換はスバル販売店にご依頼ください。

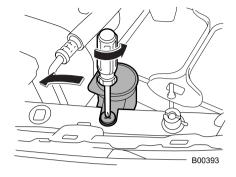
注 意

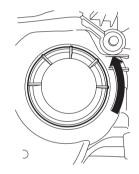
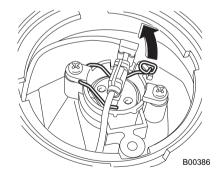
- 定められたワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、車両火災の原因につながるおそれがあります。
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると損傷してガラスが飛び散ることがあります。取り扱いには充分に注意してください。
- ハロゲンバルブの電球の表面に、手などが触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤のうすい水溶液を柔らかい布に含ませて、よく拭き取ってください。

アドバイス

- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときや、ランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。
- 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。電球のソケットなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
- ヘッドランプを交換したときは法律で定められた光軸調整が必要となります。スバル販売店にご相談ください。
- レンズをネジで締め付けるとき、締め過ぎてレンズを割らないように気をつけてください。

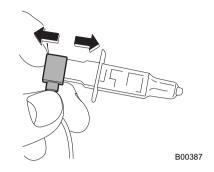
■ヘッドランプ

左側（バッテリー側）のヘッドランプバルブを交換する前に、ウォッシャータンクをとめているクリップを取り外し、ウォッシャータンクのノズル部を傾けてください。

●ロービーム（HID以外）

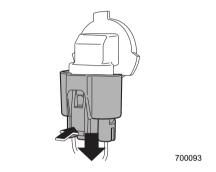
①バックカバーを反時計回りに回し、取り外します。

②電球を押さえている止め金を外し、電球を引き抜きます。

次ページへ ⇒

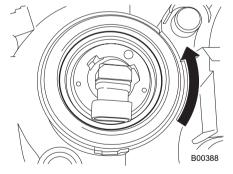
⇒前ページより

③コネクターを引き抜きます。
④新しい電球にコネクターを差し込み、止め金でとめてください。
⑤バックカバーを時計回りに回し、取り付けます。

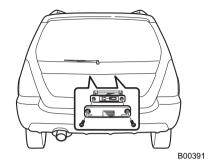
B00387

●ハイビーム

①コネクターを引き抜きます。

700093

②電球を反時計回りに回し、引き抜きます。
③新しい電球を時計回りに回し、取り付けます。
④コネクターを差し込みます。

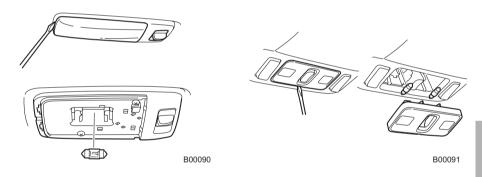
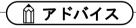
B00388

■ライセンスランプ（番号灯）

①ネジ（2本）をゆるめ、レンズカバーおよびレンズを外します。
②電球を引き抜き、新しい電球を差し込みます。
③レンズカバーおよびレンズを取り付けてネジ（2本）を締め付けます。

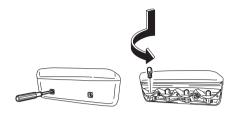
B00391

■ルームランプ、スポットマップランプ

①レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズ本体を取り外します。
②電球を取り外し、新しい電球を取り付けます。
③レンズを取り付けます。

B00090

B00091

レンズを外すとき
レンズを傷つけないよう、なるべく細いマイナスドライバーを使ってください。

■ハイマウントストップランプ（ルーフスポイラー装着車以外）

①ネジ（２本）をゆるめ、ハイマウントストップランプカバーを取り外します。
②電球をいっぱいに押し込みながら左に回し、ソケットから外します。
③ハイマウントストップランプカバーを取り付け、ネジ（２本）を締め付けます。

700387

レンズを外すとき
レンズを傷つけないよう、なるべく細いマイナスドライバーを使ってください。

■その他のランプ

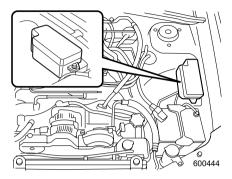
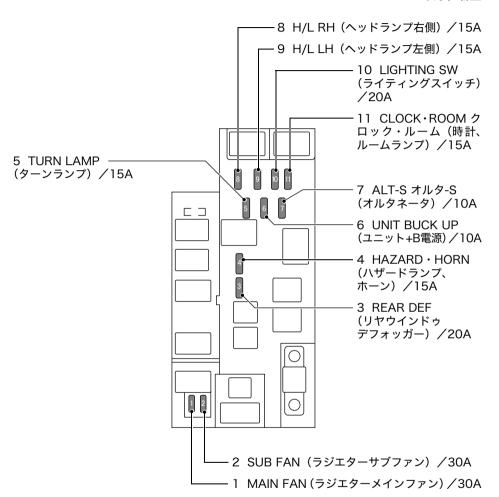
電球交換の作業が難しいため、スバル販売店にご依頼ください。

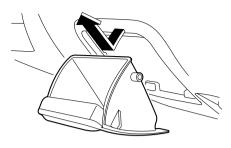
ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていないのに、ランプが点灯しない、電気装置が動かないときは、ヒューズ切れや電球（バルブ）切れが考えられます。
この場合、以下の手順で確認してください。
①エンジンスイッチをLOCKにします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。故障の状況から、点検すべきヒューズをエンジンルーム内のヒューズボックスカバー裏および室内のコイントレイ裏の表示で確認し、点検します。
③切れているときは、ヒューズを交換します。

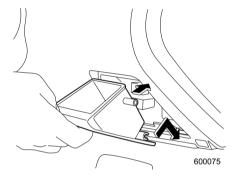
■ヒューズボックスの位置

●エンジンルーム内

ボンネットを開け、ヒューズボックスカバーを取り外します。

エンジンルーム内ヒューズボックス

●室内

コイントレイを開け、コイントレイを引き、取り外します。

600074

取り付けは、ツメ部とピン部を合わせて取り付けてください。

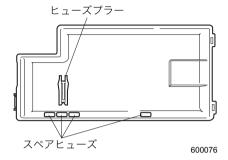
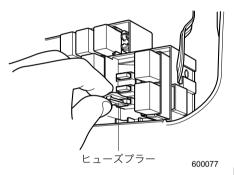
600075

室内ヒューズボックス

ラベル表示／容量
20 リヤワイパー（リヤワイパー）／15A
21 IG COIL（イグニッションコイル）／15A
22 シートヒーター（シートヒーター）／15A
23 空き
1 HEATER BLOWER ヒーター ブロア（ヒーターファン）／15A
2 HEATER BLOWER ヒーター ブロア（ヒーターファン）／15A
3 DOOR LOCK ドアロック（集中ドアロック、電波式リモコンドアロック）／15A
4 MIRROR CIGAR ミラー シガライター（シガーライター、電動ドアミラー）／15A
5 TAIL CLEARANCE テール クリアランス（尾灯、車幅灯）／10A
6 SRS AIR BAG（SRSエアバッグ）／15A
7 FOG LAMP（フロントフォグランプ）／15A
8 UNIT+B（ユニット+B電源）／30A
11 E/G IGN AIR BAG（イグニッションシステム、SRSエアバッグ）／15A
12 ILLUMI イルミ（メーターイルミネーション）／10A
10 REAR FOG（リヤフォグランプ）／10A
9 RADIO AUDIO ラジオ オーディオ（オーディオ）／15A
19 12 V OUTLET（電源ソケット）／15A
18 BACK バック（後退灯）／15A
17 A/C（エアコン）／15A
16 STOP（制動灯）／20A
15 WIPER WASHER（フロントワイパー＆ウォッシャー）／30A
14 METER メーター（メーター、SRSランプ）／10A
13 DEICER デアイサ（ワイパーデアイサー、ヒーテッドドアミラー）／20A

■ヒューズの点検・交換

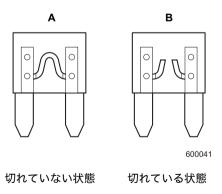
●ヒューズの外しかた

エンジンルーム内のヒューズボックスカバーおよび室内のコイントレイの裏面に、ヒューズラベルが貼付されています。故障の状況から点検すべきヒューズを確認します。

ヒューズプラーをヒューズボックスカバーから抜き取ります。

ヒューズプラーでヒューズをつかみ、抜きます。

●ヒューズが切れているとき

ヒューズが切れているときは、エンジンルーム内のヒューズボックスカバーの裏側にあるスペア（10 A、15 A、20 A、30 A各1個）と交換してください。

切れたヒューズと同じ容量（アンペア数）のヒューズと交換してください。

切れていない状態　　切れている状態

⚠ 注 意

ヒューズを交換するとき
- 必ずエンジンスイッチをLOCKにしてください。ONやAccのままだと、ショートするおそれがあり、危険です。
- 指定容量のヒューズに交換してください。
  指定以外のヒューズを使うと故障につながります。
- ヒューズの代わりに針金や銀紙などは絶対に使わないでください。配線の過熱や焼損の原因になります。

アドバイス
- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- スペアヒューズと交換した後は、スバル販売店でスペアヒューズの補充をしてください。
- ヒューズ交換後はスバル販売店で点検を受けてください。

●ヒューズが切れていないとき
- ライト類が点灯しないときは、電球を点検し、切れているときは交換してください。

☆6−20ページ参照

  また、電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられるため、スバル販売店で点検を受けてください。

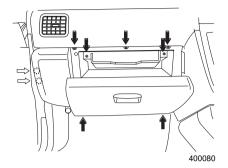
エアフィルターの交換

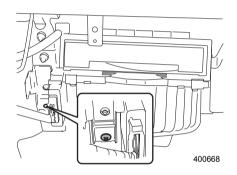
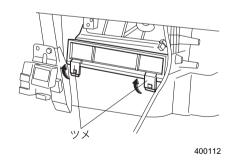
エアコンにはエアフィルターが装着されています。
快適にお使いいただくため、定期的に交換してください。

■交換時期
12,000 km走行ごとまたは1年ごと

■交換方法

① グローブボックスを固定しているネジ 7 本（➡部分）を外した後に、内部のクリップ 2個（⇨部分）を外し、グローブボックスを取り外します。

400080

② ステーを固定しているネジを外し、ステーを取り外します。（HID ヘッドランプ装着車）

400668

③ ツメを外し、エアフィルターを交換します。

400112

400113

アドバイス

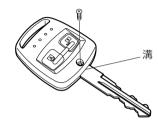
グローブボックス脱着の際、ハーネス（電線）などの部品に触れないようにしてください。

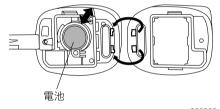
リモコンキーの電池交換

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられるため、早めに電池を交換してください。

使用電池……ボタン電池CR1620

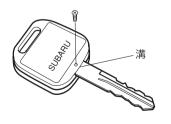
▼STI

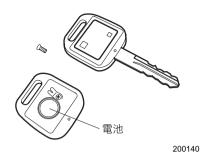
① スクリュー を1本外し、溝部にドライバーを差し込み、カバーを外します。

200872

② 電池を取り出し、新しい電池の⊕側を下にして挿入します。

200893

③ カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

▼STI以外

① スクリューを1本外し、溝部に⊖ドライバーを差し込み、カバーを外します。

200139

② 電池を取り出し、新しい電池の⊕側を下にして挿入します。

③ カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

⚠ 注 意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにとくにご注意ください。

アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。故障の原因となりますので、端子部分などを曲げないよう、注意してください。
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

7 万一のとき

ジャッキ、工具、スペアタイヤ

ジャッキ、ジャッキハンドル …… 7－ 2
工具 …… 7－ 2
応急用スペアタイヤ …… 7－ 3

パンクしたタイヤの交換

タイヤ交換手順 …… 7－ 6

発炎筒について …… 7－10

故障したとき

踏切で動けなくなったとき …… 7－12
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき …… 7－12
路上で動けなくなったとき …… 7－13
故障時の対応方法と連絡先 …… 7－13

けん引のとき

けん引してもらうとき …… 7－14
他車をけん引するとき …… 7－17

オーバーヒートしたとき …… 7－18

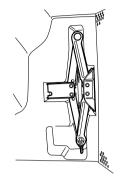
バッテリーが上がったとき …… 7－20

事故が起きたとき …… 7－22

ジャッキ、工具、スペアタイヤ

ジャッキ、ジャッキハンドル

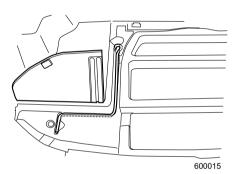
■ジャッキ

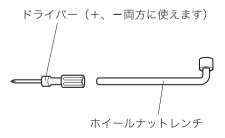
カーゴルーム内左側奥のサブトランクに収められています。リッド（フタ）を開けて取り出します。

600014

■ジャッキハンドル

カーゴルーム内左側のサブトランクに収められています。左側手前、中央のリッド（フタ）を開けて取り出します。

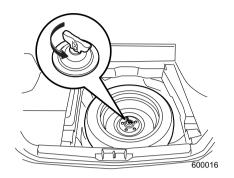
600015

工具

工具は定めた場所に置いておくと、万一のときすぐに取り出せます。その他、ご自分で必要と思われる工具もそろえておくと、点検や手入れのとき役立ちます。

- ツールバッグ
- ドライバー（+、−両方に使えます）
- ホイールナットレンチ

700489

応急用スペアタイヤ

■スペアタイヤ

カーゴルーム内のフロア部に格納されています。固定ネジをゆるめて取り外してください。

⚠ 注 意

応急用スペアタイヤは、標準タイヤがパンクしたとき応急用としてのみ使用するタイヤです。応急用スペアタイヤのホイールに貼ってある注意書をよく読み、使用するときは次のことを守ってください。

- 応急用スペアタイヤの空気圧は、空気圧ゲージを使用して必ず点検してください（月1回程度）。空気圧が不足している状態で走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  空気圧：420 kPa（4.2 kgf/cm^2）（走行前のタイヤが冷えているとき）
- 指定（車載）の応急用スペアタイヤを使ってください。
  この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用しないでください。
- 応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤを直ちに修理し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100 km/h以下の速度で走行してください。
- 前輪がパンクしたときは、後輪のタイヤを前輪につけ、後輪に応急用スペアタイヤを装着してください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結道路で前輪がパンクした場合も同様に応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪を前輪につけてから、タイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは、標準タイヤ装着時に対し車高が低くなります。突起物などを乗り越えるときは、普段と同じ感覚で運転すると下部をぶつけるおそれがあります。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- スリップサインが現れたら、新品の応急用スペアタイヤと取り替えてください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときは、スバル販売店にご相談ください。

■オートマチック車における取り扱い

オートマチック車（ただし、VDC装着車およびクロススポーツターボ車を除く）は、応急用スペアタイヤ装着の際、全輪駆動を強制解除してください。

●強制解除の方法

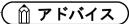
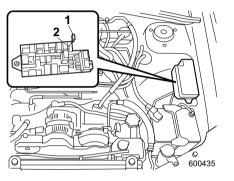
①エンジンを止めます。
②ボンネットを開けます。
③エンジンルーム内のヒューズボックスを開けます。
④ヒューズボックス内のFWDヒューズホルダーにスペアヒューズを差し込みます。
スペアヒューズはヒューズボックスの裏フタに付いています。どのスペアヒューズを使ってもかまいません。
1：スペアヒューズ
2：FWDヒューズホルダー

⑤ヒューズボックスを閉じ、ボンネットを閉じます。
⑥エンジン始動後、メーター内のAWD警告灯が点灯していることを確認してください。AWD警告灯が点灯しているときは全輪駆動が解除され、前輪駆動（二輪駆動）になります。

パンク修理後、応急用スペアタイヤから標準タイヤに戻したときは、必ず差し込んだヒューズを抜き全輪駆動に戻してください。
抜いたヒューズはヒューズホルダーに戻します。

⚠ 注 意

FWD ヒューズホルダーからスペアヒューズを抜かずにそのまま走行を続けると、駆動装置が損傷する原因となります。

アドバイス

上記の処置はマニュアル車、VDC装着車およびクロススポーツターボ車には必要ありません。ヒューズを差し込んでも全輪駆動の強制解除はできません。

パンクしたタイヤの交換

警 告

- ジャッキアップしたらエンジンを始動しないでください。車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしたら車内に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキが外れることがあり危険です。
- ジャッキアップしたら車両の下にもぐり込まないでください。ジャッキが外れると重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他の車のジャッキを使わないでください。車載のジャッキ以外のものを使用した場合、ジャッキが外れたり、車体を変形させるおそれがあります。また、車載されたジャッキは他車には使わないでください。
- ジャッキはタイヤ交換あるいはタイヤチェーンの脱着以外に使わないでください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
- ジャッキ使用前に駐車ブレーキレバーを引き、オートマチック車はセレクトレバーを[P]に、マニュアル車はシフトレバーを“R”にしてください。
- 輪止めなどをして車を固定してください。
- 同乗者は必ず車から降ろしてください。
- ジャッキと車両の間に台やブロックなどを挟まないでください。
- タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の力で締め直してください。

☆7−8ページ参照

- 車体に振動がでたらスバル販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。
- ガレージジャッキ等を使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。

タイヤ交換手順

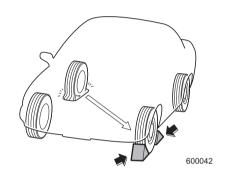
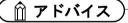
☆6－15ページ参照

■交換前にすること

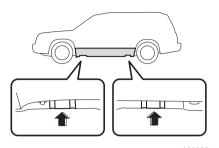
①交通のじゃまにならず、安全に作業ができる場所に車を停め、エンジンを止めます。

安全な場所を選んでください
地面が平坦で硬く、車が安定する場所を選んで停めてください。

②駐車ブレーキレバーを引きます。
③マニュアル車はシフトレバーを“R”に、オートマチック車はセレクトレバーを[P]に入れます。
④非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（停止表示灯）を使用します。
⑤車が動きださないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。
（図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。）

600042

⑥ジャッキハンドル、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、工具を取り出します。
☆7－2ページ参照
⑦応急用スペアタイヤを、交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。

輪止めおよび停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備しておいてください。

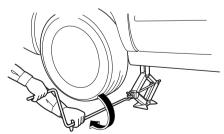
■ジャッキアップするとき

①交換するタイヤに近いジャッキアップポイントの下にジャッキを置き、ジャッキ頭部の溝が車体のジャッキアップポイントにはまるまでジャッキを手で回します。

600025

> **⚠ 注 意**
>
> ジャッキが確実に車体のジャッキアップポイントにかかっていることを確認してください。
> ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっていると、ジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷つけるおそれがあります。

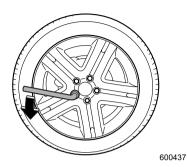
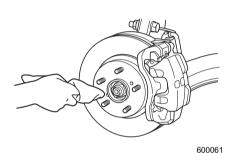
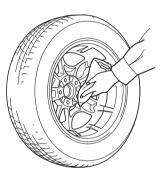
②ホイールナットレンチを使い、全てのホイールナットを約半回転ゆるめます。

600437

③ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。ジャッキハンドルを回し、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。

600438

■タイヤ交換

①ホイールナットを外します。

600437

②タイヤを付け替えます。
このとき、ホイール取付部とホイールの接触面の汚れを拭き取ってください。

600061

600062

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

③ホイールナットを手で回して取り付けます。その後、ホイールがガタつかない程度までホイールナットをホイールナットレンチで仮締めします。
④ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。
⑤ホイールナットレンチを使用して、図の順番に2、3回にわけてホイールナットを締め付けます。

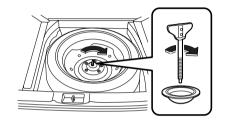
600439

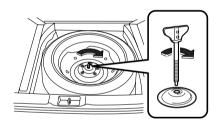
レンチの柄の先端にかける力	締付トルク（参考）
400～500 N (40～50 kg)	80～100 N･m (8～10 kg･m)

⚠ 注 意

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
- ナット、ホイールの座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにしてください。油がついていると締め過ぎの原因になります。

■パンクしたタイヤの格納

- センターキャップ付ホイール装着車は、センターキャップを取り外してください。
- スペアタイヤが格納されていた場所にしまいます。スペーサーは図の向きにして取り付けます。

600064

- 応急用スペアタイヤを戻すときは、スペーサーを図の向きにして取り付けます。

600065

■タイヤ交換後

- ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを元の場所へ戻します。外したサブトランクは荷室に入れてください。

☆7−2ページ参照

- VDC装着車およびクロススポーツターボ車を除くオートマチック車は、応急用スペアタイヤに交換したとき、全輪駆動（四輪駆動）を強制解除してください。
  パンク修理後、応急用スペアタイヤから標準タイヤ（修理したタイヤ）に戻したいときは、全輪駆動に戻してください。

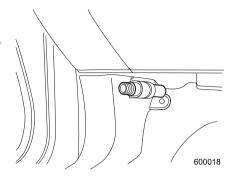
☆7−4ページ参照

- 最初はゆっくり走り、異音や振動がないか確かめます。
- パンク修理後はすみやかに応急用スペアタイヤから標準タイヤ（修理したタイヤ）に交換してください。

発炎筒について

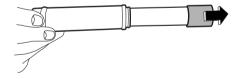
グローブボックス左下に備えつけてあります。

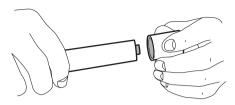
使用方法は発炎筒の外筒に書いてありますので、あらかじめ確認しておいてください。

600018

■発炎筒の使いかた

①ケースをひねり、ケースを取り外します。

600029

②ケースを本体の後部に取り付け、白いキャップを取り外します。

600030

③ 本体の先端に、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。

600031

⚠ 警 告

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、やけどや火災につながるおそれがあります。
- 燃料など可燃物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 筒先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中で使わないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅灯を使用してください。

☆3－16ページ参照

アドバイス

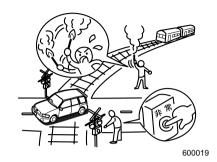
発炎筒はすぐに使えるようにしておいてください

発炎筒には有効期限が明示されています。有効期限が切れる前に、スバル販売店でお求めください。

故障したとき

踏切で動けなくなったとき

脱輪などで脱出できないとき、非常ボタンがある踏切では、非常ボタンを押してください。非常ボタンがない、位置がわからない、緊急を要するときは、発炎筒を使い合図をしてください。

600019

アドバイス

マニュアル車、オートマチック車ともエンジンスイッチをSTARTで保持して(スターターを回している状態)、一時緊急的に車を動かすことはできません。

- オートマチック車はPおよびN以外ではスターターが回りません。
- マニュアル車はクラッチペダルを踏まないとスターターが回りません。

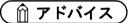
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

① 車を路肩など安全な場所に停め、非常点滅表示灯を点滅させ、車の後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。

600020

②全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

600021

③安全を確保後、救援をたのみます。

- 停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。
- 停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

路上で動けなくなったとき

①あわてず、もう一度エンジンをかけてみてください。
②エンジンがかからないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所へ移動してください。
そのとき、チェンジレバー、セレクトレバーはNにします。
☆3－38ページ参照

故障時の対応方法と連絡先

①車を安全な場所に移動する等、可能な範囲で安全を確保してください。
②最寄りのスバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡し、ご相談ください。
③スバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡が取れない場合は JAF ロードサービスに連絡し、ご相談ください。

アドバイス

- スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は別冊の「スバルサービスネットワーク」に記載されています。
- 万一のために、JAFに入会されることをお奨めします。

けん引のとき

車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。
旅先では、別冊の「スバルサービスネットワーク」を参考に、スバル販売店、スバル指定サービス工場、JAFロードサービスに依頼してください。

けん引してもらうとき

■けん引方法の違い

車の仕様によりけん引方法が違います。

- 車載（4輪持ち上げ）の場合
  マニュアル車、オートマチック車ともに可能です。トランスミッション（変速機）や駆動装置が故障したと思われる場合は車載してください。
- ロープけん引
  マニュアル車は可能ですが、オートマチック車は、次の条件をお守りください。お守りいただかないと、駆動装置が損傷するおそれがあります。
  – 速度30 km/h以下で走行してください。
  – 走行距離は30 kmを超えないでください。

⚠ 注 意

前輪のみの持ち上げけん引および後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛びだすことがあります。

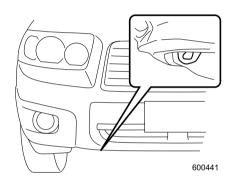
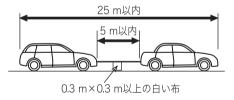
600271

600272

■ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

- けん引時は、指定のフックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトロープとバンパーフェースの間にウエスなどを挟むか、バンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけ、保護する処置をしてください。
  とくにスポイラー（エアロ）装備車においては、スポイラー下面やバンパーとの合わせ部に擦り傷ができたり、取付ブラケットの折損につながるおそれがありますので、キャリアカーでの積載を推奨します。

① けん引フックにロープをかけます。

② ロープ中央部に白い布（0.3 m × 0.3 m 以上）をつけます。
③ マニュアル車、オートマチック車ともに「ニュートラル」にします。
④ エンジンスイッチをONにします。
⑤ 駐車ブレーキを解除し、けん引します。
けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⚠警告

- エンジンスイッチをLOCKにしたり、キーを抜いたりしないでください。ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。

⚠ 注 意

- マニュアル車、オートマチック車とも「ニュートラル」にしてください。
- エンジンスイッチをONにして、ハンドルが自由に動くことを確認してください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載（4輪持ち上げ）でのけん引を依頼してください。ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などロープに衝撃を与えないように運転してください。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が起きます。充分注意して操作してください。
  - ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
  - パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- 駐車ブレーキレバーを確実に戻してください。
- トランスミッション（変速機）および駆動装置が故障したと思われるときは必ず車載で（4輪を持ち上げて）けん引してください。
- 故障の内容によりけん引できない場合があります。

アドバイス

ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引してもらうときは、車体に当たる部分に布を巻くなどして行ってください。
そのままけん引してもらうと、バンパーを損傷するおそれがあります。

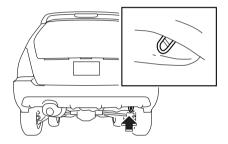
他車をけん引するとき

やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。
また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

アドバイス

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけたり、布を巻く等の保護処置をしてください。

●けん引フックの位置

リヤバンパー下の右側にあります。

600024

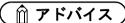
オーバーヒートしたとき

このようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針がオーバーヒートゾーンに入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

☆3－19ページ参照

■ 対処のしかた

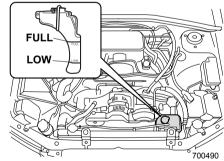
①後続車に注意し、安全な場所に車を停めます。

エアコンを使用している場合はエアコンを止めてください。

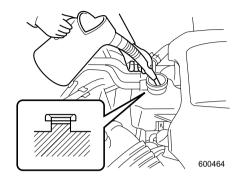
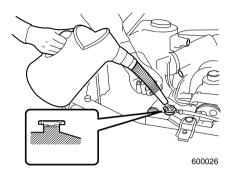
②エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがないときは、エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。
このとき、冷却ファンが回っていることを確かめてください。
ファンが回っていないときは、エンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。

アドバイス

エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、後続車に注意し、車を安全な場所に停め、すぐにエンジンを止めてください。スバル販売店に連絡してください。

③水温計の針が下がってきたらエンジンを止めます。
④エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。
⑤リザーブタンク内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、補給します。

- リザーブタンクは FULL 位置まで補給します。

- ターボ車はエンジン上部の補助タンクキャップの口元まで、ターボ車以外はラジエターキャップの口元まで補給します。

ターボ車

ターボ車以外

⚠ 警 告

- エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるとき、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンが高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ラジエターや補助タンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエターや補助タンクが充分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

アドバイス

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが充分に冷えてからゆっくりと入れてください。
- 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。
- ターボ車ではラジエター側のキャップを外さないでください。
  冷却水または水を入れるときは、エンジン上部の補助タンクから入れてください。

⑥ 早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。

- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからないとき。
- ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき。

■対処のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼し、ブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

⚠ 警 告

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下で充電すると、劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、以下を必ずお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。
  - プラス端子とマイナス端子を間違えないでください。
  - プラス端子とマイナス端子を接触させないでください。
  - 自車のバッテリーのマイナス端子にケーブルを接続しないでください。
- バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、全てのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮ふに付くと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

⚠ 注 意

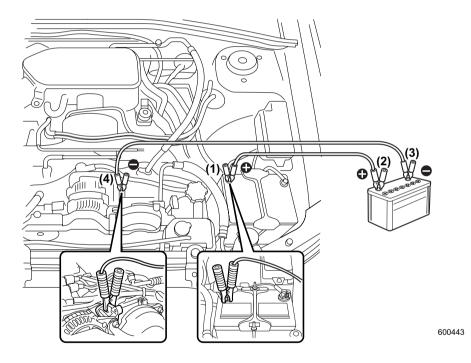
ブースターケーブルを接続するときは次の項目をお守りください。

- 12 Vのバッテリーと接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器が損傷するおそれがあります。

① カバーを外し、赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーの⊕端子につなぎます。(1)
② 赤いブースターケーブルのもう一方を、救援車のバッテリーの⊕端子につなぎます。(2)
③ 黒いブースターケーブルの一方を、救援車のバッテリーの⊖端子につなぎます。(3)
④ 黒いブースターケーブルのもう一方を、自車の車体（エンジンハンガーなど）につなぎます。(4)
⑤ 救援車のエンジンを始動し、エンジン回転数を少し高めにします。
⑥ 自車のエンジンをかけます。
⑦ ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。

アドバイス

早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

☆8−2ページ参照

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

①続発事故の防止につとめてください

他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。

②負傷者の救護につとめてください

負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

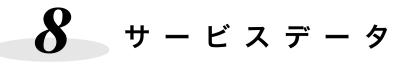
③警察へ届け出をしてください

事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。

④相手方の確認とメモをおとりください

相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。
同時に事故状況もメモしておいてください。

⑤スバル販売会社と保険会社へ連絡してください

ご購入されたスバル販売会社と加入の保険会社へ連絡をします。

サービスデータ

交換時期については、舗装路を1年に10,000 km程度走行する車を前提に定めてあります。走行距離の多い車や未舗装路を走行するなど厳しい使われかたをした車については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

<table>
<tr><td colspan="3">オルタネータ　パワーステアリング
ベルトのたわみ量（点検時）</td><td colspan="2">ベルト中央部を約100 N（約10 kgf）の力で押したとき</td><td colspan="2">9～11 mm</td></tr>
<tr><td colspan="3">エアコンベルトのたわみ量（点検時）</td><td colspan="2">ベルト中央部を約100 N（約10 kgf）の力で押したとき</td><td colspan="2">9～10 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スパーク
プラグ</td><td colspan="2">指定スパークプラグ
車種</td><td>品番</td><td>メーカー</td><td colspan="2">電極すき間</td></tr>
<tr><td colspan="2">2.0 ℓ ターボ車</td><td>※PFR6G</td><td rowspan="3">NGK</td><td colspan="2" rowspan="2">0.7～0.8 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">2.5 ℓ ターボ車</td><td>※ILFR6B</td></tr>
<tr><td colspan="2">ターボ車以外</td><td>※PFR5B-11</td><td colspan="2">1.0～1.1 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキ
ペダル</td><td colspan="2">遊び</td><td colspan="2">指で押したとき</td><td colspan="2">1～3 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">踏み込んだときの
床板とのすき間</td><td colspan="2">約300 N（約30 kgf）
の力で踏み込んだとき</td><td colspan="2">85 mm以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">クラッチ
ペダル</td><td colspan="2">遊び</td><td colspan="2">指で押したとき</td><td colspan="2">5～15 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">つながる直前の
床板とのすき間</td><td colspan="2">―――</td><td colspan="2">80 mm以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">駐車ブレーキの引きしろ</td><td colspan="2">約200 N（約20 kgf）の力でゆっくり引いたとき</td><td colspan="2">7～8 ノッチ</td></tr>
<tr><td colspan="3">タイヤ空気圧</td><td colspan="4">8－6ページ参照</td></tr>
<tr><td colspan="3">ウォッシャータンク容量</td><td colspan="4">3.0 ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">燃料タンク
容量</td><td colspan="2">ターボ車</td><td colspan="3">無鉛プレミアムガソリン使用</td><td>約60 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="2">ターボ車以外</td><td colspan="3">無鉛レギュラーガソリン使用</td><td>約50 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">エアクリーナーエレメント</td><td>使用部品</td><td colspan="4">純正エアクリーナーエレメント</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">50,000 kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">バッテリー型式</td><td>MT車</td><td colspan="3">55D23L（12V48AH）</td></tr>
<tr><td>AT車</td><td colspan="3">65D23L（12V52AH）</td></tr>
</table>

〈注〉※印 イリジウムおよび白金スパークプラグは、次のことに注意してください。
電極材料に貴金属を使用しています。電極を損傷するおそれがあるため、プラグクリーナー等による清掃やプラグギャップ（電極すき間）調整は行わないでください。

エンジンオイル*	使用オイル	スバルモーターオイル SM 5W-30		5W-30 (SM級)
		スバルモーターオイル SM 0W-20 (ターボ車以外のみ使用可)		0W-20 (SM級)
		スバルモーターオイル SL 5W-30		5W-30 (SL級)
		FREEDOM		10W-30
		エルフ 10W-50 レ・プレイアード		10W-50
	規定量		オイルのみ交換	オイルとフィルター同時交換
		ターボ車 AT車	約4.0 ℓ	約4.2 ℓ
		ターボ車 MT車	約4.0 ℓ	約4.3 ℓ
		ターボ車以外	約4.0 ℓ	約4.2 ℓ
	交換時期	10,000 kmごと、または12か月ごと (どちらか早いほうで実施)		
エンジンのオイルフィルター	使用部品	純正オイルフィルター		
	交換時期	10,000 kmごと		
フューエルフィルター	使用部品	純正フューエルフィルター		
	交換時期	60,000 kmごと		
トランスミッションオイル (マニュアル車)	使用オイル	スバルギヤオイルエクストラS　75W-90 (GL-5相当)		
	規定量	5 MT車		約3.5 ℓ
		6 MT車		約4.1 ℓ
	交換時期	40,000 kmごと		
トランスミッションオイル (オートマチック車)	使用オイル	スバルATF		
	規定量	ターボ車		約9.5 ℓ
		ターボ車以外		約8.4 ℓ
	交換時期	40,000 kmごと		
フロントデファレンシャルオイル (オートマチック車)	使用オイル	スバルギヤオイルエクストラS　75W-90 (GL-5相当)		
	規定量	約1.2 ℓ		
	交換時期	40,000 kmごと		

＊：エンジンオイル消費量は新車時から数千km走行すると安定しはじめます。
また、厳しい運転条件（悪路、山道、登降坂路、交差点等での急加減速の繰り返し、またはエンジンの高回転使用頻度が高い等）での走行時は、通常に比べてエンジンオイルの消費が早くなることがあります。このような使用の頻度が高い場合、1000 km 走行あたり0.5 ℓ～1 ℓ 消費する場合があります。早めの点検・補給をお奨めします。

<table>
<tr><td rowspan="6">リヤデファレンシャル
オイル
（AWD車）</td><td>量の判定基準</td><td colspan="4">フィラープラグ穴下端より
0～－5 mm間にあること</td></tr>
<tr><td>使用オイル</td><td colspan="4">スバルギヤオイルエクストラS　75W-90
（GL-5相当）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">規定量</td><td colspan="2">AT車</td><td colspan="2" rowspan="2">約0.8 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="2">5MT車</td></tr>
<tr><td colspan="2">6MT車</td><td colspan="2">約1.0 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="7">冷却水</td><td>使用冷却水</td><td colspan="4">スバルクーラント</td></tr>
<tr><td rowspan="4">規定量</td><td rowspan="2">ターボ車</td><td>AT</td><td colspan="2">約7.3 ℓ</td></tr>
<tr><td>MT</td><td colspan="2">約7.4 ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ターボ車以外</td><td>AT</td><td colspan="2">約6.5 ℓ</td></tr>
<tr><td>MT</td><td colspan="2">約6.6 ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交換時期</td><td>1回目</td><td colspan="3">40,000 kmまたは3年目
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td>2回目以降</td><td colspan="3">40,000 kmごと、または2年ごと
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パワーステアリングの
フルード</td><td>使用フルード</td><td colspan="4">スバルPSフルード</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="4">約0.7 ℓ</td></tr>
<tr><td>ブレーキフルード</td><td>使用フルード</td><td colspan="4">スバルブレーキフルード</td></tr>
<tr><td>ドラムブレーキのシュー
のライニング摩耗限度</td><td>後輪ディスク
ブレーキの
駐車ブレーキ</td><td colspan="4">標準厚さ：3.2 mm、使用限度：1.5 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ディスクブレーキの
パッドの摩耗限度</td><td rowspan="2">前輪</td><td>STI</td><td colspan="3">標準厚さ：9.2 mm、
使用限度：1.2 mm</td></tr>
<tr><td>STI以外</td><td colspan="3">標準厚さ：11.0 mm、
使用限度：1.5 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後輪</td><td>STI</td><td colspan="3">標準厚さ：9.0 mm、
使用限度：1.2 mm</td></tr>
<tr><td>STI以外</td><td colspan="3">標準厚さ：9.0 mm、
使用限度：1.5 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="4">点火時期
[アイドリング時：
エアコンOFF時]</td><td></td><td colspan="3">マニュアル車</td><td>オートマチック車</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ターボ車</td><td>5MT車</td><td colspan="2">BTDC12°/
650 rpm</td><td rowspan="2">BTDC12°　/
700 rpm</td></tr>
<tr><td>6MT車</td><td colspan="2">BTDC12°/
700 rpm</td></tr>
<tr><td>2.0 ℓ
SOHC車</td><td colspan="3">BTDC13°　/610 rpm</td><td>BTDC13°　/
650 rpm</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">弁すき間（冷態時）</td><td rowspan="2">ターボ車</td><td>吸気</td><td>0.20 mm</td></tr>
<tr><td>排気</td><td>0.35 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ターボ車以外</td><td>吸気</td><td>0.20 mm</td></tr>
<tr><td>排気</td><td>0.25 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="4">エンジンのタイミングベルト</td><td>使用ベルト</td><td colspan="2">専用タイミングベルト</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">100,000 kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3">(1) エンジンタイミングベルト（ベルトカバー内）
(2) 交換表示ラベル</td></tr>
</table>

<タイヤ・ホイール>

- 標準装着タイヤ、応急用スペアタイヤおよび装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。
- 参考：標準装着タイヤおよび応急用スペアタイヤ（車種・グレードによって異なります）

▼ホイールサイズ

タイヤサイズ	ホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	オフセット量
215/60R16	16×6 1/2JJ	100	48
215/55R1 7	17×7JJ	100	48
225/45R18	18×7 1/2JJ	100	48
T135/80D16	16×4T	100	50
T135/90D16	16×4T	100	50
T155/70D17	17×4T	100	40

▼タイヤ空気圧

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa（kgf/cm²）	
	前輪	後輪
215/60R16	200（2.0）	190（1.9）
215/55R17	220（2.2）	210（2.1）
225/45R18	230（2.3）	220（2.2）
T135/80D16	420（4.2）	
T135/90D16		
T155/70D17		

▼タイヤの位置交換と交換時期

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）時期	5,000 kmごと
タイヤの溝の深さ	1.6 mm以上

さくいん

あ

アームレスト …………………2－34
アクティブトルクスプリットAWD
…………………………3－49
アクティブヘッドレスト ………2－30
アッパーセンターポケット ……4－38
雨の日の運転 …………………1－17
アンチロックブレーキシステム（ABS）
…………………………3－56
警告灯 …………… 3－27、3－57
アンテナ ………………………4－ 9
アンブレラボックス …………4－40

い

イグニッションキー照明 ………3－ 4
ISO-FIX固定バーおよびテザーアンカー
…………………………2－46
イモビライザー ………………2－ 3
イラスト目次 …………………0－ 1
インストルメントパネルポケット・4－38
Info-ECOモード
スイッチ ……………………3－46
表示灯 ………………………3－22

う

ウインカー（方向指示器）
バルブ（電球）の交換 ………6－20
表示灯 ………………………3－21
レバー ………………………3－ 9
ワット数 ………… 6－20、6－21
ウインドゥデフォッガースイッチ・3－15
ウエアインジケーター …………6－ 8
ウォッシャー液
寒冷地での使いかた …………5－ 4
スイッチ ……………………3－11
タンク ………………………3－12
ウォッシャー液の濃度調整 ……5－ 4
運転装置の使いかた …………3－30

え

エアコン ……………………… 4－ 2
位置と名称 ………………… 4－ 2
エアフィルターの交換 ……… 6－32
オートエアコン …………… 4－ 4
使いかた …………………… 4－ 8
吹き出し口 ………………… 4－ 2
AWD（四輪駆動）
AWD車の運転 ……………… 3－47
強制解除 …………………… 7－ 4
警告灯 ……………………… 3－28
ABS（アンチロックブレーキシステム）
…………………… 3－56
警告灯 …………… 3－27、3－57
SRSエアバッグシステム ……… 2－49
SRSエアバッグ警告灯 ……… 3－27
作動しないとき …………… 2－58
作動しにくいとき ………… 2－56
作動するとき ……………… 2－55
SRSエアバッグシステム（サイド）
作動しないとき …………… 2－61
作動しにくいとき ………… 2－59
作動するとき ……………… 2－59
FWDヒューズホルダー ……… 7－ 4
MD
MDについて ………………… 4－10
MDを聞くとき ……………… 4－22
エンジンオイル ……………… 8－ 3
オイルプレッシャー警告灯 … 3－26
寒冷地での使いかた ………… 5－ 3
エンジンキー照明 …………… 3－ 4
エンジン警告灯 ……………… 3－25
エンジンスイッチ …………… 3－ 2
エンジンブレーキ …………… 1－18

お

オイルプレッシャー警告灯 …… 3－26
応急用スペアタイヤ …… 7－ 3
　格納場所 …… 0－11、7－ 3
　空気圧 …… 8－ 6
　サイズ …… 8－ 6
オーディオシステム …… 4－ 9
オートエアコン …… 4－ 4
オートヘッドランプレベラー
　（自動光軸調整機構）…… 3－ 6
　警告灯 …… 3－ 6、3－29
オートマチック車
　運転手順 …… 3－39
　スポーツシフト …… 3－43
　セレクトレバー …… 3－35
オートマチック車の運転 …… 3－35
オーバーヒートしたとき …… 7－18
オドメーター …… 3－20

か

カーゴフック …… 4－44
カーゴルームバー …… 4－45
カーゴルームランプ
　使いかた …… 4－49
　バルブ（電球）の交換 …… 6－21
　ワット数 …… 6－21
外気温表示 …… 3－23
外装の手入れ …… 6－10
買い物フック …… 4－45
カップホルダー …… 4－30
ガラスの手入れ …… 6－12
間欠ワイパー …… 3－10
寒冷地での使いかた …… 5－ 1

き

キー …… 1－ 2、2－ 2
キー閉じ込み防止機能 …… 2－ 9
キー抜き忘れ警報 …… 2－10、3－ 4
キックダウン …… 1－10

く

クラッチスタートシステム
　…… 1－26、3－30
クリープ現象 …… 1－10
車の手入れ …… 6－ 9
グローブボックス …… 4－33

け

警告灯 …… 3－25
けん引のとき …… 7－14

こ

コイントレイ …… 4－37
工具 …… 7－ 2
光軸調整ダイヤル …… 3－ 7
後席暖房 …… 4－ 3
高速道路、自動車専用道路で
　動けなくなったとき …… 7－12
故障したとき …… 7－12
故障時の対応方法と連絡先 …… 7－13
小物入れ …… 4－33
コンソールボックス …… 4－36
コンソールボックス（センター）・4－36

さ

サービスデータ …… 8－ 2
サスペンション …… 3－50
サブトランク …… 4－40
サンバイザー …… 4－32
サンルーフ …… 2－21
　サンシェード …… 2－23
　閉まらないとき …… 2－23
　操作 …… 2－21

し

CD
　CDについて…………………4－10
　CDを聞くとき……… 4－15、4－24
シート
　正しい運転（乗車）姿勢………2－24
　フロントシート………………2－26
　リヤシート……………………2－31
シートの調整………… 2－26、2－27
シートヒーター…………………2－30
シートベルト……………………2－35
　警告灯……………… 2－39、3－26
　高さ調整（ショルダーアジャスター）
　　………………………2－40
　正しい着用……………………2－35
　チャイルドシート固定機構……2－44
　プリテンショナー……………2－40
シガレットライター……………4－44
事故が起きたとき………………7－22
自動光軸調整機構
　（オートヘッドランプレベラー）
　　………………………3－ 6
　警告灯……………… 3－ 6、3－29
シフトダウン……………………1－18
シフトポジション表示灯………3－23
シフトロック解除ボタン………3－38
シフトロックシステム‥ 1－13、3－38
ジャッキアップポイント………7－ 7
ジャッキ、ジャッキハンドル……7－ 2
集中ドアロック…………………2－ 9
ショルダーアジャスター………2－40

す

水温計…………………………3－19
スタッドレスタイヤ（冬用タイヤ）
　　………………………1－20
スノーホールドモード
　表示灯…………………………3－21
　スイッチ………………………3－45
スパークプラグ…………………8－ 2
スピードメーター……………3－18
スポーツシフト………………3－43
スポットマップランプ
　使いかた……………………4－48
　バルブ（電球）の交換………6－20
　ワット数……………………6－20
スライド調整（前後の調整）……2－26

せ

セルフレベリングサスペンション 3－50
セレクトポジション表示灯……3－23
セレクトレバー………………3－35
洗車のしかた…………………6－10

そ

速度計（スピードメーター）……3－18

た

タイヤ
　ウエアインジケーター………6－ 8
　応急用スペアタイヤ…………7－ 3
　回転方向指定タイヤ…………6－14
　空気圧……………… 6－ 6、8－ 6
　サイズ………………………8－ 6
　スタッドレスタイヤ（冬用タイヤ）
　　………………………1－20
　タイヤ交換………… 6－14、7－ 5
　タイヤローテーション（位置交換）
　　………………………6－14
　チェーン……………………5－ 2
　点検…………………………6－ 5
タイヤホイール………………6－ 5
　アライメント………………6－ 8
　バランス……………………6－ 7
タコメーター…………………3－18

ち

チェンジレバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3－33
チャージ警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3－27
チャイルドシート固定機構付
シートベルト ・・・・・・・・・・・ 2－44
チャイルドプルーフ ・・・・・・・・・・・・・ 2－10
駐車
寒冷地での使いかた ・・・・・・・・・・・ 5－ 9
駐車灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3－17
駐・停車するときに ・・・・・・・・・・・ 1－21
ブレーキ警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3－25
ブレーキレバー ・・・・・・・・・・・・・・・ 3－32
チルトステアリング ・・・・・・・・・・・・・ 2－64

て

テザーアンカー ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－46
電球（バルブ）
交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6－20
ワット数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6－20
電源ソケット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4－42
電動格納式ミラー ・・・・・・・・・・・・・・・ 2－65
電動ガラスサンルーフ ・・・・・・・・・・・ 2－21
サンシェード ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－23
閉まらないとき ・・・・・・・・・・・・・・・ 2－23
操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－21
電動リモコンドアミラー ・・・・・・・・・ 2－65
電波式リモコンドアロック ・・・・・・ 2－ 6

と

ドア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－ 5
開閉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－ 5
施錠・解錠 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－ 6
半ドア警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3－26
ドアミラー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－65
時計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4－50
トノカバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4－41
トリップメーター ・・・・・・・・・・・・・・・ 3－20

な

内装の手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6－12

に

日常の手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6－ 9

ね

燃料
使用燃料 ・・・・・・・・・・・・・1－ 6、2－15
タンク容量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－15
燃料計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3－18
燃料残量警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3－26
燃料補給口 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－15

は

パーキングランプ（駐車灯）
スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3－17
灰皿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4－34
ハイビーム／パッシング表示灯 ・・ 3－21
ハザードランプ（非常点滅灯）
スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3－16
ワット数 ・・・・・・・・・・・・・6－20、6－21
発炎筒 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7－10
パッシング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3－ 6
バッテリー
型式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8－ 2
寒冷地での使いかた ・・・・・・・・・・・ 5－ 4
バッテリーが上がったとき ・・・・ 7－20
バニティミラー ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4－32
バルブ（電球）
交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6－20
ワット数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6－20
パワーウインドゥ ・・・・・・・・・・・・・・・ 2－11
パワーウインドゥの初期設定 ・・・・ 2－13
パワーシート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－27
リクライニング調整（背当て角度の
調整）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2－28
パンクしたタイヤの格納 ・・・・・・・・ 7－ 9
番号表示灯（ライセンスランプ）
バルブ（電球）の交換 ・・・・・・・・ 6－21
ワット数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6－21
半ドア警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3－26

ひ

ヒーテッドドアミラー…………2－66
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ…………………3－16
ワット数………… 6－20、6－21
ビスカスLSD付センターデフ方式
フルタイムAWD………3－48
ヒューズの点検・交換…………6－26
表示灯……………………3－21

ふ

VDC
OFF表示灯………………3－28
警告灯……………………3－28
作動表示灯………………3－22
VDC（ビークルダイナミクス
コントロール）…………3－51
VTD-AWD…………………3－48
フォグランプ
表示灯……………………3－24
スイッチ…………………3－14
踏切で動けなくなったとき………7－12
フューエルメーター（燃料計）……3－18
フューエルリッド（燃料補給口）…2－15
冬の前の準備、点検……………5－ 2
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）1－20
プラグ（スパークプラグ）………8－ 2
プリテンショナー付シートベルト・2－40
ブレーキ警告灯…………………3－25
フロントウォッシャー…………3－11
フロントシート…………………2－26
アームレスト……………4－35
アクティブヘッドレスト………2－30
シートヒーター…………2－30
パワーシート……………2－27
ヘッドレストの高さ調整………2－29
マニュアルシート………2－26
ランバーサポート（腰部支え調整）
……………………2－29
フロントシートベルト…………2－38
フロントフォグランプスイッチ……3－14
フロントフォグランプ表示灯……3－24
フロントヘッドコンソール……4－37
フロントワイパー………………3－10
フロントワイパーデアイサー
スイッチ……………3－15

へ

ヘッドランプ
合図のしかた（パッシング）…3－ 6
オートヘッドランプレベラー
（自動光軸調整機構）……3－ 6
光軸調整ダイヤル…………3－ 7
上下を切り替えるとき………3－ 5
ハイビーム／パッシング表示灯 3－21
バルブ（電球）の交換………6－20
表示灯……………………3－21
ワット数…………………6－20
ライティングスイッチ………3－ 5
ヘッドレスト……………………2－29

ほ

方向指示器（ウインカー）
バルブ（電球）の交換………6－20
表示灯……………………3－21
レバー……………………3－ 9
ワット数………… 6－20、6－21
ホーンスイッチ…………………3－17
ボディカバー……………………6－ 9
ボトルホルダー…………………4－31
ボンネット………………………2－17

ま

マニュアルシート
上下調整 …………………… 2－27
スライド調整（前後の調整）… 2－26
リクライニング調整（背当て角度の
調整）………………… 2－26
マニュアルモード …………… 3－43
マルチボックス ……………… 4－39
万一のとき …………………… 7－ 1

み

ミストスイッチ ……………… 3－10
ミラー
ドアミラー ………………… 2－65
バニティミラー …………… 4－32
ルームミラー ……………… 2－64

め

メーター …………………… 3－18

ゆ

雪道走行 …………………… 1－20

よ

四輪駆動（AWD）
AWD車の運転 ……………… 3－47
強制解除 …………………… 7－ 4
警告灯 ……………………… 3－28

ら

ライセンスランプ（番号表示灯）
バルブ（電球）の交換 ……… 6－21
ワット数 …………………… 6－21
ライティングスイッチ ……… 3－ 5
ラジオ
受信について ……………… 4－ 9
放送局を記憶するとき 4－15、4－21
ラジオを聞くとき …… 4－14、4－20
ランバーサポート（腰部支え調整）
…………………… 2－29

り

リクライニング調整（背当て角度の調整）
…… 2－26、2－28、2－31
リモコンキーの電池交換 ……… 6－34
リヤウインドゥデフォッガー
スイッチ …………… 3－15
リヤゲート ………………… 2－19
リヤシート ………………… 2－31
アームレスト ……………… 2－34
ピローの高さ調整 ………… 2－31
リクライニング調整（背当て角度の
調整）……………… 2－31
6：4分割リヤシート ……… 2－32
リヤシートベルト …………… 2－42
リヤフォグランプ
スイッチ ………………… 3－14
表示灯 …………………… 3－24
リヤワイパー／ウォッシャー …… 3－11

る

ルームミラー ……………… 2－64
ルームランプ
スイッチ ………………… 4－47
バルブ（電球）の交換 ……… 6－20
ワット数 ………………… 6－20

ろ

6：4分割リヤシート ……… 2－32
路上で動けなくなったとき …… 7－13

わ

ワイパーデアイサー ………… 3－15
ワイパーブレードの交換 …… 6－16
ワイパー＆ウォッシャースイッチ
……………3－10、3－11

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項
　型式・車台番号・登録番号・登録年月日
②走行距離
③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール　0120－052215

受付時間　9:00～17:00(平日)、土日祝は9:00～12:00、13:00～17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
(1) ご意見／ご感想／ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）
(2) お問合せ／ご相談
※平日の12:00～13:00および土日祝は（1）のインフォメーションサービスのみとなります。

富士重工業株式会社
スバルカスタマーセンターお客様相談部
〒160-8316　新宿区西新宿1-7-2（スバルビル）

編集・発行　富士重工業株式会社

スバルカスタマーセンター
カスタマーセンター企画部

FORESTER SG5-119001～199999,SG9-008001～099999